国立国語研究所学術情報リポジトリ

沖縄県八重山鳩間島方言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003035

方言録音資料シリーズ－15

沖縄県八重山鳩間島方言

国立国語研究所

1973

このテキストは、方言研究のための資料として
つくられたものであり、録音テープは国立国語研
究所に保管されている。

「方言録音資料シリーズ」責任編集者
上村幸雄（国立国語研究所　第一研究部　話しことば研究室長）

この巻の編著者
加治工真市（沖縄県立工業高等学校教諭　国立国語研究所地方研究員）

もくじ

1. 年中行事 …… 9

2. 鳩間島の昔話 …… 34

そ の (I) …… 34

そ の (II) …… 35

そ の (III) …… 38

3. 鳩間島の漁業について …… 40

(1) 鰹船の話（帆船から機械船へ） …… 40

(2) 追い込み漁業の話 …… 53

(3) 角叉の話（干瀬の話） …… 70

(4) 沖つりの話（魚の名前） …… 81

4. 鳩間方言の録音 …… 89

(1) 鳩間島における産育の思い出 …… 90

(2) 鳩間島における織物の思い出 …… 108

(3) 鳩間島における稲作の思い出 …… 121

沖縄県八重山鳩間島方言

1. 収録地点

沖縄県八重山竹富町鳩間島

2. 地点の概観

「鳩間島は、八重山群島中最大の面積を有し、かつ、陸産物に比較的恵まれている西表島の北に位する、周囲4.２６粁の島である。最短距離にある対岸の西表島上原部落までは、約５粁、モーター付小舟で約１時間の里程である。

島は隆起珊瑚礁を基盤とし、同島南部においては、西表石炭層と同質の第三紀砂岩がその上に乗っかって島の最高峯を形成するが、標高は僅か３４米である。この高地が民謡「鳩間節」で名高い鳩間中森である。現鳩間村は南斜面の中腹に位する１ケ所にまとまった世帯数８３の集村である。中森丘陵は、島の南海岸に沿って形成されているので、平地は島の北東から北西にかけて展開する。」

（１９５９年６月「文化財要覧」高宮広衛著、参照）。

鳩間村は１９５３年までは、戸数１２０戸余、８００人余の人口を有していたが次第に沖縄本島や石垣島に移住し、１９６０年には戸数８３戸、435人になった。その後、八重山の各離島では過疎化現象が一段と激しくなり、現在では、鳩間島は２１戸、６７人と人口が激減し、島にとって深刻な問題となっている。

島の産業は半農半漁で、農業は主として西表島の北岸一帯で稲作に従事するが、島においても畑を耕作したりし、養豚に従事したりする者もある。漁業は、１９６６年までは鰹業が盛んであったが、人口激減にともなって石垣島に工場を移し、現在では鰹業は全く行われていない。戦前養殖した海草(ツノマタ)は毎年夏に収穫され、島の大きな現金収入源の１つとなっている。

3. 鳩間方言について

「八重山方言の中でも波照間方言と与那国方言はそれぞれ１つの方言として区画できる」（方言学講座、vol４，Ｐ２０参照）から鳩間方言は、その他の方言と同じく１つの区画内に入れて扱ってもよいと考えられる。

3.1 音　声

国立国語研究所、話しことば研究室指定の記号によって鳩間方言の音節表を示すと次のようになる。

'i	'e	'a	'o	'u	'ja	'ju	'jo	'wa
hi	he	ha	ho	hu	hja	hju	hjo	—
fi	fe	fa	fo	fu	—	fju	—	—
ki	ke	ka	ko	ku	kja	kju	kjo	kwa
gi	ge	ga	go	gu	gja	gju	gjo	gwa
pi	pe	pa	po	pu	pja	pju	pjo	—
bi	be	ba	bo	bu	—	bju	bjo	—
mi	me	ma	mo	mu	—	mju	mjo	—
ti	te	ta	to	tu	—	—	—	twa
ci	ce	ca	co	cu	cja	cju	cjo	—
di	de	da	do	du	—	—	—	—
ni	ne	na	no	nu	—	nju	—	—
ri	re	ra	ro	ru	—	rju	—	—
zi	ze	za	zo	zu	—	zju	zjo	—
si	se	sa	so	su	—	sju	sjo	—
Q								
'N								

3.1.1　音声の特色

鳩間方言の主な音声上の特色をあげると次のようになる。

1）喉頭音ʔは、音声的には、〔ｉ，ｅ，ａ，ｏ，ｕ〕のすべての母音の前と、撥音Ｎの前にたち得るが、弁別的特徴をもたず、従って音韻的には意味をもたない。

2）破裂音ｐ,ｔ,ｋは普通は有気音〔pʻ tʻ kʻ〕として現われる。しかし、促音の場合は無気音〔p'ｔ'k'〕となって現われる。従って、これも音韻的には非弁別的特徴として考えてよい。たゝし〔p〕は厳密には半有声と考えられる。

3）唇歯音ｆは〔ｉ，ｅ，ａ，ｏ，ｕ〕のいづれの母音の前にもたち得るが、必ず促音〔Ｑ〕を伴なって現われ、その有声音〔Ｖ〕をもたない。

従って、音韻的には／ｈ／の異音として解釈することもできる。

4）ｈは母音〔ｅ，ｏ〕の前では〔ｈ〕であるが、〔ｕ〕の前では〔ɸ〕となり、〔ｉ〕の前では〔ç〕となる傾向がある。

5）ｃは音声的には〔ｉ，ｅ，ａ，ｏ，ｕ〕のいづれの母音の前にもたち得る。つまり、〔tʃi, tʃe, tʃa, tʃo, tʃu〕となる。この他に〔tsa, tso, tsu〕もある。しかし〔tsi，tse〕はない。従ってこれらは音韻的には相補分布をなすものと考えられるから同一音素として扱うことができる。〔tʃ〕，〔ts〕は同一音奏の異音と考えられる。

6）ｚは音声的には、母音〔ｉ，ｅ〕の前では〔dʒ〕であり、〔ａ，ｏ，ｕ〕の前では原則として〔dz〕がたつ。しかし、語によっては〔dʒ〕もたち得る。従ってこれも音韻的には相補分布をなすものと解釈される。

7）ｓは〔ｉ，ｅ〕の前では〔ʃ〕であり、〔ａ，ｏ，ｕ〕の前では原則として〔ｓ〕である。従ってこれも音韻的には、相補分布を示すから１つの音素として解釈される。

8）無声子音と無声子音の間にたつ母音は無声化する傾向が強い。

3.2　共通語との音韻対応

鳩間方言と共通語との音韻の対応関係について略述する。

3.2.1　母　　音

鳩間方言には次のような、長母音、短母音の２つの母音が認められる。

長母音　　i：，e：，a：，o：，u：

短母音　　i，(e)，a，(o)，u（ただし、e，oの２母音は、N，Qの直前にのみ現われ、それ以外の環境では常に長母音として現われる。）

共通語との対応関係は次のとおり

共通語　　a，i，u，e，o

鳩間方言　a，i，u，i，u（共通語のe，oは鳩間方言ではi，u）

例　①〔huni〕≪舟≫，〔nitʃi〕≪熱≫，〔paniruN〕≪はねる≫

②〔kukuru〕≪心≫，〔kutuba〕≪言葉≫，〔jumuN〕≪読む≫

3.2.2　連母音

共通語の連母音ai,ae,aoは、鳩間方言ではそれぞれe：，o：とはならず、ai,auとなる。これは、沖縄本島方言と異なる大きな特徴である。

例えば

共通語　　ai,ae,ao,au

鳩間方言　ai,ai,au,au

瀬底方言　e：,e：,o：,o：となっている。語例は次のとおり

〔mai〕≪米≫，〔mai〕≪前≫，〔pai〕≪蠅≫，〔pai〕≪南方≫，〔sau〕≪竿≫，〔pauN〕≪はう≫，〔parauN〕≪払う≫

3.2.3　係助詞　－ja　≪～は≫が、ある形式に下接する際、その直前の形式の末尾母音が－u，－iであると、音節構造のちがいによって次の変化が起こる。

(イ)　cvcv構造の場合

－u＋ja→o：，例　paku ≪箱≫ ＋ ja≪は≫→pako：≪箱は≫

－i＋ja→e：，例　huni ≪舟≫ ＋ ja≪は≫→hune：≪舟は≫

(ロ) cvv 構造の場合

—u + ja → u wa:　例　bau ≪棒≫ + ja ≪は≫ → bauwa:≪棒は≫

—i + ja → i ja:　例　nai ≪地震≫ + ja ≪は≫ → naija:≪地震は≫

3.2.4 子音

(イ) 共通語のクは鳩間方言では、原則的に、h，fに対応するが、語によっては、語中、語尾においてkにも対応する。例えば、

〔Qfo:N〕≪黒い≫，〔hunabu〕≪九年母≫，〔hutʃi〕≪口≫，〔QfuN〕≪食う≫，〔makuN〕≪巻く≫，〔sakuN〕≪裂く≫，〔juku〕≪欲≫

(ロ) 共通語のハ行音は原則的には、鳩間方言ではp音に対応するが、フのみは例外的にhに対応する。たとえば

ハ；〔pama〕≪浜≫，ヒ；〔pi:〕≪火≫，ヘ；〔pi:tai〕≪兵隊≫

ホ；〔puni〕≪骨≫

フ；〔huni〕≪舟≫（フとホの対立）

(ハ) 共通語のワ行音は鳩間方言ではbに対応する。例えば

〔ba:〕≪吾≫，〔bakuN〕≪分ける≫，〔baka:munu〕≪若者≫，〔barauN〕≪笑う≫

(ニ) 共通語のス、ズは鳩間方言ではそれぞれsi,ziに対応し、ツはsiとciに対応する。たとえば

〔uʃi〕≪臼≫，〔kaSi〕≪かす≫，〔ʃi:ʃi〕≪すゝ≫，〔mizi〕≪水≫

〔kizi〕≪傷≫，〔kazi〕≪数≫，〔ʃimi〕≪爪≫，〔matʃi〕≪松≫

〔itʃi〕≪いつ≫

3.3 文　法

3.3.1 名　詞

鳩間方言の名詞には、特定の助詞がつくと融合変化を起こすことがある。次に融合変化を起こさない例と、起こす例を示す。

① －nu ≪～が≫（主格）

huni －nu ke:N ≪船が来た≫

② －nu ≪～の≫（所有格）

huni －nu para: ≪船の帆柱≫

③ －ba ≪～を≫（目的格）

huni －ba kauta ≪船を買った≫

④ －na: ≪～に≫（場所を示す）

huni －na: nu:ruN ≪船に乗る≫

⑤ －tu ≪～と≫（相手を指す）

huni －tu su:bu suN ≪船と競争する≫

⑥ －ba:ki ≪～まで≫（到達する地点、場所を示す）

kuma －ba:ki ku: ≪ここまで来い≫以上の諸例では名詞の語形変化は認められないが、次の格助詞が名詞に下接するとき、名詞の末尾母音が狭母音ｉ，ｕで終わる語は、それぞれ融合変化を起こして、広母音 e:,o:のように長音化する。たとえば

⑦ －ra ≪～より≫（比較）

hune: －ra maSi du jaru ≪船よりましである≫； huni,

⑧ －ra ≪～から≫（動作の起点を示す）

patake: －ra ku:ta ≪畑から来た≫； pataki,

⑨ (－he) ≪～へ≫（方向を示す）

patake: pare:N ≪畑へ行った≫

⑩ －ja ≪～は≫（係助詞　とりたて）

hune: ikKeN paruN ≪船は非常に速い≫

3.3.2　動　詞

「琉球方言の動詞の終止形は、宮古方言を除いては、文語の動詞の連用形に『居り』が複合して出来た形である。たとえば、katʃuNは『書ク』にそのまゝ対応する形でなく、kaki ＋ wuN（書き居り）に対応する形である。」（「方言学講座」第四巻）とされている。

ところで、鳩間方言動詞の終止形の場合は、沖縄本島方言動詞の終止形、katʃuNのように口蓋化せず、kakuN となる。これは鳩間方言動詞の大きな特徴の１つで、活用形はごく大まかに次のように示すことが出来る。

① 志向形　di: ma:zuN　Zi: kaka　≪さあ、一緒に字を書こう≫
② 否定形　kuriSe:　Zi: kakanu　≪これでは、字は書かない≫
③ 連用形　wa: ja kaki ba: ja jumi sa:≪君は書き、私は読み、しよう≫
④ 接続形　abati kakiti: parana:　≪早く書いて　行こうねぇ≫
⑤ 終止形　bannuN　Zi: kakuN　≪私も字を書く≫
⑥ 連体形　Zi: kaku puso:　ta:ja:　≪字を書く人は誰か≫
⑦ 条件形　wa: kakibaru　ba: jumari: da:≪君が書いたらこそ、私には読めるのだ≫
⑧ 命令形　Zi: kaki　≪字を書け≫
⑨ 禁止形　wa: kakuna　≪君は書くな≫

（「方言学講座」第４巻　Ｐ３８参照）

3.3.3　形容詞

琉球方言の形容詞の活用形には(イ)語幹＋-sa＋「有り」と、(ロ)語幹＋Sa＋「有り」の２つの系統があって、それが国語形容詞のク活、シク活に対応すると言われている。

鳩間方言の場合は、大まかに分けて、－aN 系と、－saN系にわけられる。ただし、－aN 系はク活用に、－saN系はシク活用に対応する。たとえば

① ク活用　≪高い≫ ; taka:N
　　≪早い≫ ; paja:N
　　≪若い≫ ; baka:N
② シク活用　≪珍らしい≫ ; mizirasaN
　　≪忙しい≫ ; pantasaN
　　≪可愛い≫ ; kanasaN

4. 話者について

1. 氏　名　加治工伊　佐（男）明治３８年１２月２３日生　半農半漁
   生活歴　(イ)明治３８年１２月２３日、鳩間島にて出生、現在に至る。
   (ロ)兵役なし
   学　歴　(イ)鳩間島尋常小学校（６年）卒
2. 氏　名　加治工モウシ（女）明治３８年１１月２８日生　農業、家事
   生活歴　(イ)明治３８年１１月２８日、鳩間島にて出生、現在に至る。
   学　歴　(イ)鳩間島尋常小学校（６年）卒
3. 氏　名　大　城サカイ（女）明治３６年７月２６日生　農業、家事
   生活歴　(イ)明治３６年７月２６日、鳩間島にて出生、現在に至る。
   学　歴　(イ)鳩間島尋常小学校（６年）卒

聞き手

1. 氏　名　加治工真　市（男）昭和１３年８月１３日生　教員
   生活歴　鳩間島で出生（０～１６才）、石垣島（高校在学）１６～１８才
   那覇市（２０才～３２才）、大学卒、就職、現在に至る。

1　年中行事について

話　者（W）　加治工　モウシ
聞き手（M）　加治工　真市

M　(注1) Patuma-nu (注2) icineN zju:-nu gjo:zi gjo:zi: nu:si
鳩間（島）の　一年中の　行事　行事（は）　どんな

(注3) bu:mu-nu (注4) aro:ru-kaja: (注5)
もの　が　あられますかねえ。

W　a: nu:si bu:mu-nu aru kaja:-ti (注6) si a:i (注7) mati-ba:
あゝ，どんな　もの　が　ある　かねえって　言って(も)。いや　まて　よ。

nu:si bu:mu-nu aro:ru-kja:-Qci (注8) si: wa: ure:
どんな　もの　が　あられるだろうか。といったって君，それは。

M　e: izuka: (注9) me: (niNga a:) ici pazime:
ええと，言うならば　その，(言いなおし)　いちばん初めは

niNgaci-niNgai-ra: (注10) hazimaro:ru-wa-na: (注11)(注12) unu (注13)
二月願　から　はじめられます　ねえ。　その

niNgaci niNgai-nu kare: (注14) nusi-ru so:ru-kaja: (注15)
二月　願い　の　あれは　どのようにして(ぞ)なさるのでしょうか。

W　ure: me: iQkaneNzu:-nu (nigai nigai) nigai-nu
それは　もう　一ケ年　中　の　(言いなおし)　願い　の

nigaigutu-nu sinakazi (注16) go:kazi ure: me: (注17)(注18) ba:-ja
願いごとの　いろいろ　それは，まあ，　私　は

wakare: sanu nigai pusuNkeN-du (注19) Qso:ru nu:nu nigai
知りは　せぬ。　願い　人たち　(ぞ)が　知っておられる。何の願い，

ku(:)N nigai-ti su:mome: ba:-ja wakaranu-nu (uNma)
かんの願い と いうものは 私 は わからない が (そのときは)

iQcineN zu:-nu nigai hazimi: no:Nku-nu nigai
一年 中 の 願い はじめ 何やかの 願い (は)

(注20)
niNgaciN nigai-na:-ru me: hukumari bu:juN-da: uN
二月 願に (ぞ) その 含まれて いるのだから そのとき

nigai o:ru-ka: me: pu:ru-na: o:ri rukuNgaci-nu
祈願 されると もう 豊年祭に おいて, 六月 の

pu:ru-na: o:riruta: baNpazi-Qti si: unu nigai
豊年祭に いらっしゃってまた "願ほどき"といって その 願い

(注21)
o:re:nu: (mi) huko:rasa: Qsaro:ru sizi-co:
なされたところの (ぶん) 感謝を 申し上げられる わけさ。

(注22)
M o:
はい。

W Qti Qso:ru-juNda me: nigai gutu-ni juQti
そういうわけ であるから その 願いごとに よって

(注23)
niNgaci niNgai-na: nigaikaki o:ruNkeN gi: me:
二月 願 に 願いかけ なさると, もう

ni:Nzu:-nu pu:ru-nu o:ruNke:N nu:-nu (せきばらい)nanika:
年中 の 豊年祭 が やってこられるまでに 野の 何か

ujaza: da:Sina munu: pataki-na: ziru musi da:si
ねずみ などのような もの, 畑に 出る 虫 (の) たくいの

注24
mu-nu sidiru baso: mata uri-nu so:zi:-N si:
ものが, すでる ときは, また, その 「お秋いごと」をもして

(注25)
Qfo:ri:-ti si: burako:-ra mu:ru aQpata:-ni
下さいと いって, 部落から みな 司のバーサン方に

sakasaNke:N nigai o:ru-wa-na: Qsaro:ru-wa-na:
"司"方に お願い なさるよ ねえ。 申し上げられるよねえ。

(注26)
tanamo:ri-ba unu baso: ta: mata uNna: nigai-ja:
お頼みになると その ときは (また) また そんな 頼 は

si:　si:　so:ru　mu:N-nu　me:　kazu　gju:ci-ru　aro:ru-ju:
したり　して　なさる　ものが，　その，　数，　いくつ（そ）が　あられるのやら

wakaraN sizi-gja:
わからない　わけ　さ。

注27
wakara-juNda:　me:　unu　tusi:-ni　juQti:　kaija:　ro:ru
わからないのたから，　もう，　その　年　に　よって，　きれな

tusi　jaro:ru-ka:ja　pataki-nu　nu:Nkui　sikaNto:si
年で　あられるなら　畑の　いろいろなもの(も)　付かないで，

kaija:ro:ru　tusi　jaru-ka:-ja:　niNgaci-nu　niNgai-na:
きれいな　年で　ある　ならば　二月の　願いに

nigai o:ru　ubisi:　rukuNgaci-ba:ki　Nkai　o:ru-nu
願われる　それだけで　六月まで　むかえ　なさるが，

nu:Nkui-nu　pataki-nu　suku:　tusi-nu　ataru-ka:　me:
いろいろのものが　畑（の）に　つく　年が　あたるのならば，もう

tu:-N　tu:amari:-N　me:　nigaiguto:　Nzi:ki:suNda:
十も，　十あまりも，　その　願いごとは　出て来ますので，

ubi　nigai　o:re:nu　nigai o:riba　me:　kaN-nu　mai-nu
それだけ　願い　なされたところの，願いなされると，　その　神の　御前が(神様が)，

mamuri　tabo:re:ti　riQpani　pataki:-N　mu:ru　nuki
守り　賜われて，　立派に　畑　も　みんな　悪ばらい

nukasi　riQpani　maNdzokuni　munusukuru:-N　sukuri
はらいされて，　立派に　満足に　作物も　作り

ukisimi:　niNgiN mari:-N　kiNko:　arasimi　tabo:riti
受けしめ（られ）人間（生れ）も　健康　あらしめ　たまわれて，

（注28）
gi:baraso:ru　mi:pai-ru　pu:ru-na:　o:re:　Qsaro:ru
頑張らせなされる，（その）感謝をそば，　豊年祭に　いかられては，申し上げられる

sizi-co:
わけさ。

baN　ububaNputuki-ti:　si:　pu:ru-nu　iQci　uNma:　me:
願，　大願ほどき　と　いって，　豊年祭の　一番，　そのときは，　その，

pu:ru ubu nigai jaro:ruNda: kamisama:-ni me: deigi:
豊年祭(の) 大祈願 であられるから, 神様 に, その, 礼儀

Qsaro:ru sizi-gja:
申し上げられる わけさ。

M unu jamatakabi:-nu nigai-ja: ure:-ja:
その, 山祟べ の 祈願は, それは,

W uri:-N ime: pi:ci jaro:ru pazi: nigaci-nu nigai-tu
それも 意味は 一つ であられる はず。 二月の 願 と

jamatakabi:-to: me: ime: pi:ci jaro:ru-juN-da-ru:
"山祟べの願"とは, その, 意味は 一つ であられるのだから

manama: kisaro:re: pazi
今では 切りすてられた はず。

M uQ Qsaba:-nu niNgai-ja: ta ure: ta:
その "草葉 の 願い" は また それは, また。

W pu: mainu Qsaba:-nu niNgai-jo: (ma: iQkwai si:ri:)
穂(の) 稲の 草葉 の 願い かねえ。 (もう 一度 言いなさい。)

M ～

W Qsaba:-nu nigai-ja:(ja:) munusukuro: Qsaba:-ra kaija:
草葉の 祈願は 作物は 草葉から きれいで

aro:ra-ba-ru muitaki:-N kaija: aro:reti nauriju:
あらればこそ 生え姿(丈)も きれいで あられて, 稔り世

maNzaku-nu ju:(N:) ukisimo:ru-Qti: si: Qsaba:-nu
満作の 世(をも) 受けしめなさるとて, し, 草葉の

nigai-ja: so:ru-tu-co:
願い は なされると(いうそうな)さ。

M unu Qsaba:-nu sozi: Qsaba:-nu niNgai-nu cuge: N:
その 草葉 の お秋い 下葉の 祈願 の 次は え-,

pu:-nu so:zi pama uri so:zi-Qte: aru-nu mukasi-nu
穂の お秋い 浜 下りのお秋いと あるが 昔 の

pamauri so:ze: nu:siru so:Qta-kaja-nare:
浜下りのお秋いは いかようにして，なされただろうかねえ。

W (pama) so:ze: me: mukase:-ra so:Ndu ni:ru o:ri
(浜) お秋い(精進)は，もう， 昔から 丁度 以て おられて

bure:ru manamaN Nme: asitu-ti-N-ma: pu:nu so:zi
いたんでしょう。今も その あさってという日は 穂の お秋い(精進)

jari-ba: mu:ru ja:ka:zi ma:ri jakusaNke:nu Qsare:
でありますから みんな 家族(ごと) まわって 村役人たちが “申し上げます

Qsare:-Qti si: me: ki: aNnai si: Qsaro:ri (beN)
申し上げますっと して，その，来て，案内(を) し，申し上げられて (言いあやまり)

asito: pu:-nu so:zi jaro:ri-ba: ja:niNzu:-N mu:ru
あさっては，穂 の 精進(お秋い)であられますので 家族も 皆

beNto-ba sukuro:ri saNsiki-na: uro:re:-ti: pu:-nu
弁当 を 作られて 桟敷に 降りられて 穂の

so:ze: simi: tabo:ri-Qti si Qsari ja:niNzo:-ni
お秋いは させて 賜はれっと いって 申し上げ，家族 に

Qsari: mata: pinakaN-ganasi-nu mai ni:-N
申し上げ，また，火の神様の 御前 にも，

pinakaNganase: ja:-na o:re:-ti pi:-nu ma:ra misuku:
火の神様は 家に おられて 火の まわり 用心

si: tabo:ri-Qti: si: ubi Qsari:-Qti: ta: (paro:ru)
し 賜はれって し，それだけ 申し上げて また (行かれる)

o:Qtaru
帰られたのだよ。

kairo:ri-ba me: uN-da: mu:ru ta: asitu-nu beNto:
お帰りになると，その それから みんな また あさっての 弁当を

suko:ruNti me: kiQsu: se:ti beNto: suko:re:-ti
作ろう(準備しようとして)その 一生懸命 しながら 弁当を 作られて
として

a: asito: me: pu:-nu so:zi siNti: pama: pama uri
ええ，あさってはその(もう) 穂の 精進 しにとて，浜へ 浜下り

si:　mu:ru　uro:riba　me:　uro:ri　buraku-nu　puso:-ja
して　みんな　下りられると，その，おりられ，　部落　の　人　は

mu:ru　saNsiki-na:　o:ri　musu:N　muti:　ja:niNzu-tu
みんな　桟敷　に　いらっしゃって むしろも　持って　家族　と

a:si　musu:N　muti:　beNto:　suko:ri　o:ri　me:　muso:
あわせて　むしろも　持って，弁当(も)　お作りになって　こられ，その一，むしろは

(注29)
siki:　me:　mu:　saNsiki-na:　biro:re:-ti　sakasaNke:-nu
敷いて，その，みんな　さんしきに　おすわりになって，　司たち　が

ugaN　niNgai　siN　o:ru-ka:　me:　mu:ru　jukui　so:Qta:
お願所(お寺)へ 祈願　しに　行かれると　もう　みんな　お休み (寝る) なされた。

jukui　o:ri-ti:　nigai　o:ri-ti:　Qsa:ra:　o:rizibuN
お休み　なされて　祈願　なされて　下へ　おりられるころ (時分)，

burako:　uro:ri　zibuN-ma:　Qta:　subana:-N　me　turu-nu
部落へ　下りられる　ころは　また，　お側には　その　鳥の

nakima:bi:　si:　pusu-ti:　puso:　kubare:　suko:re:ti
鳴きますね　し(する)　ん　と(いって)　人を　配って(割あてて)　おかれて

unu　pusuNke:-nu　turuNnaki　mi:kui　turu-nu　ma:bi
その　人たちが　鳥(鶏)の鳴き(声)　三声，　鶏の　まね (を)

(注30)
so:ru-ka:　me:　uN　uko:ri　uN-da-ru　me:　ke:ra　beNto:
なさると，　その一，その時，起きられ，その時から(ぞ) その一　みんな　弁当を

huce:　kaki:　Nko:Qta:　ai-ru　si:　o:Qta-ru　mukase:
くちは　開けて　召しあがられた。そんなに(ぞ) して　おられた (のだ)　昔は。

manama-N　ju:-N　ni:-ru　buta-ru:　ai　butaN-du:　me:
今の　世も　以て(ぞ)　いた (のだ)。そう　やっていたのだが，その一，

nuNti　kiso:QtaN-sa:　kiso:ri　na:N-wa:-N-no:
なんで　切り捨てられたのやら，切られて　しまってないではないか。

(注31)
aibu:ca-N:
そんなものも。

M　unu　pamauri　so:zi-nu　piN-ma:　mukase:　guihu:　zo:no:
その　浜下り　精進の　とき (日)には　昔は，　御用布　税金

-nu kutusi: jakuniN-nu turi sirabi: so:Qta-ti
の ことで 役人が 取り 調べ された と

su:-nu ure: nu:si so:Qta-kaja:-nare:
いうが, それは どのように されたのだろうかねえ。

W unu: mukase: guihu:-Qti si: mukasi puso:
その 昔は 御用布 と いって 昔(の) 人は

bikidumuNke:-ja: mai-ba sukuro:ri mai-ba: uku Qsi:
男たちは 米を 作られ, 米を おこして

zo:no:-ja: Nzaso:ri-ba: midumuNke:-ja ja:-na:
税納は(上納) 出されると 女たち は 家に

o:re:-ti bu:-ba u:mi bu:-si nu:nu-ba uriru: guihu:
おられて 麻を つむぎ 麻糸で 布を 織って(ぞ) 御用布,

zo:no:-Qti si: zo:no: Nzaso:re:Nda: N: ju: ju:-ru
税金と いって 税金は 出されたのであるから, え-と, よく, まあ よくぞ,

me: so:ba iri: u:mo:re:N puso:-ja: uN-nu piN
まあ, (精を こめて) (麻を) つむがれた人は, (それは) その とき
根性を 入れて,

sirabo:ri-ba-Qti si: (ni:ni:) niN-ba iri
調べられるので, といって 念を 入れて

u:mo:re:Npuso:-ja: uN turo:ri u:mo:raNpusuN-du me
麻をつむがれた人は そのとき とってこられ つむいでない人が(ぞ) その,

sirabi Nzasari suba: nasa:ri me: bacu saroQta
調べ 出され 側に なされて, その, 罰(を) された

tusuwa: araNno:
というでは ないの。

M unu pamauri so:zi-nu cuge: sukuma:-nu ku:-nu me:
その 浜下り 精進 の 次は スクマ が 来るが
(まあ)

unu sukuma-nu mukasi-nu sukuma: ure: nu:siru si:
その スクマ の 昔 の スクマは, それは, どのように(が) して

(注32) (注33)
o:Qta-kja:-nare: baNta: Qse:-ra una: maizuni-na:
おられたのでしょうねえ。 私たちが 知ってからは, その— 前そね に

huni-ba situmuti paisa: o:ri (ma:) pama-nu
舟 を 朝 早く 来られて, まあ, 浜 の,

pamazaki-N to:N huni-ba narabi o:ri mai:-nu pu:-ba
浜崎の 所に 船を 並べて 来られ, 米の 穂を

muti o:ru mo: (uNme:) mire: (mire:) sita-nu re:
もって 来られるもの(様子)は, あのとき, 見は したが, その

mukase: nu:si-ru si: o:Qta-kja:
昔は どのように(ぞ) して おられたのかねえ。

W mukase:-ra ure: me: so:N-du ni:-ru o:re:-ru
昔から それは その一 ちょうど 似て(ぞ) おられたのだ。

mukasi-nu so:re:N katacini-ru manama: ai mu:ru
昔の(人々が) なされた 様にが(ぞ) 今は, そのように みんな

mukasini sitagai-ru si: o:QtaN-du: ure: me: (mai)
昔に 従って(ぞ) して おられたのだが, それは もう (言いあやまり)

kaN-nu mai-nu sukuri e: mamuri tabo:re:-ti
神の 御前が 作られ, いや, 守り 賜われて

naurasi mai-nu paci me: kaN-nu mai-ni ohaci
稔らせ, 稲の お初(ぎ) その, 神の 御前に お初(ぎ)

agiti: uN-da-ru sukuma: me: ja:-na turo:ri ta:
供えて それから(ぞ) マスクは, その, 家に 持ち帰られて また,

mai-nu size: Nzasi: kaN-nu mai -juN pace: agisimi
稲(米)の 粒(実)は 出させて 神の 御前 へも お初は 供えしめ

o:riti:
なされて,

uN-ra sukuma so:raba-ru me: ta:-nu baN-juN
それから スクマ(ぎ) なされたらば(ぞ) その 田 の 番 も,

kamai-nu nukimunu:-N ta:nu aza: pi:-juN tate:ti
イノシシの おどしものも, 田の 畔は 火をも たてて,

take:ti kamai-juN nukasi: mai-ja: kari:
たきつけて イノシシをも のかせて 稲は 刈り

(注33)

tuzumo:rari-ba-Qti si: me: sukuma: ausukuma-ti:
終えられるのですからといって (というわけで) スクマは 青スクマと (いい)

sukuma mai-nu irukakaru-ka: me: sugu sukuma:
スクマ 稲の 色がかると もう すぐ スクマは

so:ri-ti munu so:Qta
しなさいといって (何を) なされたのだよ。

M ure sukuma-nu piN unu paci ago:ru mo: ure:
それは, スクマの 日 (に) その, お初を あげられる ものは, それは

pinakaN-ni-ru kunu ago:ru-kja: ure:
火の神に (ぞ) この一, あげられる (供えられる) のでしょうか それは。

W kaN-nu mai ago:ru-ka: me: ja: turo:re: me:
神の 御前に 供えられると, その 家に 取って来られては その

pinakaN-nu mai pazumi ja:-na:-te: pinakaN-nu mai-ru
火の神の 御前が 初め (第一)。家においては, 火の神の 御前 (ぞ) が

pazume: aro:ru mata: agi:-ti-ru ta: mi:
初めで あられる。 また 供えてから その 新しい

pu:-wa: muto:ri: me: pinakaN-nu mai-na: maci:
穂は 持って行かれて もう 火の神 の 御前に まつり供え,

uN-ra: ta: mi:-ja: Nzasi: kaN-nu mai-ja:
それから また 実は 出して 神の 御前には

ago:ri ti: mata: ujapusu-N mai-juN pinakaN-nu
供えられて また 祖先の 御前にも 火の神の

maiN-ju:N maco:ri buba:ma bunaru:-N mai-nu pace:
御前にも まつり供えられ, ヲバ様 ヲナリ (姉妹神) にも お米のお初は

(注35)

me: ti:-nu mi:-na jaraba-N kamisimi o:rasi:
もう 手の いっぱいずつ であっても かみしめ なされて,

pu:ru-na: ki:-ru me: ku:bana: (Qsi) tidase:ti ta
豊年祭に 来て (ぞ) もう 香華は (して) ごちそうさせて また

kamisimi o:rari-ti si: sukuma mai-nu pace: me
かみしめ なされると いって スクマ 米の お初は もう

sirusiju:-na:　ti:-nu　mi:-na:　ai　kami simi　o:rasi:
シルシだけずつ,　手の　いっぱいずつ,あのように　かみしめ　なされ

(Qso:)　so:ru-Qti:　si:　unu　sju:kaN　jaruN-da:　me:
(なさる)　なさると　いって　その　習慣　であるから　もう

ai　si:　manama-ba:kiN　ai-ru　se:　so:ru-jo:
そのようにされ,　今　までも　そのように(そ)しは　されるのだよ。

M　N:　pu:ru-nu　piN-nu:　kunu　zo:raki:-nu　su:buN-do:re:
ええ,　豊年祭の　日の,　この　ゾーラキ踊りの　競争などは

ure:　mukase:-ra:　seidai ni　si:　o:Qta-re:
それは,　昔から　盛大　に　して　おられたのか,それは。

W　mukase:　me:　kisai gutu-Qti　si:　munnu:　kjo:so:-gja:
昔は　その,"競い　ごと"　といって,　ええと,　"競争"さ

me:　mukasi　puso:　Qkisai　Qkisai gutu:-Qti-ru
その,　昔(の)　人は,　"競い"　"競いごと"といって

so:re:N-da:　mukase:　me:　manama:-ra-N　su:wa
なされたのだから。　昔は　もう　今　よりも　強く

aro:ri-gja:　iQkari-nu　su:wa　aro:ri　Qsugo:,　iN-nu　mura-tu
あられたさ。　いかりが　強く　あられ,　その一　西　の　村　と

aN-nu mura-tu　kjo:so:-Qti　si:　me:　so:Qta-ti　su:Nnu:
東　の　村　と　競争だ　と　いって,その　なされたと　いうのだが

zo:rake:-ja:　manamaN　ju:-nu　katacine:　mukase:
ゾーラキは,それは,　今の　世の　ようには,　昔は

aro:raN bure:ru
あられなかったのであろう。

na:i　me:　kaNtaN　nu:　mu:-ba:　se:ti-ru　zo:rake:
たゞ,　その,　簡単　の　ものをば　なされて　ゾーラキ踊りは

tu:so:QtaN-nu　bau　bau　nuN-du　me:　iNta-nu　bau
通された　が　棒踊り,棒踊り　だけが　その,　西　の　棒踊り

(anta-nu)　aN-nu　mura-nu　bau-Qti　aruN-da:　bau
(東の)　東の　村の　棒踊りと　あるのだから。　棒
(いうように)

nuN-du me: iQkena su:wa aro:Qtacu-nu ure:-ra ki:
踊りが その 非常に 強く あられたというが それから きて,

ta pa:re:-nu pa:re:nu juN-si-ru mukase: uNnu buN
また, 爬龍船の, 爬龍船の 故で(ぞ) 昔は あれほど

ikari-ba tati: iN-nu mura-tu aN-nu mura-to: ai-juN
いかりを たてて 西の 村 と 東の 村 とは 喧嘩も

si: pa:re:-nu juN-du: muNdo:-juN so:Qta Qcu-nu
し, 爬龍船の 故に(ぞ)が 問答いさかいをも なされた というが,

mukasi puso: pu:ru-nu juN-du: inice: pusa-ti su:
昔 (の) 人は 豊年祭の ために(ぞ) 命は ほしいのだと いう

suku-bukara: ikare: aro:Qta-Qtu: airu panaso:Qta
ほどに いかりは あられたというそうな。そんなに(そ)が 話されたよ。

M pa:re:-nu piN-nu innu mura-nu kacu-ka: jugahu: cu
爬龍船の 日に 西村の 勝ったら, 世界報 だって

su: ure: mukase:-ra airu si: o:Qta-kja:
いう, それは 昔から そんなに (そ)して おられたのでしょうかねえ。

W ai iN-nu mura-nu kacu-ka: juNgahu:-Qti si:
そうだよ。西の 村 が 勝つと 世界報だと いって

aibu:munu muN-nu ariki:-ru iN-nu mura pusu-nu
そういうものが, ものが あるので 西の 村 人 が

kacu-ka: me: aN-nu mura puso: unusuku ubunakura:
勝つと その 東の 村 人は そんなに, 大変な恐ろしく

aro:Qta Qcusuwa:N-no: ure: pa:re:-ja me: sukaraN-nu
おられた というんだよ。 それは, 爬龍船は その 力 が

kanai bu: huniN-du kacu-juNda: iN-nu mura-nu kacu:
かなって いる 船 が (そ) 勝つのだから, 西村の 村 が 勝つ
(勝って)

aN-nu mura-nu kacu-te: atiNga:ranu wakaraNta-nu
東の 村が 勝つとは 見当つけられない。 わからなかったが

(注36)
sinapike: me: ja:diN iNta: ju:si soQtaru
綱引きは その— 必ず 西の方へ 寄せ なされたのだ。

iN-nu mura kacasa:baru ju:-wa: agiru munu so:ru-Qti
西の 村(を) 勝たせたらばこそ, 世は あげて 何を なさるんだって

si: nauri ju:-N ju:huku:-N jaro:ru-Qti si: airu
いや, 稔り 世も 裕福 も あられるんだ と いって, そのようにして

sina:-dake: me: iNta: puso: isika:N-da: jo:ru
綱だけは もう 西の方は 人は 少いんだから 弱いの

aro:ruN-da: ja:ɖiN me: aNta: icijo: pikiti:
であるから, 必ず, その, 東へ 一応 引いて,

mudusi: iNta: ju:si-ru ju:nigai-ti si: so:Qta-tu:
もどして 西へ 寄せて(ぞ) 世(乞いの)願いだ といって なされた というそうな。

sinapike:-ja:
綱引きは。

(注 37)

M u(nu) sinapiki-nu piN-nu: una: sinanu miN
その 綱引きの 日 日 の, その, シナヌミン

tusu:mu-nu aro:ruNti-na: ure: nu:-nu iwari:
というものが あられますさねえ。それは 何 の いわれが

aro:ru-kja:-nare:
あられますでしょうかねえ。

W ba: unu imi-nu wakaraN-sa:
私は その 意味が わからないさ。

M pu:ru-nu una: ju: agi-ti: su: ime: ure: nu:-nu
豊年祭の その "世あげ" と いう 意味は, それは, 何の

imi jaro:ru-kaja:
意味 であられますでしょうか。

(注38)

M (ju: ju: a: Qsi: a:) pa:re: kui ju: agi: so:ruNti-na:
(世を, 世をええ～〈言いあやまり〉) 爬龍船を 漕ぎ, 世をあげ なさいますさねえ,

unu....
その....

W ure: me: atiNga:raN-ti suko:-di: ure: ime:
それは もう, 見当がつかない と いっておこうねえ。それは 意味は

wakaraN-baN
わからないさ。

M u pu:ru-nu simau-ka: cuge: so:raN-nu o:ru-nu me:
その 豊年祭が 終る と, 次は お盆 が 来られるが, その

mukasi-nu so:raN-ma: nu:siru si: o:Qta-kaja:-nare:
昔 の お盆は どのように して おられたのか ねえ。

(注39)

W so:raN-ma: me: so:Ndu mukase:ra manama-nu ai
や盆 は その ちょうど 昔 から 今 の 間

so:raN-dake: me: kawaranu mukasi so:QtaN
お盆だけは, その, 変わらない。 昔 なさった

katacini si o:ru-nu manama: me: kaite: manama-nu
様 に して おられるが 今は その, かえって 今の

ju: nare: me: mukase:-ra masari bura:N-kaja:-Qti:
世に なっては, その 昔から (よりは) まさって いないのか (ねえ) って
なあ

umu: ataru: me: manama-nu pusu-Qti site: uja-nu
思う ほど, その, 今 の 人 と しては 親 の

ko:ko:-ja: si:bu: mukase: unusuku-ba:ke: na:N
孝行は している。 昔は それほどに までは なかって

bure: pazi aro:raN bure:ru
いた だろう あられなかったので ありましょう。
(はず)。

(注40)

M unu so:raN-nu piN (-nu) -na: murumuru: sunai o:ru
その お盆 の 日 (の) に "ムルムル"を 供えて おられる

murumuruN-do:re:N abu mu:nu ime: ure: Qso:reN
ムルムル などは そんな ものの 意味は それは おわかりですか。

W ure:-ja: sizatu usitu-tu-nu siza:-ja zaisaN aro:ri
それは 兄と 弟 との, 兄 は 財産 (も) もっておられ
(あられ)

munu sukuru:-N iQpai so:ri me: uja-nu ko:-ja
農作物 も いっぱい 作られて, その, 親の 孝は

so:rari-nu usito:-ja me: zaisaN-nu na:N-be:ti na:i
なされる が 弟 は その, 財産が ないので たゞ

suba-nu pataraki-ba si: o:re:-ti-ru pu:ru-nu ehẽ:
そばの 働き をば して おられた ので 豊年祭が, いや-,

so:raN-nu ici-tiN so:raN-ma: Qso:ra:-na: patarake:
お盆が いつだとも, お盆は おわかりにならず, 働い

-ti-ru o:re:-ti-ru me: so:roN-nu so:raN-ma:
て(ぞ) おられ たので, その お盆 の お盆 は

ici-kaja:-Qti si: tui o:ri pusuN-na:ni tu:N
いつだろうかって いって たずねられ, 人 に たずねる

keN-ma: siciNguci-nu zju: saNnici-nu so:raN-ti
と,そのときは 七月 の 十 三日 の お盆だと

sita: uN-da: me: no:N mute:ru takara: na:-juNda:
いったから それから その 何も 持てる 害は ないのであるから

(注41)
una: me: jama: nu:ri ki:-nu naru-nu paci paci-ba
自分は, その 山に 登り 木の 実の お初, 初実をば

buri ki:ru sunai-ti uja-nu ko:-ja su:-Qti si: nu:
折り 取ってきて 供えて 親の 孝は するものだと して, その,

unu do:ri: jaro:ru Qtuwa:-nu:
その 道理 であられる というのではないの。

M unu murumuru-nu naka-na: una: e: mizinuku:N-do:re:
その ムルムル の 中 に その ええ, ミジヌクー など

so:ruN-ti-na: ure: nu:-nu sizi-kaja:
作られますさねえ。 それは 何 の こと でしょうか。

W mizinuku:-Qti sumo:-ja so:roN naruka: me: ujapuso:
ミジヌクー と いうものは, お盆に なると その 祖先は

mu:ru ja: o:ri ja:-na o:riti Qfama:-nu aro:ru
みんな 家に こられて 家に いらっしゃって 子孫 の あられる

(ujapu) ujapuso:-ja: Qfa ma:-N ko: sariru o:ru-nu
祖先 は 子孫にも 孝行 されて(ぞ) おられるが,

unu: (Qsu) subanu mu:-gera me: Qfa ma:-N no:-N
その "側のもの"さ。 その 子孫も 何も

na:nu tatuiru-ka: me: no:-N Qfa ma:-tiN aro:ranu
ない, たとえると, その, 何も 子孫としても あられない

ujapusu-nu me: munu pusa-ba si: ja:ka:zi ma:ro:ru
祖先が, その もの ほしさを して, 家の数(ごとに) 殖わられる

juN-daru uri-N Qfa:suN-ti siru ure: ta: sukuro:riN
のだから(ぞ) それに たべさせようと して(ぞ) それは また, お作りになられる

sa:-nu:
そうな。

sukuri-ti mizinuku:-Qti si: uri uri paNki muno:-N
作って ミジヌク- と いって それ それを はねる ものも

nu:ra nubaN-nu huke: e: maja:bu:-ba turo:ri urinu
野原から, ヌバンの 茎を, いや, マヤーブー(猫の尾) を 取ってこられ, それの

sina: me: mizinu ku:-nu sina: u:ru nasabi:
品は, その ミジヌクーの 品は ウリ, ナスビ

siNza-nu huki: mami mai kubu: N:na:ki: mizi-ba:ki
キビ の 茎, 豆, 米, コンブ, それに 水まで

asiti nanasina iriti uriba sidaki: me: ujapusuN
あわせて 九七品 入れて それを 最初に その 祖先の

mai-na: maci: sike:ti munu tugi (zi) zikaN zikaNnu
前に 供え おいて ものを 取って来て 時間 時間の

zi:N sikiru basu: sa: sa:huki sikiru basu
お膳を すえる 場合, 茶, 茶うけを すえる 場合,

kanarazu me: ure: huka:-ni: mi:muse: kai paNki:-ti
必ず その それは 外の方へ 三度は かき はねて

(注42)
panai-ti-ru kau-wa: siki: tati: ujapusuN no:N
はねて(ぞ)から, 香 は つけ, 立て 祖先に(は) 何でも

(注43)
Nkisasu-da: ziN-juN siki:
召しあがらせるのだよ お膳も 供えて。

M unu so:raN-nu: kunu sunai muno: ure: icinici:
その お盆の この 供えものは それは, 一日に

pusui gju:sina-na: ujapusu-N maci: (siki o:Q) siko:ru
一日に いく品ずつ 祖先に 供え つけられるか

-wa:-re:
ねえ。

W ure:-ja: gju:ci: sikiru:-ti: na:nu
それは, いくつ そなえるとは ない。

(注44)
uri: so:Ndu me: pusu-nu be: ikipusu-nu Qfu:
それ, ちょうど その一 人 が 吾々 生きている人の 食う

katacini: situmuti: situmuti: sa:do: si: situmute:
ように 朝は 朝(の) 茶 道を して, 朝 は

(注45)
kanarazu me: asakai-Qti Qsi: kai-ba taki Qsiki:
必ず その, 朝がゆ と いって おかゆを たいて 供えたり

su: pusuma: ta: zju:nizi-tu: situmuti-tu-nu aida-na:
する。 お昼は また 十二時 と 朝 との 間 に

ta: no:N sa:huke: suko:ri siki: uN-da: zju:nizi:
また, 何か 茶うけを 作って 供え それから 十二 時に

suko:ri Nkisasu-ka: ta: mata zju:nizi-tu
作って おあげしたら また また, 十二時 と

ju:boN-tu-nu aida-na: ta: si:munu:-ba suko:ri siki:
夕食 との 間 には また 吸いもの を お作りになって 供え

uN-da: ju:boN suko:ri Nkisasi: uN-ra: me:
それから 夕食を 作って おあげし, それから, その

bikidumuNke:-N utuzamari:-N o:re:ti: ujapusu-ba
男たち も 親戚縁者 も いらっしゃって 祖先をば

turumuci: sake: Nke:ti: niNbuca:-ba kazari:
もてなし, お酒を お飲みになって 念仏歌をば 謡いかざり,

ujapusu: turumuci: uriru uja-nu ko:ko:-ti si:
祖先を とりなし, もてなして, それが 親 の 孝行(だ) と いって

ai-ru so:ru-wa:N-no:
そのように なさるのだよ。

M aNde:ka: unu so:raN-nu: u: zu:siN-do:re: mata:
それでは, その (ソーラン) お盆の ええ, "雑炊"などは, また,

una: una: nu:si:ta: una: namasi:-jo:
その その, 何というか, その, "サシミ"ネー。

ure: ja:diN suko:ro:rumu kajare:
それは 必ず お供えになられるものなのかねえ。

W ure: mukase: me: aro:raN-be:ti-gera: sukuro:ru
それは, 昔は その, あられなかったので さ お作りになる

mai:-ja: mu:ru zo:no: Nzaso:ri:-ti: zeitakuni
米 は みんな 税納として お出しになって, ぜいたくに

aro:raN-juNda-ru Nkaio:ru piN-ma: ja:diN zu:si-tu
あられなかったのであるから お迎えなさる 日は 必ず 雑炊と

namasi:-tu-si: Nkai jo:Qta-tu-co: mata ukuro:ru
サシミ とで 迎え なさった そうな。 また お送りになる

piN-juN ai so:ru pusuma: ja:diN zu:si: namase:
日 も そうなさる。 昼間は 必ず 雑炊, さしみを

si: siki: munuso:ru ure: aisiN so:ru pusuN-du:
して 供え, なになさる。 それは それでも なさる 人 が(ぞ)

ai-ja: so:ru
そんなにも なさる。

ai-ja: araNpuso: du:-nu kaQti: ze:takuni: Nkisasi:
そうで ない人は 自分の 勝手, ぜいたくに 召しあがらせ,

ju:ciNguN-ba: suko:re:ti: Nkisasa:-ba:N munu jaru-nu
四つ品のごちそうをば 準備して 召しあがらせても なに なんだが,

manama-nu ju:-ja: ariamari: bu: ju: jaNda: misanu:
今 の 世 は あり余って いる 世 であるから よいけれど,

mukase:-ra me: sikitari: jaruN-da: me: mata
昔から その しきたり であるから, その, また

du:N ta: Qfai pusa:N aruN-da: du:-nu ma:N jo:ni
自分もまた 食べ たくも あるのだから, 自分の おいしい ように

ujapusuNke:N-juN suko:ri Nkisasa-Qti si: unu:
祖先たち にも 作って 召し上らせようっと して, その

hutake: me: zu:si:-tu namasi:-tu si: Nkisasi:
二食は, まあ, 雑炊 と サシミ と で 召し上らせ,

o:rasu sizi:
なさる わけ。

M so:raN-nu cuge: me: zuNgu ja:-Qti ku:-nu zuNguja:-nu
お盆 の 次は まあ, 十五夜 と 来るが, 十五夜 の

cuge: kuNgaci kunici: cuge: kicigon-Qti: ku:-nu
次は 九月 九日 次は 結願祭 と 来るが,

patuma-nu ubu gjo:ze: me: pu:ru kicigoN-nu-Qte:
鳩間 の 大行事は, まあ, 豊年祭, 結願祭のって,

aru-Qti umu:nu kicigoN-ma: mukase: nu:si
あるんだと 思うが 結願祭は 昔は どんなに

so:Qta-kaja-nare:
なさったのかねえ。

W mukase:-ra me: aibu: gjo:ze: junumu:-co: mu:ru:
昔 から まゝ, そういう 行事は 同じもの さ。 みんな。

kawaranu junu nigai gutu jaro:ruN-da: me:
変わらない。 同じ 願い ごと であられるのだから まあ

(ju:) junumunu ma:N kaware: aro:ranu siNze: si:
同じもの。 どうも 変わりは あられない。 信仰は して

o:ru
おられる。

M kicigoN-ma: ure: me: icineNkaN-nu: niNgaigutu-nu:
結願祭は それは まあ, 一年 間 の 祈願の (願いごとの)

ure: subi: jaro:ru-kaja:
それは 終尾 であられるのかねえ。

W ai jaro:ru paze: araN-kaja: niNzju: me: mamuro:ri
そう であられる はずでは ないかなあ。 年中 まあ 守られ,

taburo:re:-ti ke:ra: akakarazi:-N keNko: sukusai
賜わって みんな 民百姓 も 健康 息災

arasimi taburo:re:ti gi:barasi:N taburo:re:-Qti:-nu
あらしめ たまわれて 気張らしめ 賜われ との

tatuiru:-ka: me: ni:Nzu:-nu huko:rasa-Qti su: imi:
たとえるならば まあ 年中 の 感謝 と いう 意味

jaro:ru paze: araN-kaja: ba: niNgai puso:
であられる はずでは ないのかねえ。 私は 願いをする人では

araNda: sikaito: ime: wakaranu-nu airu jaro:ru
ないので しかとは 意味は わからないが, そうで あられる

pazi:
はず。

M unu kicigoN-na: kjoNgiN-tiba nu:NkuiN Nzasimo:
その 結願祭 に 狂言 とか 何んだかんだと 出しものは

so:runu mukasi-ra: aibumo: ario:Qta:
出されるが 昔から そういうものは あられたか。

W mukase:-ra aro:ri: no:N mukasi:-nu siki:-ru me: aru
昔から あられた。 何も 者 の 式をば, まあ, 有る

ri:-ja to:saraN-ti: manama-ba:kiN sidai si: o:ru
例は 倒されないといって 今 までも 盛大に して おられる

sizida:
わけだよ。

mukase: ma:biN umuQsa: aro:re:ru mukasi
昔 は もっと おもしろく あられたろう。 昔 (の)

puso:-ja: me: du:-nu simamuni si:iru Qso:Qta-ti
人 は まあ, 自分の 島言葉(方言) で(が) なされた と

sunu: mukasi-nu so:ri jo:-ja: baNtaN wakare: sanu
いうが, 昔 の なされ 方 は 私たちも わかりは せぬが,

N: baNta: ju: nare:-ra: me: sibaja: kjoNgin-tiba
え-, 私たちの 世代に なってからは まあ, 芝居 狂言とか

buduru:-N sibaja: buduru:-N maza:ri: mukase:-ra me
踊り も 芝居 踊りも 混り, 昔 から まあ

su:wa-ru are: so:ru (N: mu:Q) Nzasimunu-Qti:-site:
強くは (大変では) ありは しますが (えゝその), 出しもの と しては,

me: umuQsa-N ari: manama(:)ju:N-du mase: are:
まあ, おもしろくも あり, 今の 世 が ましでは ありは

so:re:ru mukase: ai-ba:ke:-ja: aro:raN bure:ru
したのであろう。 昔は それほどまでは あられなかった であろう。

M e: sima:-ra a: sima-nu kunu murakjoNgiN-ti sumo:
ええと, 島から あゝ, 島 の この 村狂言 と いうものは

mukasi:-ra aro:QtaN
昔から あられたか。

W Qsanu unu mamido:ma:-Qtu: nu: Qturu me:
知らぬ。 その マミドーマー と 何 とが もう,

murakjoNgiN-Qti: aro:Qta-kaja: me: atiNga:raNbaN
村狂言 といって あられたのかねえ, まあ 見当がつかないさ。

me: mamido:ma pi:ci:-ru me: atiNga:riru ure:-ra
まあ, マミドーマー 一つが (ぞ) まあ, 見当つけられる。 それから

hukaN mo: atiNga:raN-sa:
外の ものは 見当つかない さ。

M unu pira tuka mata: me: paru su:bu: tuka:-ti
その ピラ とか また, まあ 畑 勝負 (くらべ) とか, という,

abumo: ario:ri (bure:Q) mukase: so:QtaN abucamo:
そういうものは あられて (言いあやまり) 昔は なされましたか。ああいうものは。

W mukase:-ra ario:ri:-gera: mukase:-ra ario:ru-jo:
昔 から あられるさ。 昔から あられたよ。

ure: mukase:-ra-nu narai naraiki: mu:ru sidai sidai
それは。 昔 からの 習い (を) 習い来て みんな しだいしだいに

si:ki:ru: manama:-ki-N si:o:ru kaite: manama-N
して来て (ぞ) 今まで も しておられる。 かえって, 今 の

ju:-N puso: wakaraN-jo: ure: Nme:ma: mukasi:-nu
世の 人は わからないんだよ。 それは, 少し 昔 の

kaQta: mukasi-nu pusuNke:-ra juziri: juziri: si:-ru
方々, 昔 の 人々 から ゆずり(受け) ゆずり(受け) して(そ)が,

nara:se:ti: simio:ruN-da: unu pira-ti sumo:
習わせて, させられるんだよ。 あの ピラ と いうものは。

M unu kicigoN-nu simau-ka: zuNgaci niNgai tanaduru-ti
その 結願祭が 終ったら 十月願 種取りと

ku:-nu unu tanaduru: ure: nu:si: si: o:Qta-kaja:
来るんだが その 種取り, それは どのようにして して おられたのだろうか

nare:
ねえ。

W tanaduro: me: maidani-ba: muto:ri paNta-na: muto:ri
種取りは まあ 米種 を 持たれて, 南方(西表島)に 持って行かれて

ka:ra-na: muto:ri siki: suko:re:ti naNka: tuQka-na:
川 に 持っていかれて (水に)つけ, おかれて 七日(ずつ) 十日ずつ,

naNka-na: suko:Qta-ti sita kajame: sicinici-na:
七日ずつ つけられた と いった のかねえ。 七日ずつ

siki:-Qti: Nzasi o:ri Qsimi: sike:ti pu:makasi:
つけてして, 出して こられて 積み おいて ほめかして
(熱をもたせて)

unu ai-na: na:Qso: kusai o:re:ti tanaduru su:
その 間 に 苗代は こさえ おかれて, 種取り する

pju:ru-nu kuNkeN-ba:ki-na: me: tane: marase:ti:
吉日(日より)が 来るときまでには まあ, 種子は 産まらせて(発芽させて)

tanaduru:N piN-ma: me: maburo:ri na:Qsu ka:zi:
種取りの 日には まあ 守りおられてて, 苗代の (数)ことごと,

huNkiru ka:zi-na: me: maburi: o:re:ti: maburo:re-nu
区切りの ごとに まあ, お守り おられて, 守られたところの

mai dane: me: N: na:Qsu: ka:zi: huNkiru ka:zi:
米の種子は まあ, ええ, 苗代 ごとに 区切りの ごとに

(注47)
masikazi:　madu　kidu:　arasimi　tabo:ro:ra:N　suku:N
田　ごとに　すき間　あらしめ　賜はることのない　ように

iN-nu　ki:　maja-nu　ki:ni　kuirasimi:　tabo:rare:ti
犬の　毛,　猫　の　毛に　越えまさらしめ　賜われて

ibizibuN　turizibuN-ma:　kimupiki　inipiki　simi
植えるころ,　苗取りのごろには　ねたみ　そねみ　させ

tabo:raN　suko:　pikinai　simi　tabo:ri ti:　tabaru
賜らぬ　よう,　長く伸び　させ　賜われって　田原の

ka:zi　masika:ze:　ibisimi　tabo:ri-Qti:　si:　nigai
数ごと　田の数ごとに　植えしめ　賜れ　と　いって　願い

o:ru　pu:ru-nu　e:　tanaduru-nu　nigai-ja:
なさる。　豊年祭の　いや　種取　の　願い　は。

M　unu　tanaduru-N　piN-ma:　na:Qsu:　N:　na:Qsu-na:　nai
その　種取　の　日には　苗代　え-と　苗代　に　苗を

uraso:ru　piN-ma:　midumuNke:-ja　uma:　o:ru　kuto:
おろされ　ときには　女の方たちは　そこへは　いかれる　ことは

naraN　cusu:　aibu:　mo:　aro:ruN
出来ない　という　そういう　ことは　あられますか。

W　a:i　aibukuto:ja　na:nu-nu　ta:ja:　(ja:) pusuN　sima
いや　そんなこと　は　ない　が　田　は,　よその　島の

puso:-ja:　sima　pi:c:-na:　ta:-ja　aro:ruN-da:　mu:ru
人は　島　一つに　田は　あられるのだから　みんな

midumu　bikidumu　o:re:ti　so:ruNpazi:　da:-nu　patuma
女　男(ともに)　行かれて　なさるはず　だろうが　鳩間

pusu-ti　site:　me:　bikidumuN-du:　o:ri　ta:ja:
人　と　しては　まあ,　男　が　行かれて　田は

sukuro:ru　midumo:　ai　paita:　o:rajuN-da-ru
作られる。　女は　そんなに　はへ(西表島)へは,行かれないわけだから,
南方

midumo:　QsaN　Qso:raN　bure:ru　o:raNti:　su:
女は　知らない。　おわかりで　なかったのであろう。行かれないと　いう

kuto:-ja　na:N-jo:　　manama-N　ju:-ja:　me:　mu:ru
ことは　ないよ。　　今　の　世　は，まあ　みんな

pari sibaN　　ma:zuN　gi:　(tanija) tanaduro:　si:ti:
行　くよ。　　一緒に　行って　　種取りは　して

o:ru-Qco
いらっしゃるんだよ。

M　unu　tanaduru　so:ru　piN-ma:　na:Qsu-nu　niNgaiN　ure:
その　種取　なさる　ときは，　苗代の　祈願も　それは

so:ruN-kaja:
なさるかねえ。

W　hã:　na:Qsu-nu　niNgai (ru)　daiici:　na:Qsu-na:
あらまあ　苗代の　祈願（こそ）ぞ　第一（だ）。　苗代　に
（大変）。

o:ri:　niNgai　o:ri:　pinakaN-nu　mai　nigai　o:ri:
行かれて　祈願　なされ，　火の神　の　御前に　祈願　なされたり

Qsi:ti:　uN-daru　patuma:-ja　o:ru-da:　tanaduru　tane:
して　それから（ぞ）が　鳩間へは　行かれるのだよ。　種取り　種子を

maburo:ru-ka:
守られる　と。

M　unu:　na:Qsu　sukuri:　ta:-nu　aro:na:　so:ri:　mai
その　苗代を　作り　田　の　荒うち（を）　なされ，　米を

ibo:ruNkeN　ure:　gju:musina:　ta:　so:Qta-kaja-nare:
植えられるまで　それは　どれくらいずつ　田うちを　なされたのかねえ。

W　ta:-ja:　me:　maihuna:　jaro:ru　puso:　me:　(go) gudu
田　は，　まあ，　働きもの　であられる　人は，　まあ　（言いあやまり）五度，

gutu-na:　nanatu-na:-ba:ki　so:QtaN-cuwa:　araN-no:
五度ずつ，　七度ぐらい　まで（も）　なされたという　ではないの。

N:　pirasuka　jarumo:　me:　aro:na　mato:na　si:ti:N
ええと，　怠け者　であられる人は，まあ，　荒うち　またうち　しても

saNtu　bakaN-na:　ibiru　pusu-N　buri　pataraki da:
三度　ぐらいで　植える　人も　居り，　よく働き

aro:ru puso: me: gutu-na: (nanaQ) siciQkai-ba:ke:
なさる 人は, まあ, 五度ずつも (七) 七回までは

si:-ti: ibo:Qta-Qtu:
やって 植えられたという。

M unu: N: tanaduru-nu cuge: me: sima-nu gjo:ziQ-ti:
その ええ, 種取りの 次は, まあ, 島の 行事 と

site: simaQsaru-Qti: su: munu (o:) aro:ru-na me:
しては 島シサル って いう ものが あられるねえ。もう

ure: nu:siru so:Qta-kaja:-nare:
それは どのようにして, なされたのかねえ。

W simaQsaro:-ja: mi:siki panasiki-nu nigai-Qti si:
島 スサル は 流行病 風邪 の 祈願 と いって

ure: me: pi:ro:-ja: iso:pa:re:-ba simi:
それは もう 昼 は イソパーレーを させて

jarabiNke:-ba acami murazarai-ba si: ju:ru-nu
子供 たち を(ば) 集め, 村さらえ を して 夜 に

naru-ka: ju:to: pa:re:-Qti si: baka:muNke:-ba:ki
なったら ユートー パーレー と いって 若者たちまで

Nzasi: mu:ru murasarai simi o:riQti: na:ca-nu
出して みんな 村さらえを させ なされて, 翌日の

piN-ma: me: pama: sibina:zina: nai mu:ru uridaci
日には もう 浜に シメ縄 を なって みんな おり立ち(入り口)

uridaci-na: sibina:zina: nai pikiti: pama-na: o:ri:
おり立ちに シメ縄 を なって 引(き)いて 浜 へ 行かれて

hune: (me:) pai uN-na: Qfaimuno: suko:ri gusipana:
舟を はぎ(作り) それに 食い物を 準備され グシ(酒)バナ(ハナ米)を

siki muto:ri unu panasiki-nu kaN-ni: patuma-nu
つけ(供え) おかれて, その 流行病 の 神に 鳩間の

sima: sima-nu guma:nu wa: agari ku:-baN patuma-N
島は 島が 小さくて あなたが 上って 来ても 鳩間の

sima-na:-te:　suzukaraN-ba:　ka:ma　nisinu　ho:na
島に（は）おいては，続けられないので，　はるか　北の　方に

iNdosima-Qti　si:　ju:hukunu　sima-nu　ari-ba:　una:
インド島と　いって　裕福　の　島　が　あるので，そこ（で）へ

o:re:ti　uNsima:　agaro:ri-Qti　si:　airu　nigai:
行かれて　その島に　上られて下さいって　いって　そのように（そ）祈願して

paraso:Qta　cusuwa:-nu:　hune:-ra　me:　hune:
（送って）行かされた　という（ではないの。）そうな。　舟から　もう　舟は

paiti:　airu　musinu　niNgai　e:　panasiki-nu　nigai
はいで（作って），そのように（そ）虫の　祈願，　いや，　流行病　の　祈願は

so:ru-tu:-Qti　si:　ubiru　aro:ru　mi:　i:　simaQsaru-nu
なされるのだといって　して　それだけが　あられるん　でしょう。ええと，　島スサル　の

nigai-ja:
祈願　は。

2　昔　　話

話　手（W）　加治工　モウシ
聞き手（M）　加治工　真市

そのI　Sidimizi-nu　panasi

W mukasi:　tiN-nu　kamisama-nu　gazahuke:-ba:　Qsikai
昔　天の　神様　が　ひばり　を　使って

注48
sidimizi-ba　muti　uri　pusuni　niNgi:mari:-ni　amasi:
すで水　を　もって　降り，　人に　人間（生れ）　に　浴びせ

sidiNga:rasimiri-Qti:　si:　sikai　uraso:Qta:
すで変わらしめよって　言って　使い　降ろされたら，

gadzahuke:-ja:　mize:　muti　uriki:　micinaka:
ひばり　は　水を　もって　降り来て　途中まで

kuNkeN-ma:　taisi-nu:　(u:) sikaitu　me:　nari:
来るときに　イチゴが　たんと　もう　みのって

u:mi-be:ti　uri-ba　buri　QfuN-ti　si:　ma:ri　a:ki
うれているので　それを　折り　食べようと　して　まわり　歩いて

uri-ba　buri　Qfaiti　kuNkeN-ma:　pabu-nu　ki:　unu
それを　折って　食べて　来るときに　ハブが　来て　その

mize:　kubasi　amina:N-be:ti　ure:N　me:　muti　gi:
水を　こぼし　浴びてしまったので　それを　もう　持って　いって

niNgiNmari　amasi　muN　na:N-be:ti　siminu　saki
人間（生れ）に　浴びせるものが　ないので　爪の　先き

saki-na:　mutigi:　aN　amase:ti　mame:ru　ubi-si:
先きに　もって行って，ええ，　浴びせて，　ぬった　分だけで，

pusu-nu　ti:-nu　simi-nu　sake:　muiNga:re:　ki:ki:　si:
人間の　牛の　爪　の　先きは　はえ変わっては　来，来，　したり

su:tu:-Qti　si-ru　mukasi　panese:　aija:ti　gazahuke:-ja:
するんだと　いって　昔　話は，　そうだったので，ひがり　は

unu　tuNga:-si-ru　N:dza:　paN-nu　aribe:ti-ru
その　トガ　で（ぞ）　あいつは　足が，　あるので
科

(sikai:) pusu-nu　sukaumuno:　tudukasamuti　ai　a:ki-ba:
（使い）　人の　使うのも　届かさないで　そんなに（遊んで）
あるくので

n:　unu　tuNga:-Qti　paN-ma:　simirari:　tabarari
ええ，その　科といって　足は　しめられ　束ねられ

QsoQta-ju:　unu　paN-ma:　me:　unu　gadzahuke:-nu
なされたののか，　その　足は　もう　その　ひばり　の

paN-ma:　me:　ubiQciN-ka:ni　aru-ti　si:　gadzahuke:-ja:
足　は　もう　あれぽっち　しか　ない　と　いって　ひばり　は

aibu　janakutu:　se:ti-ru　paN-ma:　ubiQciN　-ka:ni
そんな　悪事　を　したので　足は　それぽっち　だけ

aru-ti-da:-Qti　si:　mukasi　panase:　sikaso:Qta
しかないんだ　と　いってして，　昔　話は　聞かされたよ。

そのⅡ　〔pi:dama〕〈火霊〉の話

W　unu　panase:-ja　jarabi-nu　amanu　ju:ru　ju:naki
その　話　は　童（子供）が　あまりに　夜　夜泣き

si:Ndu:　uja-nu　me:　unu　Qfa:　minaka:　Nzasi:
するので　親が　もう　その　子供を　外（庭）に　出して

sike:ti　jadu:　jadu-ba　huiti:　una:　jukui　o:ri
おいて　戸　戸　を　しめて　自分は　寝て　おられて

bure:N gisa:-nu unu Qfa: me: tiN-da: gaQku-ba
いた そうだが その 子供は，もう 天から カギ（かぎ）を

urasi tiN gaki nu:si: tiN-na: sa:ro:ri: piNzirasi:
降ろし，天へ ひっかけて のせ，天 に つれていかれて 化物に化かせ，

ure: nasi: kare: nasi: piNzirimuno: nasi: me: sikai
それになし あれになし 化物 に なして もう 使い，

tusi nasi (tida) tuse -ja tida-na pusiti sigo: pi:-nu
トイシに なし，（太陽）トイシ は 太陽に ほして その 火の

Nziru suku: unu tida-na pusi: katana-ba turo:ri
出る ほどに その 太陽に ほし，刃 を とってこられて

mize: kaku:N-to:si karatui-ba si: mata su:gai
水は かけないで からとぎを し，また，汁かい（しゃもじ）に

nasi: su:nabi-N naka: tataQkumi: si: me: iru iru:
なし 汁なべの 中に たたき込み したり，もう，いろいろに

piNzirasi: me: sikai munu-ba si: ja: asikai-ba （注49）
化せて もう 使い もの を したり，ひどい 扱いをば

si: jo:ri-ti-ru ato: me: pi:dama: nasi: (ura) tiNra
して おられて，あとはもう 火霊に なして 天から

urasi: wa: ujanu ja:-ba gi: jakiti ku:-ti si:
降ろし，君の 親の 家を，行って 焼いて こいと 言って

sikai uraso:Qta: uriki: be:nuN-du: uja: me: unu:
使い 降ろされたら，降ちて来て 居いるが，親は もう その

damaNgari:-ba si: me: ja:-nu ma:ra-nu so:zi:kaki:
心づもり を して，もう 家の まわりの 掃除を

unubuN si: o:ru-juNda: jaku kutu-nu naraN-be:ti
あれだけ やって おられるので，焼く 事が 出来ないでいるので，

me: kamaci-N kusina: huci akibu: miNsubu-nu ari be:-ti
もう かまどの 後に 口の開いている 壺 が あるので

unu miNsubu-nu naka-na: kumari be:-ti: uri-ra:
その 壺 の 中 に かくれて いて それから

miNkakirari:　uja-nu　mi:na:　arawari:　Nziki:
見つけられ,　親の　目に　現われ　出て来,

ujaN-na:ni　tanami:　una:　me:　kaNkaN-si:　tiN-na:
親に　頼み,　自分は　もう　かくかくしかじかで　天に

nu:sirari:　jana asikai　siraribuN-ma:　sirari-ti-ru
のせられ　ひどい扱いを　されるだけは　されて,

kuNdo:　wa:　ja:-ba　jakiti　ku:-ti　si:　sikai
今度は　あなたの　家を　焼いて　来いと　いって　使い

uraso:Qta　una:　ki:　be:-nu　me:　jakaraN
降されたので　自分は　来て　居るが,　もう,　焼かれない。

teN　nu:ru　kutu-N　naraNta　sikiN-nu　tura-nu　pa:
天へ　昇る　ことも　出来ないので　ありますので,　トラの　方の

sinu-na:　ja:ma:　sukuriti:　uN-na:　pi:-ba　siki:
角に　小屋を　作って　それに　火を　つけて

jaki: Qfo:ri　asi　unu　kibo:si　si:　una:
焼いて下さい。　そして　その　煙　で　自分は

tiN nu:ri-ba:-ti　si:　aziki:ru　ja:ma:　sukuri:
天へ昇るから　と　して　言うたので,　小屋を　作って

pi:sikiti　uri-nu　ui　uri-nu　kibo:si:-si:　tiN
火をつけて　それの　上,　それの　煙でして　天へ

nu:so:Qta-Qtu:-Qti　si:　mukasi panase:　sikaso:Qtaru
昇せられたと言うって　して　昔　話は　聞かされたのだよ。

その Ⅲ 〔ka:raja:nu tura:ma〕〈すゞめ〉の話

W ka:raja:-nu (turo:ja:) tura:ma:-ja: ujako:ko:-na munu
瓦屋 の (鳥は) 小鳥(スズメ)は 親孝行な もの。

kabure:-ja: ujahuko:-na mu: jare:ti: ka:raja:-mu
ふくろう は 親不孝な もの であるので スズメは

tura:ma:-ja: uja-nu bjo:ki so:Qta: ujanu bjo:ki
それは, 親が 病気 なさったので 親の 病気を

nausi o:rasuN-ti: pusu-nu nu:nu: si: kiso:ru pima:
なおして さしあげようとして 他人が 布を 織って 着られる ひまは

uja-nu ko:-ba si: kabure:-ja: (-ja:) zeitakuni a:ki
親の 孝行を して, ふくろうは それは ぜいたくに してあるいて,

uja-nu o:rumu: nu:-ti-N Qsanu me: du:-nu
親が おられることも, 何とも 知らずに もう 自分の

kiNpada-ka:ni piQkarasi: icukiN-ba: kisi: a:ki
着物だけ ひからせて 絹織物を 着てあるき

ujahuko:-nu mu: jare:ti: uja: ka:raja:-nu
親 不 幸な 者 であったので, 親は スズメ

tura:ma:-ne: wa: ujako:ko: jaQta sikiN-du me:
には おまえは, 親孝行 であった わけだから, もう

ka:raja:-nu Qsa:N-na: be:ti: jucikuni muno: Qfai
瓦 屋の (軒) 下に 居て 裕福に ものは 食べ

kiN-ma:-ja: ti:-si: kisu pima: na:Nta sikiN-nu
着物 は 手 で (織って) ひまは ないので あるから
着る

kasitakuN-ma: nubi-na: pake:ti ka:raja:-nu
かせ 糸の束を 首 に はいて 瓦 屋 の

Qsa:N-na: be:ti jucikuni Qfai
軒下 に 居て 裕富に 食べよ。

kabure:-jo:-ja:　jama-na:　a:ki　sakabara: ui　nari
ふくろう　へ　は　山　に　居て　さかさまに　なって

be:ti　ki:-nu　naru-ba:　huziri　Qfai-Qti　si:　uja:　ai
いて,　木の　実を　捜して　食べよと　いって　親は　そう

igoN　so:re:ti-ru　kabure:-ja:　ki:-na:　ki:　Qsa:ru
遺言を　なされたので,　ふくろう　は　木　に　来て　ぶらさがる

puso:　sakabara: ui　nari　huQsa:ri　bu:-ti　si:　mukasi
ときは　さかさまに　なって　ぶらさがって　いると　いって　昔

panase:　sikaso:Qta: - N.
話　は　聞かされた　よ。

3　鳩間島の漁業について

話　者（I）　加治工　伊　佐
聞き手（S）　加治工　真　市

S　e:　patuma-nu:　gjogjo:nu　panasi:　i:　sikasi:
　　え-,　鳩間　の　漁業　の　話（を）　（言って）　聞かして　（注50）

　　Qfo:ri:-mi:
　　ください　な。

I　gigjo:-nu　panasi-tu　site:　saisjo-ja:　pu:siN-da:　si:
　　漁業　の　話　と　しては　最初　は　帆船から　して　（注51）

　　o:riti:　pu:siN-da　ta:　gi:　kikaisiN-nu　hazumi:
　　おらして　帆船　から　また　行って　機械船　が　初めに　（注52）
　　（時がたって）

　　sukuro:Qta:　baso:　pu:siN-ma:　jami-ti:　iNta:　aNta-N
　　造られた　時は　帆船　は　やめて,　西（村）　東（村）の

　　pusu:-N　mu:　go:do:　siti:　unu　nigo:-nu　kacusiN-cu
　　人　も　皆　合同　して　その　二号　の　鰹船　と　（注53）　（注54）

　　sumo:　kumiai-ba　sukuriti:　unu:　si:　o:ri:
　　いうものは，　組合を　作って　その　やって　おられ　（注55）

　　bure:N-da:　sono:　(sono:)　ato:　me:　o:riti　ta:
　　たのだから　その　後は　もう　時がたって　また　（注56）

　　kunu:　kumiai-nu　mu:ru:　na:　meime:　kaisaN　siti:
　　この　組合　が　みんな　各自　めいめい　解散　して　（注57）

　　meimei-nu:　huni-ba　sukuri:　iNta　aNta:　mu:ru:
　　各自の　船を　造って　西（村）　東（村）　皆

(注58)
meime:　hune:　sukuriti　ta:　saNzo:　joNso:　hune:
各自　船は　造って，　また　三艘，　四艘　船は

sukuri　o:re:-na:
造って　おられたろうな。

～　(注59)
meime:-nu　(ka)　kabu　sosiki　siti:　sukuri　o:riti:
各自　の　株　組織(を)　して　作って　おられて，

(注60)
sidaini:　me　urinu:　N:　seNso:　cju:-na:　(na:)　me:
次第に　もう　それが　え-　戦争　中には　もう

(注61)
taige:-ja:　me:　kaisaN　so:ru　pusu:-N　o:ri:　N:
大概　は　もう　解散　される　人　も　おられ，

sonogo:　si:　o:riti　ta:　kaisaN　so:re:　pusu:-N
その後，　して　おられて　また，　解散　された　人も

(注62)　(注63)　(注64)
o:re:N　da:　zuQto　to:site:　me:　saikiN-ba:ki:
おられた　のだから，　ずっと　通して　もう，　最近　までは

(注65)
nakaibusaN-nu:　si:　nakaibusaN-juN　siNka-nu　isika:
仲伊部さんが　やって　仲伊部さん　も　乗組員が　少く

(注66)
nari:　bura:N-be:ti:　kuNdo:　me:　isigaki:-na:　o:ri:
なって　いないので　今度は　もう　石垣　に　行かれて

(注67)
geNzai-ja　me:　si:　o:ru　jo:ni　nari　bu:　sizi:-gja:
現在　は　もう，やって　おられる　ように　なって　居る　わけさ

me:
ねえ。

(注68)
S　unu　kacusiN-nu　mai-ja:　sinakakija:-N-do:re:
その　鰹船　の　前　は　追い込み漁　など

patuma-nu　sima-nu　izuturi　siguto:　ure:　nu:si:-ru
旭間　の　島　の　魚取り　仕事は　それは　どのようにして，

si:　o:Qta-kaja:-nare:
やって　おられた　のだろうか　ね。　(それは)。

I　unu　uNnu　ma:ra:　ba-N　jarabi:　jaruN-da:　sikaiQto:
その　その　頃は　私も　童(子供)で　あったんだから，　しかとは

wakaranu-nu　sinakakija:　si:　o:Qta:-tu:-ti　su:
わからない が　追い込み漁を　して　おられたそうだ と　いう

panasi:-N　siki:-N　si:ti:　unu　sinakakija:-ba:　mata:
話　も　聞きも　して，　その　追い込み漁をば　また

ure:-ja:　uwa:ri-te:-ra-ru:　kunu　kacusiN-ma:　pu:siN-
それは　終ってからが（ぞ）　この　鰹船は　帆船から

da:-ru　hazimi:　si:　o:re:　juN-da:　pu:siN
が（ぞ）　始めに　して　おられた　のだから　帆船を

so:QtaN　keN-ma:　iNta:　aNta:-nu　huni:-N　(a:)
（もち）なさった　ときは，　西　東　の　船　も

sukuri:　o:riti:　meime:　kabu　sukuriti:　si:　o:ri:ti:
造り　なさって　各自　株を　作って　やって　おられて，

(注69)
ure:-ra:　mo:ki　Nzasiti:　mata:　a:　ma:biN　koziN
それから　もうけ　出して，　また　（あー）　もっと　個人

koziN-juN　ta:　uikanake-nu　acja ta:-N　sa:so:ri
個人　をも　また，　上兼久（清崎）の　お父さんたちも　船を造られ，

nakasike-nu　pusu-N　sa:so:ri:　pu:siN-ma:　joNso:　buri
仲底　の　人　も　船を作られ　帆船　は　四艘　（ほど）

bure:N-da:　ubi:-si:　siguto:　si:　o:Qta-nu　ubi
居ったのだから，　それだけで　仕事は　して　居られたが　それだけ

ka:ni:-N　araN
だけでも　ない。

mata:　junoN-da:-N　saNzu:　bukara-na:　ku:QtaN-jo:
また　与那国からも　三艘　ほどずつ，　来たよ。

patuma-na:　nanaso:-ba:ke:　(kacu) pu:siN-ma:　so:re:N
鳩間　に　七艘　までは　（言いあやまり）帆船　は　なされた

pasu:-N　aQtaN　junoN-da:-N　saNzu:-bukara-na:
時　も　あった。　与那国からも　三艘　ほど　ずつ

ki:bure:N-da:-jo:　asiti:　kuma:　maNta:　mainaN-ma:
来ておったのだからねえ。　そして　ここ，　前の方，　前並みは

taige: mu:ru: naija:-jo: kuma: be:-na:-juN
大概は, みんな 納屋だよ。 ここ 我が家 にも

(注70)
naija: so:ri: kusike:-na:-juN irakazake:-na:-juN
納屋 なさって. . 小底の家にも 西加治工の家にも

so:ri: tumuse:-na:-juN so:ri: kunu irakazake-nu
なさって 宮良家にも なさって, この 西加治工の

(注71)
aNta-nu umaN-juN muru: seizo ba: jare:N-da: ai-ru:
東の方の そこにも みんな 製造 場 であったのだから, そんなに (が)

si: o:Qta-nu ure: pu:siN-da si: o:riti: mema: ta:
して おられたが それは, 帆船から して おられて 少し また

mo:kirari ta:-ru ta: unu: kikaisiN-ma: (na) na: meime:
もうけられたから (ぞ) また, その 機械船 は 各 自,

kumiai-si: ta: sa:so:ri: bure:ru
組合 で また 造られて おられたろう。

kikaisiN-nu hazimare:-ja: me: muN-na: nigo:-nu
機械船 の 始まりは もう なんだなあ-, 二号の

(注72)
pusunu: so:QtaN keN-ma: pu:siN-ma: icio:
人が なさった 時 は 帆船 は 一応

jamiti-ru: ta: kunu kikaisiN-ma: kabu-si: si:
やめて (ぞ) また, この 機械船 は 株 で やって

o:Qta-nu-ru mata ure: N: mo:ki:-N si: o:QtaN-du
おられたが また それは え-, もうけも して おられたが,

ta: mata kabo: kaisaN siti: mata: meime: iNta:
また, また, 株は 解散 して, また 各自 西,

aNta: (Ndu) koziN-si: so:ru pusu:-N o:ri:
東 個人 で なさる 人 も 居られ

kikaisiN-nu hazimari:-N me: sigoso:-bukara:
機械船 の 始まりも まあ, 四, 五艘ぐらいは

buributa-jo:
居たよ。

(注 73)

uikanake-N pusn:N so:ri: icigo:-nu pusu:-tiN
上蒲久(浦崎)の 人 も なされ, 一号の 人(と)も

nigo:-nu pusu-tiN o:ri: maituze:-nu pusu:-N ori:
二号 の 人(とて)も 居られ, 前通事 の 人 も 居られ,

iNtana:-ja: baNta: N: gjohuku ma ru-ti si: baNta:
西村では 僕等 え-, 漁福丸 と いって, 僕等(聞き手を含まない)

kabuba: sukuri: hacimei (si:) siNka-si: kabu:
株を 作って 八名の 組員 で 株(を)

(注74)

sukuri:-ti: si: mata: zu:Qtu iNta-nu kedasiro-nu
作って して, また ずっと 西(村)の 慶田城 の

zi:saN ta-N: mata: kabu sosiki: siti: ucaN ta: si:
じいさんたちも また 株 組織 して あの方たちも また やって

o:Qta-nu gusu-ka rokusu:-ka: buribure:N-na:
おられたが, 五艘か 六艘 か 居ていたろう なあ。

(注75)

uN-juN asiti me: uN-da-ru sidai sidaini:
その時も。 そして もう, それからが 次第 次第に

ikusaju: nariti: munu sita:-ru me: taige:-ja hune
戦争の世の中に なって 何 したから(ぞ) もう 大概 は 船は

jamo:re: pazi: ikusaju:-na:
やめられた はず。 戦争の世の中に。

S e: me: kacu: ho:si-N o:ru piNma: situmuti: zako:
え-, もう, 鰹を 釣りに 行かれる 時には 朝 えさを

turi-N o:ri: so:ru-nu ure:-ra ki: izo: ho:si:
取りに 行かれ なさるが, それから きて, 魚を 釣り,

kaco: ho:si: o:ru-ba:ki-nu: panasi: sikaso:ri-mi:
鰹を 釣って おられるまでの 話を 聞かして下さいな。

(注76)

I i: situmute: me: du:-si:ru esa turi Nziru-juNda:
え- 朝 は もう 自分で(が) エサ 取って 出るのだから,

(注77)

gi: esaba:-na: gi: esa: turi: unu: sonohi:
行って エサ場に 行って エサ 取って その 日

sonohi-nu:　muno:　sigutu-ni　juQti:　mata:　maN-ti-ru
その日の,　その　仕事　に　よって,　また　"運"　と

(注78)
su:　pjo:si-ti　su:-ju:　sore-ni-joQte:　esa-nu
いうか,ひようし　と　言うか,　それによって　エサが

(注79)
hitoami　huta ami-si:　haiQ-ti:　turari:　basu:-N　ari:
一網　二網　で　サツと　取られる場合も　あり,

(注80)
icinici　kakaQtemo:　torenai:ti　asu　basu:-N　aribe:-ti
一日　かかっても　取れないと　言う　場合も　あるので

turari　baso:　mazu:　u:　paisa　turi ti:　uki　Nzi:
取られる　場合は,　まず,　卓く　取って　沖へ　出て

uki-na:　Nzi:　gi:　izo:　ho:siti　ta:　ki:　mata:
沖に　出て　行って　魚は　釣って,　また　(帰って)来て　また

(注81)　(注82)
kiNkai-na:　izu-nu　be:ti:　ho:ri　paso:　u:　nikwai-nu:
近海　に　魚が　居て　釣れる　ときは,　二回　も(の)

saNkwai-ba:ki-N　su:　basu:-N　aQtaN
三回　までも　する　場合も　あった。

(注83)
sosite:　unu　basu-nu　ta:　unu:　ai:　iso:　nikwai-juN
そして,　その　場合は　また,　その　間　漁場へ　二回も

saNkwai-juN　NziruN-ti:　su:　puso:　mata　zako:-nu　ta:
三回　(を)も　出る　と　する　時は,　また　(雑魚)えさが　また

uN-ma:　baNziN　nari:　hito ami　hutami:-na:-si:
その時は,　最盛期　になって　一網　二網ずつやって,

turari:　basu:-N　ari be:ti-ru　ai　nikwai-juN
取れる　場合もあり,　ますので　そのように　二回(を)も

saNkwai-juN　ho:siN　parari:　buso:　ari:　bure:N-da:
三回　も　釣りに　行ける(かれる)　場合は　あって　あったのだから,

asunu:　aibu　baso:　me:　ziki:-na:　unu　aibu:　izu-nu
だが　そういう　場合は,　もう　時期　で　その　そんな　魚　が

kiNkai　iriku:　basu-tu:　mata:　unu:　zaku-nu　me:
近海(に)　入って来る　場合と　また　その　(雑魚)エサが,　もう

ziki nari be:ti: hito ami huta ami-si: turariN-ti
時期 になって いて, 一 網 二網で 取れると

asu ziki-na:-ru ai-ja: naru: iciN iciN-ma: ta:
言う 時期に (ぞ) そんなには 出来る。 いつも いつもは また

aija: narajuN-da: icinici hucuka-si zako: turima:ki
そんなには 出来ないのだから 一日 二日で エサ取りかねて

bu: basu:-N aQtaN-jo: naNkukuru: ziki na:ru
いる 場合も あったよ。 自然に 時期に (ぞ)

(aru) arujuNda:
あるんのだ (からなあ) 。

S zako:-ja: ure: mana: maNma:-na:-ru turo:Qta-kaja:
エサ は それは どこに どこのあたりに (ぞ) 取られたのかね。

(mata) nu:si bu: N: muN-nu me: zako:-nu zako:-tu
(また) どのような ものが もう エサの エサ と

site: me: sika:i sikai o:Qta-ju:
しては もう (使って) 使って おられたのか (ね)

(注84)
I kuna-nu zako: du:-si turu zako:-ja: subete:
ここ の エサは 自分で 取る エサは すべて

bakazako:-Qti si: unu: bakazako: si:ra-Qti sumuN-du
バカザコー と いって その バカザコー シーラと いうものが

mutu: turi bu: sizi: aiti mata unu: janazako:-QtiN
(主で) 取って いる わけ。 そして また, その ヤナザコー とも

ta: buribu-nu janazako:-ja: ta (ja) jana-na: be:ti:
また 居るが ヤナザコー は また, 穴 に 居るので

unu uri turi turijo:-ja ta: kauri: su:juN-da:
その, それ (取り) 取り方は また 変って いるのだ。

janazako:-Qti si: uri: uri: turu busu:-Qta
ヤナザコー と いって それを それを 取る 場合は また,

(注85)
kauti:-ru su:N-da: hucu:-ja me: bakazako:
変って (ぞ) いるのだから。 普通は もう バカサコー

(注86)

si:ra-Q,ti si: unu: mainici subete me: uriru
シーラ と いって その 毎日, すべて もう それを(ぞ)

tuributa sizi:
取っていた わけ。

S janazako:-ja: ure: nu:si-ru turo:ru-wa:
ヤナザユ-は それは どのようにして(ぞ) 取られるのか。

I uri-N me: cjo:du esa turi-nu (turi:nu) janazako:
それも もう 丁度 サエ 取りが (取りが) ヤナザユ-

(注87)

turi: aN-Q,ti si: hukuro: ami-Q,ti si: bicu-ni
取り 網と いって 袋 網 と いって, 別 に

(注88)

aN-ma: aribu:-juN-da: bakazako: turu: ame:-ja
網は (有り居る)あるのだから バカザコ- 取る 網は

muzi-ami-Q,ti si: me: zuQ,to: unu a: hari-ami:-si:-ru
ムジ 網と いって もう ずっと その 張り 網 で(ぞ)

turi: bure:N-da: unu (jana) janazako: turu: busu-nu
取って いたから。 その ヤナザコ-を 取る 場合の

ame: me: kaurisu: hukuro: ami:-Q,ti si:-jo:
網は もう 変っている。 袋 網 と いってね。

esatori ami:-N me: cigai su:N:-da:
エサ取り 網 も もう 違(いする) うのだから。

S N: zako: turo:ru:-ka: uke: o:ru-nu me: (u)uki-nu:
え- エサを 取られたら 沖へ 行かれるが, もう 沖の

zjo:taiN-do:re: maNma:-na:-ru (ssa) izo:
状態などは どこの辺に(ぞ) 魚は

ho:so:ru:-ju: nu:si si:-ru mata: izo: ho:so:ru-ju:
釣れるの か どのように して(ぞ) また 魚は 釣られるのか,

abu panasi:-N sikaso:ri-mi
そんな 話 も 聞かせて下さい(な) よ。

I zako:turi: uke: Nziruka: me: (kono:) ukinu
エサを取って 沖へ 出ると もう 沖の

（注90）
zjo:tai-tu site: me: zo: ma-na: bu:-Qti: ure:
状態 と しては もう 魚は どこに 居ると それは

haQkiri: wakaraN-da: Nziti: unu N: icinici: N:
はっきり わからないので, 出て その え- 一日 え-

a:kiti: (i:) izu-nu ataru basu:-N ari: ataraN
行っていて, 魚が 当たる 場合も あり, 当たらない

basu:-N aribuN-da: subete: e: kunu: (siN) siNdu-nu
場合も あるのだから。 すべて, え- この 船頭の

unu: kaNgai:-si: hune: (une: me:) ma: paru-ba-ru
その 考え で 船は どこへ 行けば（ぞ）

izo: o: misikirari:-Qti asujo:na: kaNgai kata si:
魚は さがせる と いうような 考え 方を して

be:ti: Nme: ho:siki: buNda: Nma: mazu: du:
いるので, もう 釣ってきて いるのだから。（まあ） まず, 自分

taNga-si: a:ki: izu-ba miriti: tairo:-ba si:ti: ku:
一人 で 行って 魚をば 見て 大漁をば して 来る

baso: pusuN sukasaN joNbasi: (mi:) me: kunu:
場合は, 人（他人）に 聞かさない ようにして, もう この

（注91）
uki-wa: kazame:ti a:kubasu:N ariru bure:sita-nu nu:
沖 を 隠して あるく場合も あり（ぞ） 居った が, なに,

uri-N me: aija: iciN iciN ai-ja: nare: se:sanu:
それも もう そうは いつも いつも そうは 出来は しない。

pusumusi ho:si ku:ka: tair jo: su:ka: sugu sibi
一度 釣って 来ると, 大漁 すると, すぐ 後

uisi:gi: ho:suN-ti asu: (sono:) kaNgai kata: muru:
追って行って 釣る と いう 考え 方は 皆

si:-ru bu:juN-da: N me: tairo: su: u: baso: me:
やって（ぞ） 居るのだから, もう, 大漁 する 場合は もう,

（注92）
subete: mata: sono siNka naina: mata: himicuni
すべて, また, その 乗り組員 内には また, 秘密に

(注93)

si:　gi:　sikasu:　pusu-N　buri:　mata:　a:　(otagai ni:)
して　行って　聞かす　人も　居り，　また　お互いに

ma:zuN　sikase:ti:　ma:zuN-si:　tairo:　sa:-Qti　su:
一緒に　聞かしあって，　一緒に　大漁　しようと　する

kimoci-ba　are:ti:　mata:　ma:zuN　ho:su:　basu:-N
気持　を　持って(有らして)また，　一緒に　釣る　場合　も

ari:　bure:-juNda:　me:　airu:　kisa-nu　kacusiN-ma:
有って　居ったのだから，　もう，そんなに(ぞ)　以前の　鰹船　は

me:　munusi:　buta:　si:jo:-ja:　me:　ai si:　o:Qta:
もう，　なにをして，　いた。　やり方　は　もう，そんなにして　居られた。

S　ukina:　o:riti:　N:　su:-nu　pari kata:-tuka:
沖に　行かれて　潮の　流れ方　とか

turumaki-nu:　unu:　turunu:　burikata-tuka:
鳥巻き　の　その　鳥　の　群れ方　とか

tubikata-tuka:　abuca　mu:-si:　izu-nu:　mana:　bu:Qti:
飛び方　とか　そんな　もの　で　魚が　どこに　居るんだと(いう)

kutu:　abu　mu:　wakaro:QtaN
こと，　そんな　もの　わかられたか(御存知でしたか)。

I　aha:　ure:　wakari:　buta:　mazu:　turunu:　kai:　(su:)
アー，　それは　わかって　いた。　先ず　鳥が　こう，

su:-nu　ma:　paru　ma:　paru-Qti　si:　me:　(Qsu:)
潮が　どこへ　行く(流れる)どこへ　行くって　して　もう

su:-nu　parumunu:-ba:　me:　siNdu:-Nke:-ja:　me:
潮の　流れるものをば　もう　船頭　たちは　もう

uri-ba:　kaNgai　be:ti:　mata:　turu-nu:　parijo:-ba:
それを　考えて　いて，　また，　鳥の　行き(飛び)様を

mire:ti:　izo:　mana:-ru　bu:-Qti　si:　turu-N　sibi-ba:
見ながら，　魚は　どこに　居るって　して，　鳥の　後を

uisi:　kuNdo:　turo:　ma:-ru　paQta　sikiN-nu:　mana:-ru
追って　今度は　鳥は　「どこへ　行った」　わけだから，　どこに(ぞ)

bu:-Qti si: gi: turu-N sibi-ba uija:-ti gi: izu-ba
居るんだと いって 行って 鳥の 後を 追いつゝ 行って 魚を

misiki: asi: ai-ru: (ho) ho:siN ki: bure:N-da: N
捜し そして そんなにして 釣っても 来て いたのだから, え-,

me: daici: (zu:) turu-nu parijo:-na me: turuN N:
もう 第一 鳥の 飛び様だな- もう。 鳥の

(注94)
parijo:-nu: miri: buri:sizi: aizita: izu: ho:su
行き (様)方の(を) 見て いるわけ。 そしてまた, 魚を 釣る

(注95) (注96)
basu-na: torimaki-nu cikajori ki:ti: izu: ho:su
場合 に 鳥巻き が 近寄って 来て 魚を 釣る

basuna:-N me: unu izusikijo: zako:-ba iri: izu:
場合にも もう その 魚のつけ方, エサ を 入れ, 魚の

sikijo: na:-N me: unu: zo:zi: hita:-ja: me:
付け方 にも, もう, その 上手 下手 は もう,

siNdu-na: jaraba-N o:ri buN-da: a:i nu:si
船頭 に おいても, 居られる のだから いや, どう

suka: paisa: sikirarita muN-na:-Qti si: mata: izo:
したら 早く 付けられた(ものを) のになあ-って, いって, また, 魚は

suba: ma:se: parase: parase: si: (uN) mu:ru:
側へ 回わして 行かせたり 行かせたり, して, 皆

(注97)
seiNdo:si: na:ri: me: kuNzo: izi: bu: pusu:N ari:
船員同志 互いに もう 腹をたてて 居る 場合も 有って

(注98)
bure: se:sunu: mata: sureNmuN uN-nu: basu-nu:
居は したが, また それも その 場合の

pjo:si:-ni joQte: haiQ-ti: izu-N: ki: sikijaQsa
(「運」)「つき」 によって パッと 魚も 来て 付けやすい

basu-N: ari: mata: siki: gurisa: basuN: ari:
場合も あり, また, 付けにくい 場合も あり

(注99)
buNda: sikigurisa basu: me: e: do:sitemo:
居るのだから, 付けにくい 場合は もう どうしても

izu-N: sikiguriQsa-nu: naraN cusu puso: kure:
魚 も 付けにくくて 困る という 場合は これは

maN-nu waQsa-nu Qci si: mata ke:ti: maN nausi-ba
「つき」が 悪 い と言って また 帰って来て 「マン なおし」を

si: miQtari: se:kicu-ba si: miQtari: si:ti
して みたり, 清潔(みそぎ)を して みたり して

maN nausi-ba siti: mata: Nzi:gi: ho:su basu:N
「つき」直しを して, また 出て行き 釣る 場合も

kazi: (ari:) aru basu-nu ari: bure:N
数 ある 場合 が (有っていた。) あった。

S (i:) izu: suQko:ru piNma: icibaNzjo:-ra: i: zako:
魚を 付けられる 時 は 一番釣手 から, エサ

maki: si: so:ru: pazida:-nu ure: nu:si si:ru
まきを して なされる はずだ が それは どのように して

mako:Qta-kaja: nare:
まかれた のか ね。

I ure: izu-nu cikajori ku:-ka: me: hoNmaki-ti si:
それは, 魚が 近寄って 来ると もう 本撒き と いって

naka-na: hoNmaki-nu: zako:-ja: maku:-juNda:
船腹で 本撒き が エサ は 撒くのだから,

hoNmaki-nu zo:zi-N puso: me: siNdu-nu zako: iri-ti
本撒き の 上手の 人は もう 船頭 が エサを 入れよと

asaN burabaN du:-nu kaNgai-si: doNdoN zako:-ja:
言わない けれども 自分の 考え で どんどん エサ は

(注100)

iri: munu su: mata: hoNmaki-nu aNmari: me:
入れ, なにを する。 また, 本撒き が あんまり, もう

ai zo:zi araN puso: ta: siNdu-nu zako: iriri-ti
そう 上手で ない 人は, また 船頭 が エサを 入れよと

asaba-ru me: iriru juN-da: uri-N me: pusu-ni
言わば(ぞ) もう 入れる わけだから, それも もう 人 に
(言ってはじめて)

joQte:　zo:zi:　hita-nu　buribuN　da:　hoNmaki-nu　su:ri
よって　上手　下手　が　居りをるのだから　本撤きが　上手

bu:　pusuNke:-ja:　siNdu-nu　muni　sikaNseN-jo:
である　人　たちは　船頭　の　言を　聞かなかったよ。

siNdu-nu　jamiri-ti　sabaN　jamiraN-jo:　mata:
船頭　が　止めろと　言っても　止めなかったよ。　また

iriri-ti　asaN　bura-baN　kisa　zako:-ja:　iri bu:
入れろ　と　言わなくっても　すでに　エサは　入れていた

sizi-co:
わけさ。

aija:-ti:　ubisi:　me:　meime:-nu　kunu:　siNdu:-N
そうだから　それだけで，もう　各自　の　この　船頭　も

（注101）
icibaNzjo:-juN　hoNmaki:-N　meime:-nu　gizicu:-si:
一番釣手　をも　本撤　も　各自　の　技術　で

si:parasuN-da:　ai　gizicu-nu　aru　pusuNke:-nu　bu:
やっていくので，　そう　技術　の　ある　人達　が　居る

puso:　huNmaki-nu　gizicu-nu　aruka:　siNdo:　me　(naN)
ときは，　本撤　の　技術　が　あると，　船頭は　もう

naNge:　na:N　sizi:　kazi-sa:riN　no:N-sa:riN　me:
難儀は　ない　わけ。　風吹き　でも，　何のときでも，　もう

muni　sikaraN　pusu-na:　jara-baN　zako:　iriri:-Qti:
言葉が　聞こえない　ときで　あっても，　エサを　入れろって

uja:ri-baN　sikaraN-be:ti　me:　kuNzo:　Nze:ti　sigu:
大声を出しても　聞こえないので　もう　腹を　たてて，　すぐ，

jana　uja:ri　saba-ru:　sikari:N-da:　ai　su:basu:-N
大声を　出したら（が）聞こえるんだから，　そう　する時も

ari:　(buNda:)　me:　uri-N:　(hu)　ke:ra-nu　meime:-nu
あり，　もう，　それも　皆　の　各自　の

sikiniN-ba:　mutibu:　pusuNke:-nu　gizicu-na:　joQta
責任　を　持っている　人たち　の　技術　に　よった

munu aise:ti-ru izu-N siki: ho:si:(N:) bure: juN-da:
ものだ そうやって(ぞ) 魚も 付けて 釣って 居たから,

ubi: meime:-nu: gizicu-nu aruka: me: siNdu:
それだけ, 各自 の 技術 が あれば もう 船頭,

sikiniN naru pusu-N ke:-ja me: naNge: na:N
責任者に なる 人たちは もう, 難儀は ない

sizi-cu-me:
わけさ ねえ。

S N: uke: maNma:ra-ti-ru me: mukase:-ra izo: ho:si
え-, 沖は どの辺において, もう 昔から 魚を 釣って

o:Qta-kaja-nare:
居られたのかねえ。

I uki: me: taige: mu:ru: paisa: me: duku tu:
沖(漁場)は もう 大概は 皆 初は もう あまり 遠

uke-te: paraN-juN-da: na:i kiNkai-na: me:
沖へとは 行かないのだから ただ 近海 で もう

na:Nkwai-juN junuNtoN-ba: ma:re: ki:ki: ma:re:
何回 をも 同じ所 をば 回って 来たり,来たり 回って

ki:ki: si:-ru: munu: uke: ma:ri: si:buta-nu: suno:
は来年 して(ぞ) 何 沖は 回って やって居たが, その

go:-ja: me: uki:-N siNdai tu:wa: naru-a:si me:
後 は もう 沖 も 次第に 遠く なるにつれて もう,

ma-nu uke: ma-nu uke:-ti si: mata sune: kaju:
どこの 沖へ, どこの 沖へと いって, また 曾根へ 通う

basu:-N ari: si: buNda: me: uri: manu uke:-ti
場合 も あったり して やっているんだから もう それは, どこも 沖へと,

ure: kimare: bura:N sizi-gera me: meime:-nu
それは 決っては 居ない わけ さ もう。 各自 の

kaNgai kata-si:-ru: me: uke: ma:ru juN-da:
考え 方 で(ぞ) もう 沖へ 回る のだから。

S me: kacusiN-nu: doNgu pəNgu: mata: siNdu:-ra
もう 鰹船 の 道具 また 船頭から

icibaNzjo:-ra: abu pusuNkeN-nu: panasi: sikaso:ri-mi:
一番釣手 から そんな 人達 の 話 を 聞かせて下さいよ。

I me: kacusiN:-nu: daNgu:-Qcu su:ka: mə: pu:siN
もう 鰹船 の 道具 と 言えば, もう 帆船

zidai-ra-nu daNgo:-ja: pu:siN-ma:-ja: saN boN
時代から の 道具 は 帆船は 三 本

(注102) ※[araN]
para:-ja: ariru bure:N e: saisjo:-ja: ajaN
柱 は 有って(ぞ) 居た。 え-, 最初 は いや,

nihoN-du para:-ja aQta tubasi bu:-ti su:ka:
二本(ぞ) 柱 は 有った。 飛ばし帆と 言うと

hukuru bu:-jo: kunu: pu:zaN-ma: araN-da:
袋 帆 ね。 この 帆桟では ない よ。

tubasi bu: jaruN-da: unu: uNma: nihoN-du (pu) para:
飛ばし帆 であるから, その その時は, 二本が(ぞ) 帆柱は

are:N-da: uNna: tubasi bu:-nu mə: subete mina:
あったのだから, それに 飛ばし 帆が もう すべて ミナ縄

kunu pu: pikumo:-ja ure: mina:-ti su: mata
この 帆を つるものは それは ミナ縄と いう。 また,

uNna: unu: haNdu:-ti su: munu aN-co: haNdu:-ti
それに その ハンドウと いう ものが あるよ。 ハンドウと

su: muno: ta: para: ari: bu:
いう ものは, また, 柱に(も) ありをる。

mata: pu:-nu: kunu: muno: ta: tiNna:-Qti: a:ku
また 帆の この あれは また テン縄 と いっている

muno:ta tubasi bu:-na:-ja: tiNna:-ja: a: kunu:
ものはまた, 飛ばし帆には テン縄 は いや この

zi:jo:-ti-ru se: juNda:-jo: zi:jo: mata:
ジーヨーと(ぞ) 言ったのだからね。 ジーヨー。 また

QsaNta-nu rjoho: haru muno: ta susu: (o: o:) o:ra:
下側 の 両方を 張る ものは また すそ, (言いあやまり)上手の

Q su Qsa:ra Qsu:-ti: si:-ru: kai siNtu huta:ci-ru
すそ, 下の すそ と 言って こう たった 二つが

ari bure:N-da: kai piku mu uN-na: unu: tubasibu:
あって いたのだから, こう 引くもの それに その 飛ばし帆

-nu tiNna:-ti sumo: mai-ni-ru piku-co: kai
の テン綱と いうものは, 前に(ぞ) 引くんだよ。 こう

huta:ci kai turi-ti: una: pi:ce: kai ti:
二つ こんなに 取って そこに 一つは こう 手を

mai-ni-ru harujuN-da: mai-ni: hari: asiti-N: mata:
前に(ぞ) 張るのだから 前に 張り, そしても また

huni o:ra parase: a:ku puso: pu:-nu baQtai
舟(を) 風上へ 走らせて いる ときは, 帆 が バツタイ

baQtai su: buso: Qta: (haizu) haizo:-Qti su:munu-nu
バツタイ する 場合は また 張りざを と いうものが

aribu: sau-na: kai kadu bukara-nu gusi-ba
ある。 竿 は こう, これ ぐらいの 小さな棒を

(注193)
hubariti: unu: tumu-nu miN-na: hubariti: uriba:
結えて その 艫 の ミミに くくって, それを

umuikisi pu:-ja: hariti: airu: sikai bureru ure:
思い切って 帆は 張って そんなに 使って いたので, それは。

(hai) haizo:-Qti su: aisi: huni-ba: parasi:
張り竿 と いう。 そうして 船 を 走らせて

a:ki:ti: ma:re: su:puso: me: hukuru pu:-ja:
いて 回転を するときは, もう, 袋帆は

o:ra: ma:re: naraN sizi-co: o:ra: ma:re:
風上への 回転は 出来ない わけ さ。 風上への 回転

cusu:ka: (o:ra:ma:re: cusu:ka:) o:ra: ma:re: si:ki:-ti:
と言うと (くりかえし) 風上へ 回転 して来て,

unu huni:N ma:suN su:ka: me: ki: pu:-nu kuNdo:
その 船を 回転すると すると, もう, 帆が 今度は

uQkairiruN-da: unu pu:-nu Qsu-ba kasami se: puso:
裏返えしになるのだから, その, 帆の すそを つかみ きれる 人は

bura:N-co: tubasarisu:-co: turi naNgira:ri:
居ないさ。 飛ばされる さ。 取って 投げられ

su:N-da: kuNdo: ma:re: su:puso: tubasibu:-nu
るんだから, 今度は 回転 する時は, 飛ばし帆の

(注104)
ba:i-ja Qsoma: ma:re:-Qti si: pu:-na: kaze: garasi:
場合は, 風下への 回転と いって, 帆に 風を 当たらせ

tu:se:-ti: kai Qsoma:-ni Nma: ma:ru sizi-co:
続けて, こう 風下に (言いあやまり) 回わる わけさ。

aNda: kunu: pu:zaN naQta: me: uNda: me: hune:
だから, この 帆桟に なったから もう, それから, もう 船は

me: o:ra: ma:re:-gera: me: o:ra: ma:re: e:
もう 風上 回り さ。 もう。 風上 回り を

su:juN-da: seQkaku: kai hune: o:ra: magi: ki:ti:
するので せっかく こう 船は 風上へ 回わして 来て,

N: me: tubasi:bu:-nu: ba:i-ja: Qsoma: ma:re: sunu:
もう 飛ばし帆の 場合は 場合は 風下 回りを するが,

kunu pu:zaN bu:-ja me: Qsugu o:ra:-ni:
この 帆桟 帆は もう すぐ 風上へ

junutoN-na:-ti: ma:si: parasuN-da: ube: me: huni:N
同じ所 で 回転して 行かすので それだけはもう 船も

magi: parasu: pasunu unu: ube: kauri: sita:
回転して 行かす ときの その それだけは 変っていた。

aiQti: tubasi:bu:-tu pu:zaN bu:-tu suka: be: kuna:
そして, 飛ばし帆と 帆桟 帆 と 言えば, 我々の ここに,

ukina:-ra: ukina:-nu mutubo:-ra: pu:siN-nu: o:re:taN-co:
沖縄から 沖縄の 本部から 帆船が 来られたってさ。

o:riti unu pu:siN-ma: me: pu:zaNpu:-co: pu:zaNpu:
来られて その 帆船は もう, 帆桟帆だよ。 帆桟帆で

jaQta: me: patuma-na-te: mada: pu:zaN-ma:
あったから もう 旭間では まだ 帆桟 は

(Na:) hazimaraN bure:N-da: aiQti: pu:zaNpu:-ba:
始まって いなかったので, そして 帆桟帆 を

muti kuta: mu:ru (ure:) urete: ai ubina: tiNna:-N
持って来たので, みんな, それは あんなに あれだけ テン縄も

ariti: (u:) munu:-si:-ru: maka:ri: unu: kakari:
あって 何かで 巻かれて, その 引っかかつたり

macibui-ba si: unu: (izi: izi: kasa) kasamasa
もつれたり して その (言いあやまり) うるさく

na:N-kaja:-Qti si: airu: kaNgai panasi butaN-du:
ないのかねと いって そんなに 考えて 話して 居た が

kuna-N pusu:-N me: uri-ba: uQca: huni-ba: miriti:
ここの 人 も もう それを あの人たちの 船を 見て

mu:ru: pu:zaNpu: nasi: sizi: aisita: mutijaQsa:
みんな 帆桟帆に なしたわけ。 そうしたら, 持ちやすさは
(操縦しやすさは)

me: pu:zaNpu:N-du: mutijaQsaru sizi:
もう 帆桟帆 が 操縦しやすい わけ。

huni-nu parasijo:-juN me: pu:zaNpu:N-du mase: juN-da:
船の 走らせ方 も もう 帆桟帆 が ましなのだから

mu:ru ato: me: pu:zaNpu:-juN nari:-Qti si: me:
みんな 後は もう 帆桟帆 にも なって やって もう

uN-nu puso: rju:-ja: haQcjo:-na: muti: o:Qta:
その時の 場合は, 艫は 八丁 ずつ 持って おられた。

rju: haQcjo: muti: o:re:N-da: rju:-nu sina: ta:
艫 八丁 持って おられたので 艫 の 網は また

hajo:bu:-Qti si: rju:-na: sikiru sina: hajo:bu-Qti
張り紐と いって 艫 に つける 網は 張り紐と

su:　　unu　rju:-nu　kai:　rju:　ku:　pusuna:　uN-na:
いう。　その　艣　の　こう　艣を　漕ぐ　ときに　それに

rju:bo:-Qti:　su:　munu　aN-co:　　mi:　piQkari:
艣の棒と　言う　もの　があるさ。　穴が　あけられ，

rju:bo:-Qci　sumunu:　mata　unu　QsaNta:-ra:　munu-Qcu
艣棒と　言うもの，　また　その　下から，　何　と

mo:　ta:　rju:mara-Qti　si:　uri:N　ari:　bure:N-da:
いうものは　また，　艣摩羅と　いって，それも　あり　をったよ。

huni:-N　nagasu　baso:　ki:　N:　nagasi　kazi-Qti　si:
船も　流す　場合は　来て　流し　舵　と　いう，

tumu-na:　kaze:　pu:siN-ma:　ari:buta:
艫　に　舵は　帆船　は　ありをった。

asiti　ure:　hucu:-ja:　me:　unu kaze:　kazi-nu　aNti
そして，それは　普通　は　もう　その舵は　舵が　あるとは

QsaN-da:　me:　　munu　kai　sai　sikiti:　huni:-N
知らないのだよ。もう。　何だ，こう 下げて　おいて　船　を

nagasu　busu-ru　me:　hutakena　ure:　tumu-na:　siNdo:
流す　場合に（ぞ）もう，　すぐ　それは　艫　に　船頭は

ta:　ure:　kai　iri-ru　Qsa:ra so:ruN-da:　ai
また，それを　こう　入れて（ぞ）　下げられるので，　そう

Qsa:ra s o:ru-ka:　me:　hune:　me:　pu:siN-ma:　maNta-nu
下げられると　もう　舟は　もう　帆船は　前方　の

ka:ra:-nu　aruN-da:　uri-nu　na:N-ka:　tumo:-ni-ru　kai
カーラ（龍骨）が　あるので，　それが　ないと　艫の方に　こう

(Qsa)　munu　si:　nari:　paru　zi:-co:　　uri:
(言いあやまり)何　して，　流れて　行く　わけさ。　それを

sagarasu (ga: a:)　sagarasu-ka:　me:　ma:taki　kai
下げると，　下げると　もう，　同じように，　こう

ju:riku:　sizi-gera:　　unu　tami-si:ru:
寄って来る　わけさ。　その　為　で

nagasikazi:-Qti si: pu:siN-ma: tumu-na: ari: buta-jo:
流し舵 と いって, 帆船 は, 艫に あってをったよ,

ure:
それは。

S unu hukana: ma:biN abuca doNgu tuka: mata:
その 外には もっと そんな 道具 とか また,

kacuQsi (Nna:) kikaisiN narite:-ra-nu doNguN
(言いあやまり) 機械船に なってから の 道具

do:re:-ja: aro:raNseN
などは あられませんでしたか。

I a: aributa u: izuho:su buso:-jo: be: unu: kisa:
ア-, ありをった。 魚を釣る 場合はね。 我々の その, 以前は

(注105)
saNsuiki Qcumo: na:juN-da-jo: be: unu:
散水器 というものは ないのだからね。 我々 その

su:hani:-Qti si: taki-ba bariti: su:gai-nu kaci:ni:
潮ハネ と いう 竹 を 割って 杓子 の 形に

sukuriti-jo: jui-ja: me: unu: (sibu) sibuku-N
作ってネー。 柄は もう その 釣り竿の

kacini: me: pusuhiru: bukaN-na: pusuhiru amaNna:
ように もう 一ひろ ぐらいずつ 一ひろ あまりずつ

me: taka: toN-ma:-ja: me: pusuhiru amaNna:-juN N:
もう 高い 所は もう 一ひろ 余りずつも

sikiti: uN-na: su:hani:-Qti: gaija:ma:-N suko:ri:
置いて それに 潮はねという 小杓子も 作って

o:riti: uri-si-ru kai su:-ja hane:-ti izo: ho:si
おかれて それで こう 潮は はねて 魚は 釣って

buta zzi: aiti: be:NkeN-ma: saNsuiki-nu: ha
居た わけ。 そして いるうちに, 散水器が

hazimari: taipaN huni:-sa:ri: jamatu huni-sa:ri-N
始まり, 台湾船 など 大和船 なども

kiQti me: izuho:suN-ti ku: buso: kiti: unu saNsuiki:
来て, もう, 魚を釣ろうと(やって) 来る 場合は 来て その 散水器を

haniru-wa-na: saNsuike: haniruN-da: mi:zirasa-Qti
はねるさねえ。 散水器は (水を) はねるので 珍らしい といって

me: mata uri-nu haniruka: me: unu: haniru toN-du
もう, また それが はねると, もう その はねる 所に (ぞ)

izo: mu:ru paru-cume: ai jaN-da: uN-da:
魚は みんな 行くんだよねえ。 そうなんだから, それから

je:Nma-na:-juN me: unu (Qsu Qsuhani cumo: na:N
八重山にも もう その (言いあやまり)

bure: e:) saNsuiki cumo: na:Nbure:ru:
散水器 というものは なかったのであろう。

uNdaru baNta: Qse:ra-ru: saNsuiki:-N Nzi: kutaN-nu:
それから 私たちが わかってから(ぞ) 散水器も 出て 来たが,

isaNke:-na: saNzu:-bukara: joNsu:-bukara: butaN-kaja:
石垣には 三艘 ほど, 四艘 ほど 居たか ねえ。

saNsuiki sike: hune: buta-nu: patuma-na-te:
散水器を 付けた 船は いたが, 旭間では

baNta:-ra pazumi:-jo: baNta:-ra pazumi: uri:
私たちから 初めだよ。 私たちから 初め それを

sikiti: baNta: sikiti: nikaneN me:-bukara-si-ru
付けて 私たちが つけて 二ケ年 目 ぐらいで (ぞ)

nukaru-nu huniNke:-ja: suko:re:-na: suko:Qta-nu
残りの 船などは 付けられたねえ。 付けられたが

nu: me: kunu saNsuiki: sikiraNto:-se:-jo: me:
もう この 散水器を 付けないでは ねえ。 もう,

izo: me: sikiti: huni-na: kai ki: butaNtiN-jo:
魚は もう 付けて 船に こう 来て いたっても ね,

uNda: narai-ti: unu saNsuiki-nu utiraNkeN-ma: izo:
それからは 慣れて その 散水器 が 落ちないうちは 魚は

ho:N-co:　　na:　kai　me:　iQpai　me:　(buri)
釣れないんだよ。　たゞ,　こう　もう　いっぱい　もう　(言いあやまり)

buribuN-du:　ho:nu　　aiNda:　unu:　saNsuiki:-Qti:
居るげれども　釣れない。　それなので,その　散水器　と

su:mu-nu　ko:ka:　me:　ube:　aribubaN-na:-Qti　si:
言うものの　効果は　もう　それだけ　あるんだなあ-　と　いって,

ika:na:　izo:　ki:　kwaja:　izu:-Qti:　si:　me:　iQsju:
どんなに　魚は　来て　よく釣れる魚だと　いって　もう　いっせいに

me:　Qfai　butaN-tiN　uri-nu　utiruNkeN-ma:　unu:
もう　食って　いても,　それが　落ちるまでは,　その

si:-na:　muNdari-na:　ho:N-co:　rikuce:　siti　ube:
釣り針に,　エサに　食わない。　理屈を　して,　それだけ

Qsi:bu:　sizi-gera　me:　aija:-ti:　uNda-ru:　unu:
知っている　わけ　さ　ねえ。　それで,　それから(ぞ)　その

saNsuiki:　Qcumo:　me:　munu　se:ki:
散水器と　いうものは　もう　何　したので。

mata　(unu ki:)　kikai-na:-ja:　me:　no:N　gizico:　are:
また　機械には　もう　何も　技術は　ありは

se:sanu　me:　kisa:　me:　kikaiN:-ju　hune:-ja
しないが　もう　以前は　もう　機械も　船は

siNzo:-ba:　sukuriti:　kikai-ja:　(ja:)　cju:buru-ba
新造(船)を　作らせて　機械は　中古品を

(注107)
kaiki:ti　sikibe:N-keN　kikai-nu　kosjo:darake:
買ってきて　付けていると,　機械が　故障だらけに

(注108)
naribe:ti　na:Nkwai-juN　me:　(u:) wazacju:-na:-tiN
なっているので,　何回も　もう　操業中　にでも

kikaiba:　paNcasi:　turisiki:　nu:-Nkui　si:　aiju-N
機械を　はずし　取りつけ,　何もかも　して　そんなことも

(注109)
si:Qta-nu　kunu:　mata　oiru:-gera:　oiru:N　kisa:
したが,　この　また　オイル　さね。　オイルーも　以前は

tarasi:　aQta-co:　　patuma-na:　tarase:　si:
「たらし」で　あったよ。　　鳩間では　　タラシを　やって

si:buta-nu:　unu:　tarasi:　si:　sumo:　me:　oiru:
していたが,　　その　　タラシ　といっているものは, もう　　オイル

kageN-nu　na:Nka:　me:　gju:saN　(iN:)　icinici:　me:
かげん が　　何か　　もう　いくらも,　　一日　　もう

iQtu-N　niQtu-N　QfaisuN-da:　　kuri-ba:　mata:　oiru
一斗も,　二斗も　　食うんだから。　　これを　　また,　オイル

bako-Qti　si:　uN-nu　ma:N-na:　ta:　baNta:　taipaN-ra:
箱　と　いう　あの　ころには　また　私たちが　台湾から

cju:moN　si:　tugiti:　unu:　urisiruka:　ici:ci:
注文　　して　もって来て　その,　それでならば　　いちにち

gusuna:-ru　oiro:　Qfu:Qti　sita:　a:i　siba　te:
五升ずつ (が)　オイルは　食うと　言ったので, そう　したら　それは,

kikaija:　jakanu-te:-Qti　si:　usuku　munu:　se:ti:
機械は　　焼けないのかって　言って　あれほど　何　しながら

a:kutaN-du:　manama:　kaNgai　miruka:　me:　ube:N-ca
いたけれど,　今　　考えて　みたら,　もう　それだけさえも

QfuN-no:　me:　　mudani　me:　munu:　tarasi:　si:　me:
食わないよ。もう,　　むだに,　もう　なに,　たらして　やって　もう

muru:　oiro:　siti　bure:　sizi-gja:　me:
皆　　オイルは　捨てて　いた　　わけさ　　ねえ, もう。

aiti　uri:-N　ta:　baNta:　taipaN-ra:　N:　oirubako:-Qci
そして　それも　また　私たち　　台湾から　　オイルバコーと

sumo:　cju:moN　si:　tugi:　unu　maN-na:　me:
言うのを　注文して　持ってきて　あの　頃には　もう

patuma-na:-te:　baNta:-ru　pazime:　(siki)　siki
鳩間には　その　私たちが　初めは　　付けて

bure:ru　　(haQte: mana:)　manama:　naQta:-ti　me:
いたよ。　　(言いあやまり)　今に　なってみると,　もう

muru:　aibu　tarasi:　sumo:　na:muN　me:　Nti:
皆　そんな　「たらし」　というものは　ない　よ。　そして,

kikai-nu　ju:sui　pazume:　ta:　ju:sui　jaQta-jo:
機械　の　「有水」。　初めは　また　有水で　あったよ。

me:　hune:　me:　ma:NsiN　me:　unu　mizi-ba　muti
もう　船は　もう　満船　もう　その　水　を　持って

bura:N-ka:　naraN　sizi-cume:　kikaiN-du:　mize:
いないと　出来ない　わけ　さね。　機械にが　水は

me:　Qfa:si:　bu:Nda:　sunigaki　su:　busu-na:ta:　me:
もう　食わせて　いるんだから，曾根がけ　する　場合などは，　もう

zuNni　unu:　iQtukaN-nu:　gorokuziQkaN-na:N　nu:si
本当に　その　一斗かんの　五六十かんずつ　乗せて

parisuN-da:　me:　aisi:　siNniN　me:　kikaiN
行くんだから　もう　そうして　わざわざ　もう　機械に

Qfa:simuN-ti　si:　N:　mizi taNku-N　me:
食わせるものって　言って　水　タンクも　もう

sigoziQkaN-na:-N　pe:ru　mizitaNku:-N
四五十かんずつも　入る　水タンクをも

ari:bure:N-da:(Nzi:)　kuri-nu　musui　naQta　pusu:N　ta:
あってをったのだから，　これが　無水に　なった　時も　また

baNta:　patuma-na-te:　baNta:　pazumi:　musui
私たちが　鳩間　では，　私たちが　初め　無水に

nasita-jo:
なしたよ。

musui　nasuka:-te　ure:　kikai-juN　me:　sukara:N
無水に　なすと，　それは，　機械をも　もう　力も

jo:-ru　aru:-tuka:　naNtuka:-Qti　si:　ai-ru　panase:
弱い　とか，　何とか　と　言って　そんなに　話は

aQta-nu:　si:miQta:　no:N　sukaraN　jo:N-ti　su:
あったが　やってみたら，　何も　力も　弱いと　言う

kutu:-N umo:raN se: cibaN junu: gjohuku:maru:-Qti
ことも 思われなかった よ。 同じ 漁福丸 と

si: baNta: siNzo: sai nizu: go baraki sa:siti: unu
いって 私たち 新造を 作って 二十五 馬力を 造らせて その

kikai-ba: ta: turiti: hutakena: musui kaizo: siti:
機械を また, 取って すぐ 無水に 改造 して,

sukauta-nu: uN-nu basu-na: ma:zuN patuma: pu(sw) Nke:
使ったが その ころに 一緒に 鳩間の人たちは

ma:zuN icigo:-Qti si: si:o:Qta: uQca-sa:ri:
一緒に 一号と いって やっておられた。 あの人たちと

parasi miri: aisi: unu musui nasiti:-N parasi
一緒に走らせて みて, そして その 無水に なしても 走らせて

miriba:-N kauraNse:-jo: jaQpasi: parida:-ta:
みて も, 変わらなかったよ。 やっぱり, 走り早かった。

asita: sikara: tasita unu: ai kauruN cusumo
そしたら 力は たいした その それほど 変わる というのは

na:NbaN-na:-Qti uN-nu ma:N-na: umo:ri: bure: sita-nu:
ないのだなあーと あの 頃に 思われて いた けれど

(注110)
uN-ma: zi:saN-nu:N-du zi:saN-du: kikwaNse: si: o:ri
あの頃は ぢいさん が ぢいさんが 機関士は して おられた
(宮良長康さん)

bure: pazi:
はず。

daikeN puso: uNma: pi:tai jaruN-da: jamato-na: bu:
(大工定市さん) あの頃は 兵隊 であるから, 大和に 居る

sizi-co: jamato-na: be:ti: uNda: kaizo:-ja: N:
わけさ。 大和に 居て それから 改造は

musui kaizo: sita juN-da: zi:saN-nuN-du: munu: si:
無水に 改造 した のだから ぢいさんが 何を して

o:Qta-nu a:i siti me: kikai:ja: N: munu-da:
おられたが そう して もう, 機械は 何 だよ。

musui　jaruba-Q,ti:　kikai-ja:　sikara:　kauru　kasini:
無水　だからって　機械は　力は　変わる　ようには

bura:NseN　mana:-te:　kikai-ja:　mu:ru:　musui-da:-me:
いなかった。　今はして　機械は　みんな　無水だよもう。

S　N:　aNde:ka:　kacusiN　araN-do:si:　kuNdo:　ino:
そんなら，　鰹 船では　なくて　今度は　沿岸の

izuN-do:re:　turo:ru　piN-ma:　mukase:-ra　nu:si:　si:
魚などを　取られる　ときは　昔から　どのように　して

o:Q,ta-kja:-nare:
おられたのだろうかね。

I　kisa:　me:　ino:izu　turo:ru　buso:　sinakakija:-ba
以前は　もう　沿岸の魚を　取られる　場合は　シナカキヤー　を

si:　turo:ri-ti:　izuN　taku-nu　aru　puso:　me:
やって　取られて，　魚も　たこも　ある　時は　もう

kuija:-tiN　no:N　me:　ja:di:　isaNke:　muto:raNka:　naraN-cu:　me:
潜いででも　何でも　もう　かならず　石垣へ　持っていかれないと　出来ないわけ　ね。
(困る)

taNko:-N　muto:ru　pusu-nu　ari:　isaNke:　muto:ru
ta炭鉱へも　持っていかれる　人　も　あり，　石垣へ　持って行かれる

busu-nu　ari:　si:　me:　ai-ru　ka:si:　o:re:Nda:
場合　も　あり，　して　もう　そんなに　売って　おられたから

izunu:　aru　baso:　me:　kuija:-tiN　no:N　me:　e:
魚が　ある場合は　もう　潜ぎながらも　何でも　もう

munu:　ai-ru:　ka:siN　o:Q,ta　baNta:-ba:ki-N　ai:N:
何だなあそんなにして　売りに　行かれた。　私たちまでも　そんなに

me:　naNkwai-N:　me:　kui-ja:ti:　taNko:-juN　muti
もう　何回も　もう　潜ぎながら　炭鉱へも　持って

pari:　isaNke:-juN　muti　pare:N　puso:　ari
行き，　石垣も　持って　行く　ことも　ある

bu:-juN-da:　ai-ru:　kisa-N　puso:　si:　o:Q,ta:-jo:
のだから　そんなふうに　以前の　人は　やって　おられたよ。

S sinakakija: ure: mana:-ru so:Qta-kaja-nare: ure:-te:
シナカキヤー それは, どこで (が) なさったのかねえ, それは。

mata: nu:si:-ru: so:Qta-gja:-nare:
また, どんなにして なさったのか ねえ。

I sinakakija:-N me: du:-nu sima-na:-N si: paita:-N
シナカキヤーも もう 自分の 島 にも やり, 西表にも

o:ri: gabanare: ma:ra:-ba:ki: muru: o:ri:
行かれ 赤離の あたりまで, みんな 行かれて,

sinakakija: si: o:re:-juN-da baNta:-N N:
シナカキヤーを やって おられたのだから。 私たちも

kacusiN-ma: jamiti: kusike:nu abuzi-tu gi: munusiti:
鰹船は やめて, 小底家の おじいさんと 行って 何をして,

iNtama:ra pusuNke: mu:ru: arabusuke-nu acja ta:
西村の辺の 人々は みんな 大工 (東大城) の お父さんたち,

panasike-nu acja ta:-N mu:ru gu:-ba siti:
花城の お父さんたちも みんな 組を やって,

kama: iramute-na: gi: be:ti: sinakakija: si: zuQtu
あそこへ 西表 に 行って いて, シナカキヤを して, ずっと

kama: sirahama:-ra hukabanare: ma:ra: a:ki: miri:
あそこ 白浜から 外離 あたり 行って みて

simahakija: si:N miriti ki: uNda-ru: kusike-nu
シナカキヤーを して みて 来て, それからが 小底の

abuze: aN-juN so:Qto: sa:se: aro:re:ta: se:
お父いさんは 網をも そうとう 作らして あられた よ。

sa:si: o:ri ti-ru: una: me: munu so:Qtaru:
作らして おられて, 自分は もう 何を なされたよ。

mata: mana: acja: ta: hikicugi: aN-ba: muto:ri:
また 今の お父さんは また 引き継ぎ, 網を 持って行かれて

unu uN-nu busu: sukuri (ru) ta: aN-ma: so:aN-nu
その その 頃, 作った 網は よい網の

buN-ma: mu:ru ka:se: aro:ru-da: taka aN-nu
分は みんな 売って あられるよ。 高網 の

buN-ma: mu:ru: ka:siti: unu: pisa: aNna:ma-ka:ni-ru:
分 は みんな 売って, その 低い 網 これだけが

mana: muti: o:ruN-da: gju:sa izo: turabaN me:
今は 持って おられるのだから。 いくら 魚を 取っても もう

ziNpu: maraN puso: kuija:-tiN no: ka:siN-du
順風 でない 時は 潜いで でも, 売りに(が)

paQta-jo: uri kaNgairu-ka: manama-nu: (u: me:)
行ったよ。 それを 考えると, 今の

izuturi puso: gju:sa turabaN me: (ziru:) kikai
魚取り 人は どれだけ 取っても もう (言いあやまり)機械

(注111)
si:ru: mo:ta:-si-ru: paruN-da: no:-N naNgi:-N
で(ぞ) モーターで(ぞ) 行くんだから 何も 難儀も

na:nu
ない

S patuma: pi:-na: aN uraso:ru piN-ma: maNma:ra:
鳩間の 干瀬で 網を おろされる ときは, どこの辺に

nu:si nu:si si:-ru: uraso:Qta-kajare:
どのように して おろされたかねえ。

I aN urasu baso: me: tuniku: sinahakija: su:
網を 下ろす 時は, もう とにかく シナカキヤーを する

baso:-ja: ure: oikomi-Qti si: me: manama-nu
時 は それは, 追い込みと 言って もう 今 の

oikomi ami-Qti si: uri-ba: munusi bunu: mata:
追い込み網 と いう それを 何して, いるが, また

hi-tamasa: su: puso: Qta: unu QkusaN-Qti si: na:i
ヒータマサー する ときは また その クサン と 言って ただ

aN-ba: pari: sikiti: izo: (e:) su:-N pisaba-ru
網を 張って おいて 魚は 潮が 干いたら(ぞ)

izo:　turujuN-da:　me:　ai-ru　si:　bure:N-da:　bicuni
魚は　取るんだから　もう　そんなふうに　して　居たので　別に

me:　N:na:　kauru　mo:　na:N-jo:　me:　(kisaQtu)
もう　それに　変わる　ものは　ないよ，　もう。　(言いなおし)

kisaQtu　manama-tu:N　mu:ru　junumu:　jaru:
以前と　今　とも　みんな　同じもの　である。

sunaka:-N　junutoN　na:-ru　si:bu
海　も　同じ所　に(が)　やっている。

S　ure:　maNma:　iNta:-ja:　iNta:　aNta:N . . . . .
それは　どの辺，　西では　(西は　西も)

I　basjo:　ari:bu:　kunu:　su:-ba　pisasiti:　turumunu-jo:
場所は　ありをる。　この　潮をば　干させて　取るものかね。

S　o:
はい。

I　ma:ma:-Qti si:　unu　basjo:-ja:　aribu:-cure:　unu
どこどこって，　その　場所は　有るって。　その

kumuru:-ba　miri:ti-ru　su:juN-da:　na:i　oikomi-Qti
籠り所を　見て　やるんだから。　ただ　追いこみと

sumo:　oikomi-Qti　sumu:　u:　uriN　(ie)　izu-nu　sagari:
言うのは，　追いこみと　いうのは，　それも　魚の　下りてくる

zu-ba　miriti:-ru:　(u:) me:　su:　juN-da:　uriN　mu:ru
所を　みて　もう　やる　のだから　それも　みんな

basjo:-ja:　ari:　bu-jo:
場所は　あり　をるよ。

S　iNta:　maNma:N-na:　nu:si:　so:ru-wa:-re:
西は　どの辺　に　どんなに　なさるのか　ね。

I　na:i　unu:　jara-nu　iNta:　uma:　paruka:　sigu:
ただ　その　屋良の　西の方。　そこへ　行くと　すぐ

ari:　buN-da:　ui-ni:　Nka:su-jo:　aN-ma:
あるん　だから。　上の方に　向けるよ。　網は。

(pi:) pi:-ni Nka:siti: pi:(i:) nu: izu: sagariku:
干瀬に 向けて 干瀬 の 魚が 下って来る

izuru turujuN-da:
魚を 取るんだからな。

S unu: piN: sikai o:ru (aN) aN-nu sjurui-ja: nu:si
その とき 使われる 網の 種類 は どんな

bu:mu-nu aro:ru-wa:
ものが あなれますか。

I aN-nu sjurui-tu site: me: zuQto: (注112) hukuru-N
網の 種類と しては もう ずっと 袋の

toN-ma:-ja aN-ma: taka: mata ui naru-a:si: sidai
所は 網は 高く, また 上に なるにつれて 次第

siNdai aN-ma: pisa: aN-du: kai muti gi: sujuN-da:
次第に 網は 低い 網を こう 持って いって やるんだから

uN-na: sjurui-Qtu site: me: taka:mu:nu-Qtu
それには 種類と しては もう 高いもの と

pisa:mu-Qtu: ubi-nu: N-du: aN-nu: aN-ma: kauri:
低いものと それだけ が 網の 網は 変わる

su:
のだ。

S ure: su:mica:ru sa:ri: aN-ma: iritiru: turo:Qta
それは, 潮の満てくる 時に 網は 入れて 取られたのか

me:
ねえ。

I a: su:mica:ru sa:ri su:muN: aru-nu: kure: subete:
いや, 満ち潮 と共に やるのも あるが, これは すべて

me: maNcjo:N pusu-na: gi: su:-nu pisi paraN
もう 満潮の 時 に 行って 潮の 干いて 行かない

keN-na: gi: aN-ma: iriti: ku:-nu muno: me:
うちに 行って 網は 入れて 来るが あれは, もう

(munu: hi:)　hi:tabarusa:-Qti　su:mu:　ai-ru　si:bu:-co:
(言いあやまり)　ヒータバルサー と　いうものは，そんな　しているよ。

S　manama:　i:si-nu　ziki　aru-nu　me:　patuma-nu　i:si-nu
今　は　角又の　時期　ですが　もう　旭間　の　角又の

i:se:　ure:　iciN　ma:ra-ra:　nu:si:　si:-ru:　N:
角又は　それは　いつ　の頃から　どのように　して

turo:Qta-kaja:-nare:
取られたのかねえ。

I　N:　i:si:-Qti　suka:　me:　baNta:　guma:-Qta　keN-ma:
え-　角又と　言えば　もう　私達が　幼少だった　時は

N:　ba:　gaQko:　sucugjo:　siti:　zju:　goroku-N
私が　学校　卒業　して　十　五六の

ma:N-na:　paita-na:　daike-nu　abuzi:-Qtu:　ju:ze-nu
ころに　西表に　大工の　おじいさんと　松竹の

abuzi:-Qta:　sa:ri:　maki-nu　usi:　baN-Qti　si:　be:ti:
おじいさんたちと　一緒に　牧場の　牛の　番と　いって，居って

uri:　si:tena:　kunu:　manama-nu　naNkai:　kisa:　koga-ti
それを　やりながら　この　今　の　南海商会は　以前は　古賀と

si:　bure:N-da:　unu　koga:-ra:　munu:　i:si:
いって　いたので，　その　古賀から　何　角又を

kaio:ruN-ti　siba:　unu　ma:ra:　meNseki:-N　wazuka:
買われるんだと 言うので，あの　ころ　面積も　わずかで

are:N-da:　uma:-ra　i:se:　turi:ti:　mutigi:　taka:ni-N
あったから　そこから　角又は　取って　持って行って，　多くも

kaio:raNseN　me:　cju:moN-nu:　wazukana:　arujuN-da:
買われなかった。　もう，　注文　が　わずかずつ　あるので，

(ubira)　mutigi:　(N:)　ture:ti　ka:se:　si:si:
持っていって　取って　売ったり　して

butaN-nu:　sonogo:　kunu:　kumi ai-ba　sosiki:　siti:
居たが　その後　この　組合を　組織　して

kumiai sosiki siti: uN-nu basu-na: ki:(N:)
組合 組織 して, その 時に 来て

tumure-nu: unu: tomori seiki:-Qti: su: pusu:
"友利"の その "友利 盛喜" と いう 人が

kumiaicjo: si:ti: uN-nu pusu-na: be: i:si bi:-ra-jo:
組合長を して その 時に 我々の 角又の干瀬から,

i:sibi:-ra: huca:ma:-ba:ki: nikwai-ja: jo:soku so:re:N-co:
角又の干瀬から, フツアーマまで 二回は 養殖 された よ。

turiti: doNdoN taniise: maki: me: huca:ma:
取って どんどん 種石を 蒔いて, もう フツアーマに

sukuN-keN maki: nikwai-ja: zuNni: jo:sjuko: so:ri:
至るまで 蒔いて 二回 は 本当に 養殖を なされ,

uN-nu atu-na: me: i:si: turo:ru buso: me: (sai)
その 後で もう 角又を 取られる 時は もう

i:si: saisju: so:ru buso: me: jo:sjuku sumu:tu
角又 採集 される 時は もう 養殖 するものと

junumu:-cu me: turiti: tada:i me: unu: ise:
同じことさ もう。 取って どんどん もう その 石 を

turi: maki: suwa: na: N:da: me: cjo:du me: ani
取って 蒔く さ ねえ。それだから もう 丁度 もう 種

isi-ba go:ra: me: po:ri: jo:sjuku: si:bu:
石を 多く もう 蒔き, 養殖 している

katacini: naru sizi:-co: aibe:ti: sidai
ように なる わけだよ。 それだから 次第

sidaini: me: N: uN-da: i:se: turi tu:si o:ruN-da:
次第に もう その頃から 角又を 取り 通して おられるから

uma:-ja me: meNsike: sidai ni: maija: naruN-ti:
そこ は もう 面積 は 次第に 大きく なるさ,

zuQto aNta-nu i:si bi:-ra huca:ma-ba:ki: mu:ru
ずっと 東側の 角又干瀬から フツアーマまで みんな

pusutu:ru manama: i:si nari bu: sizi-da me:
一通り 今では 角又に なって いる わけだよ もう。

aiti: saikiN-juN ta: jo:sjuko: cja: si: tu:si-ru:
そして, 最近も また 養殖は 常に し 通して

bu:-juN-da: mana: me: mu:ru: hitoto:ri: mu: i:si
居るのだから, 今は もう みんな 一通り 全部 角又に

naribu:
なっている。

asu-nu: baNta: zidai-nu pusuNke:-nu-jo: ba:
だ が 私たちの 時代の 人(々)たちがねえ, 私は

iQciN pazumi: nikwai jo:sjuko: si:ru aru:-nu:
一番 初に 二回 養殖は して あるが,

ta:N uri: ju:sjuku: unu: munu: a: si: panasi
誰も それを 養殖し その 何を 言って 話

so:ru pusu-ti: o:raN-co: Nda: uN-nu ma:ra: me:
なさる 人とて 居られないよ。 だから, その 頃は もう

muru: (ru:) pi:tai-na: o:ri: jamatu saN-na:
皆 兵隊に 行かれ, 大和 あたりに

o:re:ti-ru: haQkiri: uri Qso:raN bu:-ju: baNta:
居られたので はっきり それを わかられないのか, 私たちは

pi:tai-juN paraN-da: be:ti me: du:-si: se:N mu:
兵隊にも 行かないんだよ。だから もう 自分で やった ことに

naribuN-da: Qse: sizi-cu me: airu-nu:
なっているのだから (という)わけさね。 そうなんだが,

baNta: uN-nu ma:ra-nu pusuNke:-nu muQtu aibu
私たちは その ころの 人たちが, ちっとも そんな

panasi: so:raN-ba:-ru: ba: muQtu Qsiru so:raNju:
話 を なさらないのが, 私は 全く 知って いなさらないのか,

mata uN-nu: jo:sjuku: so:raNta:-ju:-Qti si: na:i
また, そのころの 養殖を なさらなかったのかなあ-と 言って ただ,

ai kaNgai unu me: baNta: zidai-nu: pusuNke:-ja:
そんなに 考えて その もう 私たち 時代の 人たちは

te: naNzu: kuna: mana: me: o:raN-da: kusike:
また それほど ここでは 今は もう おられないのだから。 小底の

acja: zi:saNta:-N o:ruN-da: kusike-N acjata-N me:
お父さん じいさん(官良長康さん) 居られるので, 小底の お父さんたちも もう

uNma: jamatu-na: o:Qta-ju: wakaraN-cure:
そのころは 大和 に おられたのか わからないさねえ。

jamatu-na: o:Qta-ka: uri: wakaru wake: na:N-co:
大和に おられたのなら それを わかる わけが ないさね。

pi:tai-na: o:Qta-ka:
兵隊 に 行かれたのなら。

aiti: icumaNpusuNke:-ja: ure: tiNnumucuru jaru:
そして 糸満の人たち は それは 天然物 で ある。

(u:) mukasje:-ra: arumu se: mukasje:-ra arumu:
昔から あるものだのに。 昔から あるもの

ataN-tiN ure: me:ke-nu ujapusuN-du: turo:ri: una:
であっても それは 宮古屋(大城)の 祖先 が 取ってこられ, そこに

ibo:re:ta: Qzu: mukasi panasje: aru-juNda:
植えられた という 昔 話は あるので,

ibo:reNke:N mata ure: unu: j:sibi:-Rti si: unu
植えられたとき, また それは その 角又干瀬 と 言って その

aNta-N ubina: are:N-da: uN-da: kunu kumiai sosiki:
東の(一部) それだけに あったので, それから この 組合 組織

siti: patuma pusuN-du ubi: jo:siku se:ti-ru mana:
して 鳩間の 人が それだけ 養殖 したので また

iQpaN mu:ru hirugari: buNda-jo:(i:) i:siN(N:no)
一般に みんなに(全域に) 広がって いるのだからねえ。 角又も

me: icoNpusuNke-nu ure: tiNnumucuru jaru-Qti
もう 糸満の人たちが それは 天然物で あるっと

asitaN-tiN no:siN du: patuma pusuN-du jasuko: si:
言ったとしても 何としても 自分の 鳩間の 人 が 養殖は して

kama:-ra: turo:ri: tani: Nzasi:-N so:ribaN-na:-Qti
あそこから 取って来られ 種を 出させも なさるのだなあ と

kuto: me: mukasi panasi sikiti: me: haQkiri: si:
いうことは もう 昔 話を 聞いて もう はっきり して

bure: suN
をりは する。

S ma:ra tugo:-Qta-kja:-re:
どこから とって来られたのかねえ。

I kumoma:-ra-ru turo:-Qta-tu su: panase: aru:
小浜島から(が) 取られたと いう 話は ある。

kumoma:-na: i:se: aribuba-se:
小浜には 角又は あるよ。

S kumoma: mukasje:-ra i:sje: ari o:Qta:
小浜は 青から 角又は あって おられたの?

I (i:) i:sje: ari: buta-Qcu: panasje: aribu-Qco:
角又は あって いたという 話は あるさ。

(kumo) kumoma-na:N ari: kabira-na:N kuma:-juN me:
小浜にも あり, 川平 にも ここにも もう

i:sibi:-Qti si: na:i uma ubi-na:-ru aribure:N-da:
角又干瀬と 言って ただ こそ だけにが あっていたからねえ。

S (a:) i:si:bi:-na: uN pi:-nu na: nu: nu:-ti
角又干瀬に その 干瀬 名前は 何 何 と

aro:ruN
(名前が) あられる?

I aribu: una: i:si:-nu tuQta:-ru: i:sibi:-ti si:bu:
ありをる。 そこに 角又を 取ったので 角又干瀬と 言っている。

uma:-ja: daiku bi:-ti: su:-jo: unu pi:-nu
そこ は ダイク干瀬 と 言うよ。 その 干瀬の

kumaNta-nu kadu-jo: uma:-ja: daikubi:-ti-ru
こちら側の 角 ね。 そこ は ダイク干瀬 と

na:-ja aru: QsaN nu:-nu kaNkei siru:
名 は ある。 知らん, 何の 関係 で(ぞ)

daiku bi:-ti: na:-ja: sikirari: bu:-ju: ure:
ダイク干瀬と 名は つけられて いるのか それは

wakaranu: daikubi: (ure:ra) paita-nu uma:-ra kai:
わからない。 ダイク干瀬 (それから) 南風端 (西表)の そこから こう

Nzi: bu: toN-ma: ta: uma:-ja: na:sibi: na:sibi:-Qti
つき出て いる 所 は また そこは ナーシ干瀬 ナーシ干瀬 と

su-ka: me: jaQpasi: (na:) na:na:si: munu nu pi:-nu
言うと もう やっぱり 長々と ものが 干瀬が

Nzi: be:-ti-ru na:sibi:-ti: sikirari bu: kaja:-ti
出て いるので ナーシ干瀬 と つけられて いる のかなあ-と

umu:-nu: daikubi:-ti su:mu: uma-N kadu-nu: unu
思うが, ダイワ干瀬と 言うものは そこの 角 の その

na:-ru wakaraN-sa: nu:si ki:-ru ai suko:-
名前が わからないさ どういうわけで そう 付けられた

Qta-ju:
のか。

S ure: huca:ma-nu aNta kata: nari: bu: me:
それは フッアーマの 東側の 方に なって いるのかねえ?

I aNta naribu: huca:ma:-ra: zu:Qto aNta-nu
東の方に なっている。 フツアーマーから ずっと 東 の

kadu-gera me: pi:-ja: huca:ma:-ra: aNta: zu:tu
角 さ ねえ。 干瀬は フツアーマから 東方へ ずっと,

kai: ma:ri giti: na:i paita-N huci-N toN-jo:
こう 回わって 行って すぐ 南風端の 入り口の 所ねえ。
(西表)

(uN) uma-ru daiku bi:-Qti: asu
そこを ダイク干瀬 と 言う。

S unu huca:ma-nu iNta: ma:ro:-ja: ta: nu:si
その フツアーマ の 西側の 辺 は また どう

naribu-wa:
なっていますか。

I uma:-ja: i:rizima:-ti zu: umaN pi:-ja: huca:maN
そこは イーリジマと いう。 そこの 干瀬は フツアーマの

iNta kata: i:rizima-Qti su: umaN: i:se: mu:ru
西側の 方 イーリジマ と いう。 そこも 角又は みんな

(kana:N)
ari:bu:-da: ana:-N jo:siko: gju:musi:-N jo:siko:
あるよ。 あそこにも 養殖は 幾度 も 養殖は

baNta: si:re:-juNda:
私たちは やったのだから。

S i:rizima:-ra: ho:tobare:-N ma:ra: uma-N ma:ra:-N
イーリジマから 鳩離島 の 辺は, そこの 辺 も

pi:-nu na:-N aro:ruN
干瀬の 名も あられますか。

I N: i:rizima:-ra uciNta: (hoQtu) hoQtubare:-N-ba:kiN
ン-, イーリジマから 内側 鳩離島の(所) まで

-nu aida-na-jo: nakabi:-Qti sumu-nu aribu-co:
の 間に ね。 中干瀬 と 言うものが ある さ。

una: nakabi: Qcumuno: aisi: unu suni-co:
そこには。 中干瀬 というものは そして, その 會根 さ。

suni-ru: uNna:-ru: unu: tu:ze-N pusuNke-nu mana:
會根 が それにが, その 通事家の 人たちが 今

turi o:re: isje: (unu) unu suni kai-ti baNma:
取ってこられた 石は その 會根 か と 私には

umo:ri: nakabi:-ti: su: unu uma:-ja:
思われる。 中干瀬 と いう その そこ は

nakabi:-tiru su: kisa-N pusuNke:-ja: so:re:-juNda:
中干瀬 と 言う。 以前の 人たちは 言われたのだから。

S patuma-nu sima-nu ma:ra-nu pi:-nu na:-ja: nu:
鳩間 の 島の 辺の 干瀬の 名は 何

nu:-tiru aro:-wa (aro:ruwa)
何 と (言かれて) あられますか。

I patuma-na:-Qti: site: me: aNta: ki: takabi:
鳩間島に (としては) おいては もう 東の方へ 来て 高干瀬

(ki: taka) takabi:(-ba)-ra siNta: ma:ri: ki:
高干瀬 (を) から (島の)後方へ 回わって 来て

iNtaN-du: ta: ku:sibi:-Qti: na:-ja aru:
西の方が また クーシ干瀬 と 名 は ある。

(ku:sibi:)
kubisibi:-Qti su-ka: ta: maNta-nu sune:-ra mu:ru
クーシ干瀬と 言うと また 前の方の 曾根から みんな

maizuni-gera me: maNta-na: suni:-nu aruN-da:
前曾根 さ もう。 前の方に 曾根が あるので

mai-nu suni: maizuni:-Qti si: na:-ja: aru-nu:
前の 曾根 前曾根 と 言って 名前は あるが

uNna:-ru ki: ta: unu maizuni-na:N ta: nu: suni
それに (が) きて また その 前曾根 にも また 何 曾根

nu:suni:-ti: zako:turi-te:na: muro: na:-ja sikirari
何曾根と (言って)雑魚 (エサ) 取りながら みんな 名前は 付けられて

bu:-jo: se:
いるよ。

kana-te: iNta-nu huciNtoN-na: ta: na:na:-nu: pi:-nu
あそこでは 西側の 入り口の所には, また, 長々の (長い) 干瀬が

aru-nu ure: ta: manama sikitiN nakasike-N
あるが, それは また, 今 に おいても 仲底家の

sunigwa:-Qti si: na:-ba sikirari bu:-nu: ure: me:
曾根 と 言い, 名 が 付けられて いるが, それは もう

nuNti-ru nakasike-nu sunigwa:-Qti: na:
どうして 仲底 の 小さな曾根って 名を

sikirarita:-Qti su:ka: unu: pu:siN zidai-na:-jo:
付けられたのかと 言うと, その 帆船 時代に ねえ,

nakasike-nu: huniN-du: uNne-N pusu-N pu:siN-ma:
仲底 の 船 が その家の 人も 帆船 は

muti: o:re: bure:N-da: unu huniN-du: piNtiru piN
持って おられて いたの で, その 船 が 毎 日

una: gi: unu suni-na: be:ti zako: ture: sizi:-co:
そこへ 行って その 會根に 居て 雑魚を 取った わけ さ。

asita:-ru ure: nakasike-N suni-ti: na:-ja: sikirari:
そして それは 仲底家の 會根 と 名前は つけられて

bu: sizi:
いる わけ。

S unu: huka-na: ma:biN suni-N na:N-do:re: aN
その 外に もっと 會根の 名前など ありますか?

I i: kana:ta: isike:zuni:-ti: su: suni-nu aru-nu:
ンー, あそこには, イシケー會根と いう 會根が あるが,

ure: unu na:-ja: sukutaN-ju: wakaraN-sa:
それは その 名前は 聞いたの か わからないさ。

isike:zuni-ti su: sune: guma: guma:-nu sune:ma-nu
イシケー會根と いう 會根は 小さな 會根が

aN-cu se: kana: huce:-ra NzasuNtoN-na:-jo:
あるさ あそこに。 入り口から (船を) 出す所 にね。

airu-nu ure: mukasi: huni-nu: isike:-ti su:
そうだが、 それは 昔 船 の イシケ-と いう

pusu-nuN-du: huni-ba: sa:ro:ri: aNgaraso:re:ta:-ti:
人 が 船 を つれてこられて, 座礁されたと

su:-ju: nanika: aibu:panase: sukutaN-co:(a:)
いうのか 何か そんな 話は 聞いたんだよ。

amase-N abuzita: o:taN-jo aibu: panasi:
小浜家の おぢいさんたちが 居られたよ。 そういう 話をして

asiti-ru ure: isikesuni-ti: na: sikirari
そして, それは イシケ-曾根と 名は 付けられて

bu:-tiba:-ja:-ti si: aso:Qta panase: sukutaN-du:
いるらしいと 言って 言われた 話は 聞いたんだが

me: wakaraN-baN una:ta: jamatazirú-ti su:
もう わからないさ。 そこには またヤマタジルと いう

suni:-N aN una: huci:ra pe:rasi: a:ku:
曾根 も ある。 そこに, 入り口から 入れて 居る

kumaNta kata-na: jamata suni-ti si: ari: bunu:
こちら側の 方に ヤマタ 曾根と いって あるが,

unu: uriN ta: nu:si: jamatazuni-ti: na: sikirari
その それも また どうして ヤマタ曾根と 名前が 付けられて

buNsa: wakaraN-baN
いるのか わからないさ。

S maNta-N ma:ra-nu maizuni-nu suni-nu na:-ja: ma:biN
前の方の あたりの 前曾根 の 曾根の 名前は もっと

aro:ruN
あられますか。

I me: iNta kuna: huci-nu aN-cu-se: huci huta:ci
もう 西の側の ここに 入り口が あるさね。 入り口が 二つ

mi:ci aribuN-da: unu: iNtamo:-ja: i:ri maizuni
三つ あるんだから その 西側のものは 西 前曾根

nakaN mo: ia: (naka) naka-nu suni: mata: aNtakata-N
中の ものは 中の 曾根 また 東側の

mo: ta: a:ri maizuni-ti si: (tai) iNta: aNta:
ものは また 東 前曾根 と いって 西, 東

ubi-nu: cigai-nu: aru sizi: uri-nu hukaNta
それだけの ちがいが ある わけ。 それの 外側の

kata-na: ki: ma:ru zuni:-Qti ta: ari:
方には 来て 円 曾根って また あり,

isike:zuni:-Qti: ari: ubi-na: kunate:-ja
イシケ-曾根とも あり, それだけだなあ ここでは

(jamata) jamata zuni-ti su:mo: una: ki-ru aruNda:
ヤマタ 曾根と いうものは そこへ 来て あるのだから,

umamaN-na: ubiru na:-ja: aru:
そこの辺では これだけが 名前は ある。

S jadaNbure: bi: sumo: mana: aru-wa me:
ヤダンブレ-干瀬と いうものは どこに ありますか ねえ。

I ure: zu:Qto kunu: (kunu:) saitaNsjo-nu QsaNta-jo:
それは ずっと この 採炭所の 下の方ね。

una: unu: nami-nu ara: puso: zu:Qtu nami-nu kai
そこに その 波 の 荒い 時は ずっと 波 が こう

munu suNti: N: to: uriru: (jada) jadaNbure:bi:-ti
何 するさ。 ウン そう それが ヤダンブレ-干瀬という

Qsu:
いう。

S unu jadaNbure: bi:-nu: buriru-ka: osiki ma:ruN-ti
その ヤダンブレ-干瀬が 波高く群れ寄ると, 天気が くずれると

su: panasi: sukuta-nu ure: nu:si naribu:-kja:
いう 話 を 聞いたが それは どう なっていますかねえ。

I ure: jaQpasi: unu: osiki-nu jabiru mai-na: nami-nu
それは やっぱり その 天気 の 悪化する 前には 波 が

Nziku:-wa-na: nami-nu Nziru:-juNda-ru uma:-ja:
出て来るさ ねえ。 波が 出るわけだから, そこ は

me: naminuN ta: maija-juNda jaQpai asi: me:
もう 波も また 大きいのだから。 やっぱり それで もう

kazi-nu: osiki-nu: jaburu: mai-na: name:-ra: hazimi:
風 が 天気の 悪くなる 前には 波から 初めに

Nziku: pasu:-N ari: se: osiki-tu kazi-tu ma:zuN
出て来る 場合も あり また 天気と 風 と 一緒に

name:　Nziru　basu:N　ari:　Nme:　nisaNnici　mai-ra:
波が　出る　場合も　あり　もう　二三日　前から

name:-ra:　pazumi:　Nziku:　basu:-N　ari-ru　buNda:
波から　初めに　出て来る　場合も　あるので

Nme:　aibu:　buso:　me:　kaze:　so:mu-ti:N　nami-nu
もう　そういう　場合は　もう　風は　吹かなくても，　波　が

Nziku:-ka:　osiki-nu　jabiru baN-na:-ti　su:　kuto:　me:
出て来ると　天気が　悪化するんだなあ　と　言う　ことは　もう，

urisi:　sadami:-ru　mana:ki-N-ma:　munu　si:　o:ru　sizi:
それで　定めて　今までは　何をして　おられる　わけ。

S　patuma-na:　mana:ki:　turo:re:　izu-nu　na:-tuka:
鳩間　に　今まで　取られた　魚の　名前とか，

abuca-mo:　Qso:re:-mo:　sikaso:ri-mi:　nu:sibu:
そんなものは　知っておられるものは　聞かして下さいよ。　どんな

izuN-du:　turari:-ju:
魚が　とれたのやら。

I　izuN　na:-ja:　me:　subete:　aN-na:　turibu:　izo:　me:
魚の　名　は　もう　すべて　網で　取っている　魚は　もう

muto:-ja:　munu-na:　i:rabuci:-ru　go:ra:　muto:
主なのは　何ですなあ。　イラブチ　が　多　く，　主では

araN-kaja:　irabuci:　sinuma:ru:　bo:da:
ないのかな。　イラブチ　シヌマール，　ボーダ

irabuci-na:-N　me:　a:gaiN-nu:　me:,　auirabuci-nu ja:
イラブチにも　もう　アーガイが　もう　青イラブチ　やら，

unu:　na:bu irabuci-nuja:-Qti　si:　unu:　irabuci-na:-N
その　ナーブイラブチやらって　して，　その　イラブチにも

gju:　sjurui-ju:N　aN-jo:　aupinakaN-tiN　buri:
幾　種類　も　あるよ。　青ビナカンとも　居り，

bo:da-ti　si:-N　bo:da-tu　sinuma:ru-Qto:　taige: N:
ボーダと　いうのも　ボーダと　シヌマールとは　大概
(いる)。　だなあ)。

pi:ka: aibumuN me: pi:na:-ti: su:-nu: pisu basu:
ピーカ そういうものも もう 干瀬 で 瀬 が 退く 時,

micu basu: su:-nu situki:-ba atiti gi: izunu:
満つ とき 潮の 潮 どき を あてて 行って 魚(の)を

maki-gera me: be-nu: kuna:ru unu jasimi-Qti
巻き(取ること)さ ねえ。 家の ここにある その 八十目(網)と

su: aN si: uri siru maki bu:-juNda: na:i
いう 網 で, それ で 巻き(取って) 居るわけだから。 ただ

hucu:-nu munu:si: unu: oikomu-toka: hi:tamasa:
普通の ものて その 追い込むとか ヒータマーサ

toka: izu turu: izo:-ja ure:-ja: izo: uN kaze:
とか, 魚を 取る 魚 は それは 魚は その 数は

go:ra: ari: aru:-nu: gju: sina-ru: na:ja: aruNsa:
多く あり, あるが 幾 (種類)品が 名前は あるのか

wakare: mata muri: sukuribu: izo: subete me:
わかりは 。 また 群を 作っている 魚は すべて もう
(しない)

munu-gja: N: oNde:-jo: oNde:-nuN-du: muri
何 さ。 ええ, オンデーさ。 オンデー が 群れを

sukuri: buna:
作って いるねえ。

S i: sicu izuN:
えー, シツ 魚も。

I sicu izuN: sicuN: me: pi:-na:-ti: maku-jo:
シツ魚も シツも もう 干瀬で 巻くよ。

ure: aibu: oikomi saNna:-ja: sico: aija:
それは, そういう 追い込み あたりには, シツは そうは

turaraN-baN
取れない(わい)。

S siNtaN pi:-na: (ju:cizu: ju:ci a: ju:kizu:) a:i ju:ru
後の干瀬で (言いあやまり) いや 夜

N: pacina:N-do:re: ho:so:ru piN abu: piN-nu: izo:
パチナー など 釣られる 時, そういう 時 の 魚は

nu:si bu:mu: aro:ru-wa:
どんな ものが あられますか。

I uma:-ja: ju:ru: pasina: ho:su baso:-ja: pasina:
そこは 夜 パシナ-を 釣る 場合 は パチナ-

izu:-Qti si: uNna: hutasina: mi:sina:-N: buN-jo:
魚 と 言って それに 二品 (二種) 三品も 居るよ。

unu: mi:pasina:-nu: bikipasina:-nu-Qti: zi: mata
その メスパチナーの ヲスパチナーの って 言って また

unu: hucisubu-Qti si: guma:guma: si: bu: muN-juN
その フチスブと いって 小さく して いる ものをも

(unu: Qti:) ni:baru:-juN nu:Nkui huisu-da:
(言いあやまり) ニーバルをも 何もかも 食うよ(釣れるんだよ)。

ja:diN pasina:-Qti: (ka:ni) aranu
必ず パチナーだって だけでは ない。

S ku:re: Qcusu: izu:N: buta (w) -nu ma:biN ……
クーレー という 魚も 居たが まだほかにも。….

I ku:re:ku:re:-juN me: ju:ru unu: ju: sukai-Qti si:
クーレー も まあ 夜 その 「夜網を使うこと」と いって

pi:-na:-Qti: maku-wa-na: ure: me: sicu-Qtu:
干瀬で (魚を) 巻くさねえ。 それは もう シツ魚と

ku:re:-tuN-du: ju: garu: ju:ru-nu ju: sukai
クーレーとが よく かかって取れる。 夜の 「夜つかい」

-ja:
(夜網を使って魚を取ること) は。

S ju:ru: maNta-N ma:ra-na: tataka: si: turo:ru mu:
夜に 前の方の あたりに タタカ-を して 取られる もの

ure: nu:-ti so:-Qta-me:
それは 何と 言われたかねえ。

I ure: (ju:) ju:ru munu sumo: munu:
それは 夜 何 するものは なんだなあ-。

katakasi:-sa:re:-N-du: ju: garu-wa:-N katakasi:-nu
カタカシ魚などが よく かかって取れるではないか。 カタカシ が

kaigaN bata: ju:ru: nu:Nkui mu:ru su:be: izu:
海岸 端で 夜は 何から 何まで スーベー魚の

hu:zina:mu: aibu: muN-du: ko:hu-sa:re: aibu: muN-du:
ようなもの, そんな ものが コーフなど, そんな ものが

turari:
取れる。

S hune:ra izu ho:so:ru piN-ma: maNta-N ma:N-na:
船から 魚を 釣られる 時 は, 前の あたりに

maNma:ra: nu:sibu: izu-nu huiru-kaja:
どの辺で, どのようにして 魚が 釣れるのかねえ。

I subete: (mu:) nibaru: hucinai izu:-na: tamaN aburu:
すべて もう ニーバル, フチナイ 魚だなあ, タマン, アブル

aibumuN-du: hu: mimizja: mimizja:-Qti si: ta:
そんなものが 釣れる。 ミミジャー と 言って また

agaizu-nu buribuN-du: uri: subete: aibu izuN-du:
赤い魚が いるんだが, それは すべて そんな 魚 が

hu:
釣れる。

S akazina:-N do:re:-ja: mana:-ru ho:so:ru-wa
赤ジナー など は どこから 釣られるのか。

I akazina:-N jaQpasi maNta-na: una: ho:su-nu: akazina:
赤ジナー も やっぱり, 前の方で そこで 釣るのだが, 赤ジナーは

ta: pi:ru-ru hu:-sa: ju:ro: ho:N-sa:
また 昼 が 釣れるさ。 夜は 釣れないさ。

S muciizuN-do:re: uN muri: sukuri: a:ku-nu ure:
モチ魚などは その 群れを 作って あるくのだが それは

ja:-nu aribure:
巣 が ありますか。

I a: mucizo: ja:-ja aribu: mucizo: me: ja:-ja
アー, モチ魚は 巣はある。 モチ魚は もう 家(巣)は

aribu:-juNda: ja:diN: unu: ja:-ja me: junutoN-na:
あるので かならず その 家(巣)は もう 同じ所に

ki:-ru buNda: ure: nu:nu kwaNke: si-ru ai bu:-ju:
来て(が) 居るので,それは 何の関係 で そんなに 居るのか

unu ja:-ja: nanika: Qfai munu:N-du: mu: jaru-ju:
その 家(巣)は 何か 食い 物 が 何か あるのか,

mata: piNkusi-na: bu: mucizo:-ja-jo: N: be: u:ru-nu
また 干瀬の後に 居る モチ魚は,ねえ, 我々の 珊瑚が

kai: ko: u:ru:-nu Nmema -na: kai: isika:ma:
こう 堅い 珊瑚 が 少し ずつ こう 短かく

siti: unu bu:mu: aNcu-se: subete: unu bu:
して (その) いるものが あるさねえ, すべて それの 居る

toN-na: me: unu u:ru-nu aru-juNda: kure: nanika:
所には もう その 珊瑚が あるので これは 何か

uma: kakurizu:-ja: araNkaja:-ti umo:ri sizi-gera:
そこは 隠れ所 では ないのかなあと 思われる わけよ。それは。

munu: maija: izunu QfaiN-ti ku: puso: haiQti
何だな 大きな 魚が 食おうと して来る 時は ハット

pe:ri: jaQsa-juNda: aibutoN-ba: rijo:si:
入り やすいのだから そんな所 をば 利用して

bura:N-kaja-Qti-N umo:riN-jo: N:
居るのでないのかなあ- とも 思われるよ。

kisa:ra:nuN me: N: mucizu-N ja:-Qti si: pi-N
以前からの もう モチ魚の 家(巣)だと いって 干瀬の

kusi-na: kure: manu mucizu: kure: manu mucizu:-Qti:
後に これは どこの モチ魚だ これは どこの モチ魚だと

na:-nu aN-cu-se: na:-nu ari-ba: unu: na:-ja
名前が あるさね。 名前が あるので その 名前は

ta: patuma-nu sima-tu: unu aNta-nu: isaNke:
また 鳩間 の 島 と その 東の 石垣の

sima-tu atiti:-jo: unu: ku:re: ma-N kata-na: atari
島と 当ててねえ, その これは どこの 所に 当って

bu: munu: umanu na:-ba sikirari: bu: sizi:
いる ものの そこの 名前を 付けられて いる わけ。

aiti kabira-N toN-na: una: kai unu: gizagiza si:
そして 川平の 所は そこに こう その ギザギザ して

munu: sibuNda: ure: nukiruNpa: mucizu:-Qti si:
何 しているので, それは ノコギリの歯の モチ魚だと 言って

mata ma:pe:mucizu:-Qci sumo: una: isaNke-na: kuna:
また マーペーモチ魚 と いうのは, そこに, 石垣島に ここに

munu: uma: kabira:-N toN-na: nusukupe: uma-NmaN-na:
何さ, そこに, 川平の所に 野底マーペー そこらあたりに

piNto:ma:-nu kai aru-wa-na: nusuku ma:pe:-Qti
とがった山が こう あるさねえ。 野底マーペーと

mu: muru-nu kai piNto:ma: aNti: kure: mata:
いう 森が こう とがった山が あるさ。 これは また

unu ma:pe: mucizu:-Qti si: aibu: ja:-ja: uN-na:
その マーペーモチ魚と 言って そんな 家(巣)は それに

atiri: bu:-co:
当てて 居るさ。

patuma-tu uma-nu: u: tana atirari: buN-da: kure:
鳩間 と そこの 所に 当てて 居るんだから これは,

ma-nu mucizu:-do: kure: ma-nu mucizu:-do:-Qti
どこの モチ魚だよ。 これは どこの モチ魚だよと

si: kisa: me: uri-ba: atiti-ru: cja: ho:siN-ma:
言って, 以前は もう それを 当てて, いつも 釣りには,

paQta-nu　mana:　me:　piNkuse:-ra:　gi:　mucizo
行ったが　今は　もう　干瀬の後から　行って　モチ魚を

ho:suN-ti　su:　kuto:　gi:　miraN-baN　manama-N
釣ると　いう　ことは　行って　みなさい。　今も

buN-ju:　(N:ju:)　me:　uri-ru　wakaraN-baN
居るのか　(言いあやまり) もう　それが　わからない。

kisa:　me:　buri　tu:si:　bure:　sitaN-jo:
以前は　もう　居り　通して　いは　したよ。

Qti:　hucimaciru:-Qti:　una:　izu-nu:　mici-nu　ari-ru
そして　フチマチル　といって　そこに　魚の　道が　ある

bu:-juNda:　unu　izu-N　mici-na:　gi:　aN-ma:　na:i
ので　その　魚の　道に　行って　網は　ただ

pari:　sike:ti　me:　izu-nu:　unu　aN-nu　ui-na:　hune:
張って　置いて　もう　魚が　その　網の　上に　船は

uki:　be:ti:　izu-nu　ki:　garu　mu:-ba:　mirite:　turi
浮けて　居て,　魚が　来て　かかる　ものをば　見ては　取り

turi　si:　airu:　unu:　aN-nu　na:-ja:　ta:　uNma:　ta
取り　して, そんなにして, その　網の　名は　また　そのときは　また

hucimaciru-ti　na:-ja:　mukase:-ra:　me:　si:　o:ru:
フチマチルと　名前は　昔から　もう　やっておられる。

aiti:　ma:Nma:N-na:-juN　me:　araN　me:　unu:
そして　どんなところでも　もう　出来ない。　もう　その

izu-nu:　uriru　mici-nu:　ari:　be:tiru　una:-ru　aN-ma:
魚の　下りてくる　道が　ある　ので　そこに (が)　網は

na:i　pariti:　mati:　be:ti:　izo:　turu-juNda:　aibu:
ただ　張って　待って　居て　魚は　取るのだから　そういう

turikata:　me:　husimaciru-ti:　kisa:-ra:　ai-ru:
取り方は　もう　フシマチル　と　以前から　そんなに

si:　o:ru:
して　おられる。

鳩間方言の録音

録音の日時　１９７１年8月１３日

録音の場所　八重山石垣市登野城１９０
田代長秀氏宅にて

話し手　大城サカィ（明治３６年7月２６日生）(O)とする。

聞き手　加治工真市（昭和１３年8月１３日生）(K)とする。

内　容

1. 鳩間島における産育の思い出

2. 鳩間島における織物の思い出

3. 鳩間島における稲作の思い出．その他

産　　育

K　e:　patuma:　mukase:　jarabi-nu　Qfa-nu　maru　piN-ma:
　　えー,　鳩間は,　昔は,　子供　の　赤児の　生まれる　ときは,

nu:si-ru　si:-ru　marasi　o:Qta-ju:　unu　panasi:
どのように　して　生ませて　おられたのか,　その　話を

sikasi　Qfo:ri-mi:
聞かせて　下さい　ね。

O　baNta:　wakare:-ra-jo:　jo:　baNta:　Qse:-ra:　patuma-na:
私たちが　わかってからわね,　私たちが　知ってからは　鳩間には,

N:　saNba-N　o:raN-wa-na:　saNba-N　o:rana:-ki:
産婆も　おられないさねえ。　産婆も　おられないので,

Nme:ma　tusiba　turo:ri　kati-ba　Qfa (na) nasi　Nnu
少し　年を　とられて　勝　手を　子を生み,　その
(技術)

keNkju:　keNkju:-Qte:　araN-nu:　N:　kati-nu　aro:ru
研究　研究ってほどまでは　いかないが,　その勝手の　あられる

pusu-nu　o:ri-jo:　kasame:ti:　marasimi:ti:
人　が　おられてね。　つかまえて　(生まらしめて) 生ませて,

marasi:　N:　buQco:　kisi:　mize:　amaso:Qta-jo:
(生ませ)　へそを　切って　水を　浴びせられたよ。

mize:　amaso:ri:ti:　(N:) mize:　amaso:ru-ka:　me:
水は　浴びせられて　水を　浴びられると,　もう

saNnici:　jonici:-si:-ru-jo:　ju:kaziraN　piN-du:
三日　四日　で　ねえ,　四日ジラ (産褥) の　日に (が)

sirakiN-ti　si:-jo:　sirokizi-ba　kaio:ri:　sirukiN-ti
産衣　と　言ってね。　白生地　を　買ってこられ　白い着物　と

si:　kiN-ma:　nui　kisaso:ri:　unu　ai-ja:　me:　na:i
いって　着物は　縫って　着けさせられ,　その　間は　もう　ただ

me:(N:)　hurukiN-na:-N　jarikiN-na:-N　me:　kai-du:
もう　古着にでも，　破れた着物にでも，　もう　こんなに

Qsumi:　(N:)　Qsu-N　sibaru-N　zo:tuni　simiti　me:
くるんで　うんこも　小便も　上等に　させて，もう，

ju:ka zira-N　piN-du:　me:　atarasiku:　mi:　ju:kazira
四日　シラ(産褥)の　日に　もう　新しく　新しい　四日ジラ

sirakiN-ti:　kisaso:Qta:
着物　と　(いって)着せられた。

kisaso:ri-ti:　(N:)　unu　ai-na:　me:　tuQka zira-nu
着せられて　その　間に　もう　十日ジラが

aNda:　me:　zo:tuni　N:　sira:-N　unu　sira-nu　uci-jo:
あるので，もう　上等に　その　お産床　も　その　産床　の　内ねえ，

uma:　so:zi:　so:Qta-jo:　sibinaizina:　pikiti:
そこは　精進(お秋い)を　なさったよ。　しめ縄を　引いて

mariru-ka:　me:　so:ze:　si:　umana:-ti:　me:
生まれたら，　もう　精進(お秋い)は　して，　そこで　もう

siraso:ze:　siti:　una:　me:　bi:-N　sabi:-N　sikisimi
お産所の精進は　して，　そこで　もう　あかも　さびも　つけしめ
(お秋い)

taburo:N　suko:si:-Qti:　si:　me:　zjo:toni　me:
賜わらぬ　ようにして下さいと　して，もう　上等に　もう

kju:mi:　umanu　ziru-ba　kju:mi:(N:)　so:zi　barai-Qti
清め，　そこの　地炉を　清め　精進　秋い　と

si:　i:-juN　kubi-na:　muriti:-jo:　zibuku-na:
言って，御飯をも，　これくらい　づつ盛ってね，　重箱に

bisiti:　so:zi:　birai　si:　unu:　sibina:zina-N
すえて　精進秋いを　して，　その　しめ縄綱の

uci-na:ti:　so:zi:　barai-ja:　so:ri:　Nme:
内で　精進秋いは　なさって　もう

sirakaija:　zirukaija:　arasi:　tabo:ri:-Qti　si:
産後の肥だちもよく地炉も汚れなく，　あらしめ賜われと　言って，

una:-Qti　me:　kju:mi:　si:　so:ri:-ti:　tuQkazira-N
そこでが　もう　清めを　して，　なさって，　十日ジラ（産後十日）の

piN-ma:　ta:　(tuQka)　tuQka　naru-ka:-jo:　kai
日は　また　十日に　なると，ねえ，　こう，

ubuQkaru　(aru)　ugamaso:ru-Qti:　si:　ubuQkaru-ti:
太陽（を）　拝ませなされる　と　いって，　太陽　と

su:ka:　me:　uma-nu:　ja:N　naka-na:-ka:N-ru:　tuka-nu
言うと　もう　そこの　家の　中に　だけ（ぞ）　十日の

ai-ja:　bu-wa-na:　(u:) uN-du:　me:　uma:　Nzaso:ru
間は　居るさねえ，　その時が　もう　そこへ　出される。

Nzihazimi-co:
外出はじさ。

K　minaka:
庭へ

O　N:　minaka:　Nzaso:ri:　kai:　nakagusuko:　ma:ri:　unu
ウン，　庭へ　出されて，　こう　中庭の目隠しの石垣を　回って，　その

Nzaso:ru　baso:　ta:　dakiti-jo:　midumu　jaru-ka:-ja
出される　場合は　また，抱いてねえ。　女で　あるならば，

nabisike:-jo:　nabisike:-tu:　juN-tu:　jata-kaja:
鍋置きをね，　鍋置きと　弓と　であったかな，

uN-na:　kai　me:　manumanu:　si:　sukuri:　kai
それに，こんなに　もう　まるまるく　して　作り　こんなふうに

usanakiti:　ure:　mutiti:-ru　Qfa:　dakiti:　kai
おし刺して，　それを　持って　子供を　抱いて，　こう

ma:ro:ri:　ki:-ru　ja:naka:　pe:ro:Qta-jo:
回わられて　来て　家の中へ　入られたよ。

pe:ro:ri-ti　unu　muno:　turo:ri:　maNta-nu　pisasi-na:
入られて，　その　ものは，取ってこられて，　前方の　痕に

usanaki:　suko:Qta　asiti　ta:　bikidumu-nu　Qfa
おし刺して　置かれた。　そして　また，　男の　子

jaru-ka:(N:)　uri:(unu:)　nabisike:-tu　jari-tu:
であるなら,　それを　鍋べ置きと　槍　と,

midumo:-ja　ibira-gera-se:　adu　bukara-nu　i:
女　は　飯べら(しゃもじ)さ。　これ　ぐらいの　飯を

piQcai　ibira-nu　aru-nu　ibira-ba:N:　nukiti:　so:ru:
つぶす　飯べらが　あるが,　飯べらを　貫いて来て,　なされる。

bikidumo:-ja:　jari:　juN-nu　kata-tu:　juN-nu　Qfa-jo:
男　は　槍,　弓の　型　と　弓　の　子(矢)さねえ,

jari:　aranu　juN-nu　Qfa-gera
槍では　ない。　弓　の　子(矢)さね。

me:　uN-na:　hiQpari:　kai　siQti:　ure:　mutiti-ru:
もう　それに　弓っぱって　こう　やって　それを　持って

ma:ro:ri:　ubuQkaru:　tida　ugamasiti:　o:ri:　me:
回わられ,　太陽を,　太陽を　拝まして,　行かれて,もう

ubisi:　tukazira:　me:　simai　o:re:N　sizi:　airu:
これだけで,　十日ジラは　もう　終え　られた　わけ。　そんなに

so:Qta:　aiti　me:　unu　Qfa　sudati　nuN-du:　me:
なさった。　そして,もう,　その　子を　育てること　が　もう

mana-N　ju:-N　katasini:　osime:-tiba　kiN-tiba-N
今　の　世の　ようには,　おむつとか　着物とかも,

nu:NkuiN　na:N-wa-na:　du:-nu　sitatiru　kiso:ru
何もかも　ないさねえ。　自分が　仕立て　着られる

ubi:　(N:)me:　kiN-nu:　kise:maN　no:N　macija:-ra
だけ。　もう,　着物の　切れっぱしも,　何も　店から

kaio:re:　kiN-nu　kisiN　no:N　aru-ka:　urisi:　unu
買ってこられた　着物の　切れも　何でも　あるなら,　それで,　その

Qfa:ma-na:　ato:ru　kiN-ma:　nui　kisase:ti:　me:
子供　に　あてられる　着物は　縫い　着けさせて,　もう

sudati:　o:Qta-jo:　N:　Qfa　sudate:　manama-tu
育てて　おられたよ。　子供　育ては(育児は)　今　と

kisa-tuN diru-ka: nu:-ti aza-ba-ru wakari-N su:ju:
以前と 較べると, 何と 言ったら わかりも するのか,

wakaraN gurai-ja: me: iQkena me: zo:toni sudatari
わからない くらいは, もう, 非常に もう 上等に 育てられて

bu: manama-nu QfaNke:-ja:
いるよ。 今 の 子供たちは。

(注117)
kisa-nu Qfa: me: ai-du me: kinodokuni me: ai-du:
以前の 子供は もう, そんなぐあいに, もう, 気の毒に もう, そんなぐあいに,

(注118)
(Nme:) osime:-tiN na:nu manama:-ja: naQsu
おむつとも ない。 今では, 生む

mai-na: osime: caNtu: suko:ri-ti-ru: nasaso:ru-nu:
前には, おむつは ちゃんと 準備されて, 生みなさるが,

kisa-Npuso: mare:-ra: kiN-nu kisi: kai: kaku:ni
以前の人は, 生まれてから, 着物の 切れを こんなに, 四角に

kiri: nu:-Nkui-N turo:ri:(sibisi) sibaru:-N turi:
切り, 何もかも 取ってこられて, 小便も 取り,

Qsu:-N turi: me: ai se:ti-ru: me: baNta: Qse:ra-nu
大便も 取り, もう そう やって もう 私たちが わかってからの

kutu:N jarabaN so:re:-jo:
こと であっても, なされたよ。

K kisa: una: Qfamure: kiN tuka: abuca: panasi-nu:
以前は, そこに, 子守り用の 着物 とか, そんな 話 も

siki miQta-nu:
聞いて みたが,

O N: Qfamure: kiN-ti: sumo: ta-jo: hukube:-N
ンー, 子守り用の 着物と 言うのは またねえ, 帯はもう,

hukubi:-N uNnu ma:ra: Nme:ma-na: macija-na:
帯も その ころは 少しずつは, お店には,

isanaki:-N jaima-N sima: ku:-ka: ari:-gera:
石垣の, 八重山の 島へ 来ると, あるさ。

kai o:ru puso: kaio:ri: hukubi manama-N katacini:
買い なさる 人は, 買いなされ, 帯は 今 の ように,

hukube: kai so:Qta-nu:-jo: kiN-ma: kai (ju:ma)
帯は こんな具合に なさったけれどもねえ。 着物は, このように

kiN-ma: kisiti: (ku:) kunu mata:-ra-jo: sudi-nu
着物は, 着て, この, 股からねえ, 袖 の

Qsa:ra: kuma:-ma:ki: mata: sikiti: kasanau-ta: me:
下へ ここまで, 股を つけて, おんぶしたら, もう,

unu mata-ba: kasami: sa:ki-ru: kuma: hubaru (ti)
その マタを つかんで もって来て, ここへ くくると,

kai ti:-na: kasamiti: kaikai Qfa: kasanauta-jo:
こう, 手に つかんで, こんなに 子供は おぶったよ。

hukubi-na: kasanu-ti sumo: ba: Qse:-ra jaru-nu:
帯 で おんぶすると いうものは, 私が 知ってから, であるが,

be:-nu abuze:-ra kaN: nara:soQta: e: so:Qta:
我が家の おじいさんから, こう, 教えられた。 えー, なさった。

be: abuze: kuma: o:ri: tu:si: be:ti:-jo:
我が 家のおじいさんは, ここへ 来られ 通して居られたのでね。

kai munu-ba turo:ri: nu:nu-ba: kaio:ri-ti: kai
このように 布を 取って来られて, 布を 買ってこられて, こう

kasana:su kasana:si: kai hukube: makaso:Qta-jo:
おんぶさせる。 おんぶさせて こう 帯は 巻かれたよ。

kisa-N puso: guma:N ke:N-ma: me: sugu me: na:i
以前の 人々は, 幼少の 頃は もう すぐ もう ただ

kusinaka-na: Qfa kasanaikiN-ti: becuni aributa-da:
背中に 子供を おぶる着物といって 別に ありをったよ。

du:si me: isika:masi: uriti: kuma-nu mata: kai
自分で もう 短かく 織って, ここの 「また」は こんなに

sakasi kunu mata-N maNta-nu mata-ba kai kasami:
裂かせて, この 「また」も, 「前の」の 「また」を こう つかまえて,

pikima:si sa:ki: kunu ti:-na: kai kasami: kai kai
引きまわして, 持って来て, この 手に こう つかんで, こう こう

se:ti: Qfa: kasanauta:
やって 子供を おんぶした。

K mukase: jarabi-nu: panasikiN kakari: nuNkui
昔は 子供が 病気に かかり, 何もかも(なんやかんや)

zu:piN-ma: nu:si si:-ru: nausi si: o:Qta-kaja:-nare:
するときは, どんなに して なおしたり して おられたのかねえ。

O jo: panasiki-nu mamaru-ka: me: isa-N jabu-N
ねえ, 病気が かかると もう 医者も ヤブも

o:raN-wa:-na: huci-Npa: sugu me: Nme:ma
おられないさねえ。 よもぎの葉 すぐ, もう, 少し

panasiki-nu: kaNbo: na:-ti umu-ka: sigu:
病気が, 感冒 だなと 思うと すぐ

huci-Npa:-ra: saki: unu saki huci-Npa:-sa:gi: saki:
よもぎの葉から 先に, その, 先に よもぎの葉さえ 先に

nasi: numasu-ka-jo: bicu bjo:ki:-N so:ziraN-ti si:
なして 飲ましたらねえ 別の 病気も 生じないと 言って,

panaso:Qta-jo: e: patuma puso:-ja: aNmari:
話されたよ。 鳩間の 人 は あまり

wakaranu ukina: pusuNke:-ja: cja: patuma:
わからないが, 沖縄の 人々は, 常に 鳩間島へ

be:N ja:-ja: me: patuma-na: o:ri: jaduri: si:
吾々の家は もう 鳩間に 来られて, 宿をとり して,

o:ru-wa-na: sirabuta pa:pa: ta: uma:-ra ui-nu
おられるさね。 白保屋の おばさん たちは, そこから 上の

pusuNke: mu:ru o:riti: be: ja:-ru ikapiki: toka:
人たちは みんな, 来られて 吾々の 家を, イカ釣り とか,

nu:-Nkui-N baso: o:ri: mu:ru jaduri: si: o:ruN-da:
何もかもの 場合は 来られて, みんな, 宿を取って やって おられるので,

uQca:ra: sikinarai mirinarai si:ti: huci-Npa:-ba:
その人たちから, 聞き習い 見習い して よもぎの葉を

numasi:-du: paQsaN simiti:-jo: nici-nu me: paN
飲ませて(ぞ) 発散 させてね, 熱が もう, 足まで

tu:ru-ka: uN-da: me: nici-nu su:waN-na:-ti me:
通ったら その時から もう 熱が 強いなあ と もう

manama-nu me: joNzu:do:-ti: asu: nici: aru-ka:
今の もう, 四十度 と 言う 熱 であるなら,

(注119)
kaNsuru-si: baro:Qta: (nici:) nici-nu (N:) turo:ru-Qti:
剃刀で 割られた(切った)。 熱を 取られると

si:-jo:
言ってねえ。

kaNsuru-si: cja: kuse:ra-N maNta:-ra-N si:-ja:
剃刀 で 常に, 背からも, 前からも 血は

turiti: uri: turumo: ta: mizi-siru turu-tu su:-ka:
取って, それを 取るものは また 水 で 取ると 原うか,

N: hukiN-siru turu-Qti suka: aija: araN-da:
あるいは, 布巾 で 取ると 言うかと言えば, そうでは ないよ。

(注120)
ma:basa: ma:basa-ba turo:ri: usi-na: siQkiti-jo:
真芭蕉 真芭蕉 を 取って来られて, 臼で たたいてね,

siQkiti: me: hijasibu (hija) uNda: me: siQkiti:
たたいて, もう(それで)ひやしている。 それから, もう, たたいて,

na:i-ja: munu siraraN-da: mize: kaki: Nme:
ただでは 何 出来ないので 水を かけて, もう,

hijasiti:-jo: urisi: tada:i: unu si:ja
冷やしてねえ。 それで どんどん その 血は,

urisiru: piki Qsuro:Qta: piki ai so:ri-baru
それで ひき ぬぐってふき取られた。 ふき取って,そんなに なさって

sigu (sama) zaQ haiQti me: samaruta-jo: (N:) airu
すぐ パッと もう 冷ったよ。 そんなにして

(注121)

bjo:ke:me: (nusita muica) akacaN-nu tuQka uci-na:
病気はもう (何といったのか, その) 赤児 が 十日 内に

(注122)

na:ta: nakunaru mu:-jo: bura:N N: sinirumu-jo:
(などに) なくなる ものよ, 亡くなる ええ, 死ぬものよ。

(注123)

bjo:ki si: ure: me mana: kaNgairu-ka: haco:hu:
病気 して。 それは もう 今では 考えてみると, 破傷風だよ。

ure: so:doku-nu tara:N-ta ubi-ti: kaNgaibe:
それは。 消毒が 足らなかった それだけだと 考えているよ

manama:
今は。

K a: buQcu-nu:
ああ, へその

O buQcu: kisiti:-jo: buQcu kisiti: (N:) Qsimina:-nu
へそを 切ってね。 へそを 切って 締め縄が

jo:Qta-kaja: munu:te: (Qka) kana:zi ju:kazira ucina:
弱かったのか, 何だった。その かならず 四日ジラの 内に

unu bjo:ke: NzitaN-jo: mana:ma kaNgairu-ka:
その 病気は 出たよ。 今 考えると,

ure: me: haco:hu-co: haco:hu: jarunu: unu
それは もう 破傷風だよ。 破傷風で あるが その

bjo:ke: me: unu bjo:ki-na:-ti se:-ra: gju:sa ti:
病気は もう その 病気だなあと 言われたら, いくら 手

iri: sitaN-tiN ikaN-seN Qfo: Qfo: nariti:-jo:
入れ したとしても 生きなかった。 真黒く なってね,

N: (unu unu) unu bjo:ki kakare:-ra: me: teNsai-ti
(言いあやまり) その 病気に かかったら, もう 天災と

azari buta me: ure: me: no:siN isa-N
言われて いたよ もう。 それは もう どんな 医者が

(注124)

uro:ra-baN nausaraN-seN airu: (kisa) baNta-ra
来られても, なおせなかった。 それで 私たちから

guma:N nuNkui manaN du:-nu QfaNke:-nuN manama:
小さい 何もかも, どこでも, 自分の 子供たちも, 今までの

ainu: QfaNke:N mu:ru airu: unu jo:zo: si:
間の 子供たち, みんな, そうして, その 養生を して

buta-nu: manama: me: naQsi: mai naru-ka: kuna:
いたが, 今では もう 生む 前(産前)に なったら ここに,

isanake-na: ki:ru: saNba-nu o:ru tona:-tiru: nasi:
石垣に 来て 産姿の おられる 所で(が) 生んで

bu-wa:-na:
いるさねえ。

nasi: o:ruN-da: me: no:N aibu kuto: na:N-jo:
生んで おられるので, もう, 何も そんな 事は ないよ。

huciru-nu: kanai bu:-juNda: ujanu: numu huciru:N
薬が すぐれて いるのだから, 親の 飲む 薬も

ari:-na: uja:-ja Qfa nasu-ka: siQgu: kubi na:N
あり, ねえ, 親は 子を 生むと すぐ これ ぐらいもある。

tamunu-ba: tugi: zirugama: suko:riti: uN-na: Qsigu
薪 を 持って来て, 地炉ガマを 作られて, それに すぐ

baNbaN si: pi:-ja: taQsikiti: sugo: kuse:-ra:N
バンバンと 火は おこして, すぐ 背からも

mai-ra:N unu iQsi-ba jaki: uN-na: biro:sa-Npa:-si:
前からも その 石をば 焼いて, それに ビローサの葉で

Qsumiti:-jo: biro:sa-Npa:-si: Qsumiti: namamo:
包んでね, ビローサの葉 で 包んで 生のものは
(そのままのもの)

kasamaraN-wa:-na kire:-na: kai Qsumiti: sigu: bata:
つかまえられないさねえ, 布地に こう 包んで, すぐ 腹へ,

kuQse:-raN bata:-raN tado:Qta-jo: naci-tiN
背からも 腹からも あてられた(湿布すること)よ。 夏とも

huju-tiN na:nu tadi: simo:Qta: Nme: mata
冬とも ない。 あて させられた。 もう, また,

mana: kaNgai be:mo: basiki: na:N
今 考えて いるのは 忘れてしまった。

K ure: ure: kari-kja: tadi: simo:ru Qsumo: asi:
それは, あれだろうか。 湿布 させられる というものは, 汗を

parasu: kaNgai-kja:
出す 考えですかね。

(注125)
O ase: aranu: bata-N naka: sarairu urinu: jo:N
汗では ない。 腹の 中を さらって, それが 弱い

puso:-jo: kana:zu: batabjo:ki: N: kana:zu:
人わね, 必ず 腹病気, ええ 必ず

bjo:ki-nu aQtaN-jo: kunu bata tadi: naci:
病気, あったよ。 この お腹を 湿布し 夏

jariba-ti: N: uriba: (N:) tadu:N puso:-jo:
だからと いって, それを 湿布しない 人はねえ,

kana:zu: N: muno: ari: sita: pi:nukumi-nu
必ず 何は あった。 火に当たることの

(注126)
jo:re:-na:-ti: aso:Qta-jo: aiti: naci:Qfa
弱かったんだなあーと 言われたよ。 それで, 夏に子を

nasu-ka:-jo: naci Qfanasi:-ru Qfanasi puso: bjo:za:
生むとねえ, 夏に 子供を生むのが 子を生む (産婦) 人は 病気がち

naru-da: Qti: so:Qta-jo: aQca-ti: pi:
になるんだ と言って 言われたよ。 暑いと言って, 火に

nukumaN-wa:-na: huju-nu: hujo: me: siQpai
当って温まないさねえ。 冬の 冬は もう たくさん

pi:ja nukumu-nu-jo: nace: me: acanu acanu-Qti si:
火に (火に当って体を)温めるけどね, 夏は もう 暑い 暑いと 言って

pi:-ja: nukumanu kuma bata tadiraN-be:ti:
火は 温まないで, ここを, お腹を 湿布しないから,

Qfa (na:) (N:) mukasi-nu: (u:) uipusuNke:-ja: jo:jo:
子を 昔の 老人たちは, よくよく

(Qfa-na:)　naQci　Qfa　nasu　pusu-na:-ru:　bjo:ki:
(言いあやまり)　夏に　子を　生む　人に(ぞ)　病弱者は

Nziru-da:-Qti　si:　bjo:ki:　(jana...nanika:jare:
出るのだよって,　言って　病気　(言いあやまり)

bjo:kinu) bjo:za:　nari:-ba:　izi-ba　Nzi:　pi:nukumi:
病弱に　なるので　勇気を　出して,　火を当てて体を温めなさいと

ai　panasi:　sikaso:Qta:
そういう　話して　聞かされた。
ように

suburu-nu　kumaN　ma:N-na:　cuNcuNcuNsi:
頭の　ここの　辺に　ツンツンツンとして

naci asibu:-nu:　NziruNkeN-jo:　naci:　Qfa　nasupuso:
夏あせも　が　出るほどにねえ,　夏に　子供を　生む人は,

N:　baNta:　anisaN-nu　siza:　guNgaci-na:　marita-nu
ええと,私たちの　兄さんの　上の兄は,　五月に　生れたが,

pi:　nukumaN-be:ti:　mu:ru　suburu N:　uja　da:　me:
火に　あたらないので　みんな　頭　も　親　だよ　もう,

uja-N　suburu:　kuma-N ma:ra　mu:ru:　asibu:　nari:
親の　頭は,　ここの辺は　みんな　あせにも　なって

na:N-seN　airu:　kisa-N　baNta:　Qse:-ra:　jara-baN
しまっていた。　それで,　以前の　私たちが　知ってから　であっても,

mukasite:　aranu　baNta:　mukase:　ma:biN　mai-ja:
昔とは　でない,　私たちは　昔は　もっと　以前は

nu:si　so:Qta-ju:　wakara-nu　baNta:　wakare:-ra:
どんなに　なさったのか,　わからない。　私たちが　わかってからは,

airu:　si:　o:Qta-jo:
そんなに　して　おられたよ。

K　mata:　anu:　mukasi:　(a:) patuma-nu:　patuma:-te:　me:
また,　あの　昔,　鳩間の,　鳩間においては　もう,

isa:-N　o:raN　bure:N-da:　unu　tuja:si:
医者も　おられな　かったので,　その,　取りあわせ

huciruN-do:re:-ja: nu:si: nu:si: si:ru: me:
薬（せんじ薬）などは, どんなに して, もう

(注127)
tuja:se:ti: QfaNkeN numaso:-Qta-kaja:-nare:
調合して 子供たちに 飲まされたのだろうかねえ。

O N: ure:ta:-jo: du:-nu simapusu-se: wakaraN-jo:
ウン, それはまたねえ, 自分の 島の人では わからないよ。

ure: baN du:se: wakaraN-du-jo: tabi:niNke:-nu:
それは, 私も, 自分では わからないがね。 旅の人たちが

ukina: sa:re:-ra: isanake: sa:re:-ra: o:ru
沖縄 あたりから, 石垣 あたりから 来られる

(注128)
pusuNke:-ja: co:du me: (me:) jabu kaQti:-nu aru
人たちは 丁度, もう, ヤブの 勝手の ある

pusu-nu o:ri: siraga: usumai-juN o:ri-na:
人が おられ, 白髪 ちじさんも おられるしねえ。
(故金城二郎氏)

siraga: usumai-Qtu: me:sinaga:-nu usumai-ti asu
白髪 じいさんと, “前瀬長” の おじいさんと 言う
(固有名詞)

pusu-Qto: me: uQca-ru me: patuma: O:ru-ka: me:
人とは もう, その人たちが, もう 鳩間へ 来られると, もう,

jabu:N isa: isajabu-Qti: uQca-ru sukau: sukasi
ヤブも 医者や ヤブも, その人たちを 使った。 おつれして

ke: sukaisukai si: buri:-ba: ucaN-du: nu:-tu
来て, 使い使い して 居るので その人たちが, 何と

nu:-tu tuja:si: sizi-ti: numasi:-Qti: so:riba-jo:
何と を 調合して, 煎じて 飲ませなさいっと 言われるからねえ。

uri: aisi: numasu-ka: me: nice: me: samari:
それを, そうやって 飲ませると, もう 熱は もう 冷まり,

mu:ru: me: uci-na: nice: nuQkaru mu: paQsaN
みんな もう 内には 熱が 残る ものを 発散

siti-jo: uri-si: su:-ka: sizeNni: aQsi:-ba:
してね。 それで やると 自然に 汚を

pari:　me:　samaru:-taN-jo:　　me:
出して　もう　冷ったよ　もう。

(jabu:N) nu:-N　kui:N-nu　Qsa-gera　me:　nuja:　kuja:
何も　かもの　草さ　ねえ，何やら　かんやら，

me:　mu:ru:　uri-ru:　me:　adaNbura-N　huki　toka:
もう　みんな　それを　もう，あざにの　茎　とか，

baNsuru-N　huki-toka:　koNgi-nu　ni:-toka:
ばんざくろの　茎とか，桑の木の　根とか，

maja:bu:-toka:　Nme:　ure:　me:　nanasina
マヤーブーとか，　もう，それは　もう　七品

ho:si(:)-da:-ti　so:Qta-jo:　　nanasina　ho:si-ti:
揃えなさいよと　言われたよ。　七品　揃え合わせて

uri-ba:　sizi-ti:　numasi　sita　　na:i　Nme:　sizuka:
それを　煎じて　飲ま　せた。　ただ　もう，煎じると，

(注129)
na:i-ja:　jarabiNke:　numiju:saN-wa:-na:　　kuru
ただでは　子供たちは　飲み得ないさねえ。　黒

sato:-ba　tugi:　Nme:ma:　make:rasi　Nme:ma-na:　aze:
砂糖　を　もって来て，少し　混ぜて(味つけして)　少しずつ　味を

turi　sikiti:　go:Nko:N-si:　uri:　numasita:
とって　おいて，ゴクンゴクンと　それを　飲ませたよ。

kisaNpuso:(jaQ)　kubibukara-na:　jakoN-ma:-jo:
以前の人は，　これぐらいの　やかんはねえ。

Qfamuci-nu　go:ra:N　ja:-ja:　kaNbo:-nu　go:ra:N　puso:
子持ちの　多い　家では，感冒の　多い　ときは，

jaQkoN-ma:　siNniN　me:　huciru　sizimu-Qti　sike:ti
やかんは　(専念)わざわざ　もう　薬を　煎じるものといって，置いて，

uN-na:　sizi:　numaso:Q-ta-da:
それに　煎じて　飲まされたよ。

ba:　me:　aibumo:　na:i　me:　mata:　N:　jakuteN-ra:
私は　もう　そんなものは，ただ　もう，また，　薬店から

isanake:-ra me: nanika: nicisamasi:-Qtoka: Qsa:ku-nu
石垣から もう 何か 熱冷ましとか, 咳 の

huciru:-toka: baNta: Qse:-ra: aQtaN-jo:
薬 とか, 私たち が知ってからは あったよ。

aibumu:-sa:re:-ba: ta: kaiki: jusiN-ba sikisike:-ti:
そんなものなどを また, 買って来て たくわえを しておいて,

kisa-N puso: N: ziNju:ti: asu huciru:-N ari:
以前の人は ええ, ジンユーと いう 薬 も あり,

(N: nu:ti sita:) kumisiNki-Qti asu huciru:-N ari:-na:
(言いなおし,) クミシンキと いう 薬も あってねえ。

aiti aibu: huciro: Nzi: ku:taN-jo: baNta:
そして, そういう 薬は, 出て 来たよ。 私たちが

Qse:-ra:
知ってから。

K unu: kumi siNki: su:-ka: nu:sibu: huciru:
その クミシンキ と言うと どんな 薬ですか。

O uri: Ngahuciru: kuro: kuro: siti-jo: be:
それさ, 苦い薬だよ。 黒 黒く してね, 吾々の

mana-nu: huciru-na:N uri-nu kaza:-N niwoi-nu
その, 今の 薬にも それの 匂 も 匂 が

suN-da: aisu-nu me: ure: mu:ru me: kai
するよ。 そうだが もう それは みんな もう こう

sirariti: huciro: sukurari: bu-wa-na: aibu
されて, 薬は 作られて いるさねえ。 そういう

huciru:-N me: basiki na:nu nu:-Nkuj:-N me:
薬 も もう 忘れて しまった。 何もかも, もう

mukasi:-ra-nu kuna:-ti: (kuma) kuma-nu jakuteN-na:
昔から の, ここで, ここ の 薬店 で

ki: kai para-ba: huciru: huciro: me: huciro:
来て 買って行くと, 薬 薬は もう 薬は

Nmea-na:　nici　samasi:-sa:re-ra:　(asupi: e:)asupiriN-ma:
少しづつ　熱　冷ましなどから，　(言いあやまり)アスピリン　は

me:　(osirokuisiti:)　iQpai　aQtaN-jo:　iQpai-te:
もう　(言いあやまり)　いっぱい　あったよ。　いっぱいでは

araN　me:　mu:ru　na:　me:me:-si-ru　oriru:　kuma:
ない。　もう　みんな　各　自（もう）　で　来られて，ここ（石垣），

isaNke:　o:ruka:　kanarazu:　huciro:　kaio:ri　me:
石垣へ　来られると，　必ず　薬は　買われ，　もう，

jusiN-ba:　si:　sike:ti:-jo:　panasiki-nu:
たくわえを　して　おいてね。　病気　が

su:waN　puso:　me:　ai　du-N　ja:-N　pusu-nu　kakara-baN
強い　ときは　もう，そのように，自分の　家の　人　が　病気にならなくても，

me:　pusu-N　ja:-na:　kakara-baN　ta:　kaibu:　huciro:
もう　よその　家　に　病気にかかっても　また，このような　薬　は

iQkeN　zjo:to:　jari-ba:　gi:　muti　gi:　numasi:　Qti
たいへん　上等で　あるから，　行って　持って　行って　飲ませなさい　と

si:　ai　muto:ri　numase:　si:si:-jo:　ai　so:Qta-jo:
言って，そのように 持って行かれて，飲ませは　したりね，　そのように　なさったよ。

be:-na:　zi:saN-ma:　huciru:　piQciN　kisaso:raN-seN
家では，　じいさんは　薬　は，　絶対に（一つも）　切らされなかったよ。

(airu:) asibu-nu　Nziru:-baN　asibu-nu:　jubizasi-Qtoka:
(それで)，あせもが　出ても，　あせもの　(吸い出し)とか，

unu　munu　sumu　huciru-sa:ri:　mu:ru:　me:　manama:-ja:
そんなようなもの　という(薬)もの　薬など　みんな　もう，　今では

nu:-N　kui-N　so:doku　(hu)mu:ru　aru-wa-na:　kisa-N
何も　かも　消毒　(みんな)　であるさねえ。　以前の

puso:　me:　(gi:)　nu:　huciru　kuihuciru　Qti　piQci:
人は　もう　行って，何(の)　薬，　かの薬　と言って　一つ

huta:ce:　kana:zu:　ja:-na:-Qti　me:　jusiN-ma:　siki:
二つは　必ず　家で　もう　保存は　して

buta:　　isa:　o:raN-be:ti-jo:　　ai　se:ti　aibu:
おった。　　医者は　　おられないのでね,　　そう　やって,　そんな

huciru:-si-ru:　mu:ru　jarabiNke:　sudati:　ke:-juNda:
薬で(が)　　みんな　　子供たちを　　育てて　　来たのだから(ねえ)。

K　unu　patuma:-na:　saNba:-N　o:raNbure:-nu　kisa:
その　　鳩間に　　産婆　も　　居られなかったろうが,　以前は

tata:-ru:　abu:　saNba　kati-nu　ari　Qfa　nasasi:
誰誰が,　　そんな　　産婆　　勝手が　あって,子供を　生ませて

o:Qta-kaja:-nare:
おられたのだろうかねえ。

O　baNta:　wakare:　me:　me:kuja:-N　buba:-gera:
私たちが　わかってからは　もう　宮古屋(宮良家)の　　おばさんさ。

buba:　o:raNpuso:　ba:　paQtaN　　ba-N　me:　N:
おばさんが　居られない時は　私が　行った。　　私　も　えー,

zisiN-ma:　na:nu-nu　na:i　me:　bata-N　jamu　kusi-N
自信　は　　ないが,　ただ　もう　お腹が　痛い　背が

jamu　Qcusu:-ka:　gi:　kasame:-ti:　me:　marasu (munu)
痛い　　と言うと,　行って　　つかまえて,　もう　　生ませる。

ube:　me:　ba:-ja:　zisi-ma:　na:N　　bubata:　me:
それだけは もう　　私は　　自信は　　ない。　　おばさんたちは　もう,

meQti:　zisiN-ma:　aro:ri-be:ti:-gera:　　ure:　ai
ちゃんと　　自信　は　　あられて居るのでさ。　　それはその人そのように

so:QtaN-jo:　　uri　unu　mai-ja:　ta:　unu:　bubata:
なさったよ。　　それ,　その　　前は　　また　その　おばさんたちの

buba:ma:　daike:-nu:　pusu:-gera:　　me:　　unu:
おばさん,　　大工家の　　人さ。　　ねえ。　　その

magaripaN　QseN:
「曲がり足」の　わかるか。
叔母さん,

K　na:-ja　sikimiQta-nu
名前　は　　聞いたが

O to: unu pusu-jo: aQpa: kjo:dai-cu me: aQpa:
とう, その人だよ。 おばあさんの (兄弟) 姉妹だよ。 おばあさんの

usitu: jaro:re:N-da: uriN-du ta: uNsuku: N:
妹で あられたので, それが また あれほど, その

ure: simama:ru si: junoN saN-na: ma:N kuma:-na:
(それは) 島回わりを して, 与那国 あたりにも, あっち こっちに

simama:ru: se:ti: o:riti-jo: aibu N: (me:) pusu-nu
島回わりを して おられてねえ, そのような, 人の

so:rumu: miri:-N si: siki:-N si: o:ri:be:ti: uriN
なさることを 見も し, 聞きも して おられるので, それも

me: biNkjo:-ja: so:raN-wa:-na: du:-nu zisiN-si:
もう 勉強は なさらないさねえ。 自分の 自身で,

me: uriN-du: nasasi: o:ri-tiru: buba-jo: una:
もう, その人が 生ませて おられて, おばさんを 自分の

sibe:-ra: cukisoi siti: buba: sa:re:ti: huta:ru
後から 付添 して おばさんを 連れて 二人で

Qta naso:ru Qfanasi ja: sa:re:-ti o:re:-ti:
子供を 生みなさる 産婦の 家へ 連れて おられて,

nara:si:-jo: buba: me: so:Qta-jo: manama:
教えて (習わせて) ねえ, おばさんは, もう なされたよ。 今に

sikitiN me: manama: me: patuma-na: Qfa nasu
至るまで もう。 今は もう 旭間では 子供を 産む

puso: bura:N-da: (N:) buba sukara-N jo:ri o:ri:
人は 居ないので, おばさんも 力も 弱く なっておられて

me: uri-nu: ke:ra-nu: u:ki: paraNke:-ma: uriN-du:
もう それが (その人が), 皆が (島から) 行かなかった時は, その人が
移って

nasa so:Qta: mekuja:-N buba:
生まされたよ。 宮古屋 (宮良家) のおばさんが。

織　物　の　話

K　e:to　aNde:ka:　kuNdo:　patuma-nu　puso:　nu:siru
　　えーと，　それなら，　今度は，　鳩間の　人は　どのようにして，

　　kiNka:　sukuro:ri:　kiso:Qta-ju:　abu　panasi:-N
　　衣類（着物類）は作られて　着けられたのか，　そんな　話も

　　sukaso:ri　mi:
　　聞かして下さい。

O　N:　patuma-na:-ti:　taNmono-ba:　turo:ri　ka:so:ru
　　えー，　鳩間島で　反物　を　持ってこられて，　売られる

　　nacija:-N　na:nu　mata:　kizaru:　soNgaci:-Qtoka:
　　お店　も　ない。　また　お祭や　正月　とか，

　　N:　pu:ru-Qtoka:　aibu:　pusu:　kuma:　isanake:
　　豊年祭とか　そんな　とき，　ここへ　石垣へ

　　bataro:ru-ka:　isanaki-nu　mise:-ra:　kaio:ri:　kiso:ru
　　渡られると，　石垣　の　店から　買って来られ，　着けられる

　　pusu:N　o:ri:　me:　N:　o:kata:　mu:ru　du:si-ru:　pu:ru
　　人も　おられ　もう　大方，　みんな　自分で　豊年祭の

　　kiN-ma:　(tui) basa-ba:　u:mi:　kai:　du:si　me:　kure:
　　着物は，　芭蕉を　つむいで，このように　自分で　もう，　これは

　　ta:mu　kure:　ta:mu-Qti　si:-jo:　mujo:-ja:
　　誰のもの，　これは　誰のものと　言ってね。　模様は

　　kawosita　kawose:ti:　midumuN-mo:　midumu-nu　kiN
　　変わした。　変えて，　女のものは　女　の　着物，

　　bikidumo:　bikidumu-nu　kiN-Qti　si:　mujo:-ja:　kausi:
　　男　は　男　の　着物　と　言って　模様は　変え，

　　pu:rukiN-Qti　si:　uri:　kiso:ri:　soNgaci:　naruka:-ja:
　　豊年祭の着物と　言って　織って　着けられ，　正月に　なると，また，

N: kuma: o:ri: macija:-nu: kasi:-ba: kaio:ri:-jo:
ここへ 来られて お店 の かせ 糸を 買って来られてね。

(注(31)
panakiN-ti: hujukiN-ti: si: N: hujukiN-ma: mata:
木綿着物と言って, 冬着と いって ええー 冬着は また

meime: mu: uri kisaso:ru pusu:-N o:ri: mata:
各自 のものを 織って 着せられる 人も おられ, また

isigaki: sima-na: o:ri: taNmunu-nu: N:
石垣 島に 来られて 反物 の ええ,

isigakisima: uN-ma: taNmono: me: (mi:) mise:-ja:
石垣島は その頃は 反物は もう 店 は

ari:-be:ti: taNmono-ba: kai o:ri: ta:
あるので 反物を 買って 来られて また

soNgacikiN-Qti si: i: arakiN-Qti si: kai
正月着物と 言って えー 新しい着物と いって 買って

(N:) kisaso:ru pusu:-N o:ri: me: sita-ni: me:
着せられる 人も おられ (もう) もっぱら もう

sigutugini: Nme: pataraki: me: paNta: paru
仕事着に もう 働いて もう, 南風端へ 行く

pusu:-N-jo: paita: paru pusuNke:-ja: (N:)
人も ねえ。 南風端へ 行く 人たちは,

bikidumuNke:-ja:-jo: sudiQkira-Qti si:-jo:
男たち は ねえ, 袖切り と 言ってね。

maikarikiN-ti: manama-N puso:-ja: mu:ru kai:
稲刈り着と 今の 人 は みんな 買い,

(N:) macija:-nu kiN-ba kisi-ti-ru: maikariN-ju:
店 の 着物を 着 て 稲刈りにも

o:ru-wa:-na: (kuri) kuri-si:-jo: sudiQkira:-ba:
行かれるさねえ。 これでねえ, 袖切り を

nuiti: maikari kiN-Qti: si: mata: kana:zu:
持って 稲刈り 着と 言って また 必ず

maikarikiN-Qti si: naci naru-ka: mai-nu:
稲刈り着と 言って 夏に なると, 稲が

u:mo:raN-keN-Qti si: unu sudiQkira-ba: uri: kisasi:
熟しないうちにと 言って, その 袖切り を 織って 着せて

o:rasuN-ti si: ai: si:buta:-jo:
行かせようと して そんなに していたよ。

(注 132)
kiN-nu buN-ma: me: nace: me: mu:ru baso:kiN
着物の 分 は もう 夏は もう みんな 芭蕉着,

basasi me: uri:-ti: hujo: ta: huju: uro:ru puso:
芭蕉で もう 織って 冬は また 冬 織られる ときは

ta: kasi:-ba: turo:ri: ta: hujukiN uri kisaso:ru
また かせ 糸を もって来られて また 冬着と 織って 着けさせられる

pusu-N ori: taNmono:-ba kaio:ri ta taNmono-si: ta:
人も おられ 反物 を 買って来られて また 反物 で また,

soNgaci:kiN-juN (N:) kisaso:ru pusu-N ori: me: ai-ru
正月着物 をも 着けさせられる 人も おられ, もう そんなふうにして

baNta: wakari-kara: ai-ru: me: si:o:Qta (N:)
私たちが わかってからは, そんなふうに もう やっておられた。

ba: asi:ki:ru-jo: mu:ru manama siki-tiN kure: na:
私は そういうわけでね, みんな, 今に 至っても, これは ただ,

kai du:si: se: kiN-ba: nukasi sike:
こう 自分で やった 着物を 残して おいてある。

K watakiN-do:re: nu:si [illegible]:si si:ru: sukuro:Qta-kaja-
綿着物などは どのように して 作られたのだろうかねえ。

nare:

O wata: me: wata sukuri: mice: me: so:Qta-nu mu:nu
綿は もう 綿の 作り 方は もう なさった(作られた) ものを

miri:N sanu wakari:-N sanu-nu N: mukasi-nu
見ても ない。 わかりも しない。 昔の

puso: du:si-ru: wata: sukuriti: mata sumiru ai:-jo:
人は, 自分で 綿を 作られて, また 染める 藍 ね。

aiki:-jo: ki:-jo: aigi:-N du:-si (su:) (N:) ibi:-N
藍の木ね。 木さ。 藍木も 自分で 植え,

mo:siti-jo: unu pa:-ba turi: unu: ai-nu: kasi-nu
萌えさせてね, その 葉を 取って その 藍の かせ糸の

sumikata: du:-si-ru sumo:Q,ta-Q,co: be: ui-nu
染め方は 自分で 染められた さ。 私たちの家の 上の家の

a:pa:ma:ta:-ba:ke:-jo: be: a:pa:ma:ta:-ba:ke:
おばあさんたちまではねえ, 私たちの家の おばあちゃんたちまでは,

aikami-ti: mana:ki: ari:buN-da: unu ai-ba iri:
藍 瓶 と 今まで あるんだから, その 藍を 入れ

sumi: N: hujukiN-ma: uro:Q,ta-ti si: ai-ru
染めて え一, 冬着 は 織られた と いって そんなに

azo:Q,ta baNta: N: wakari-kara: me: wata-N
言われた。 私たちが わかってからは もう, 綿も

na:nu mata uri su: doNgu:-N na:nu me:
ない また, それを やる 道具も ない。 もう

mi: unu: kasi: so:Q,ta-nu jama:-N-caN me:
その かせ糸を 作られたところの ヤマ (道具) さえ もう

miri:miraN-seN-jo:
見てみなかったよ。

baNta: baNta: wakari:-kara:-jo: mu:ru me:
私たちは, 私たちが わかってからはねえ。 みんな もう,

waQ,kuri: jaburi: sitikisiti: aiti: panasi-ru: sike:
こわれて 破れて 捨て切って, そして, 話 を 聞きは

(注 134)
sita-jo: mu:ru kisa-Npuso: baNta: hutoN-jo:
したよ。 みんな 以前の人は, 私たちは, 布団ねえ,

unu wata turo:ri-ti: hutoN-juN du:si: sukuro:re:
その 綿を 取って来られて, 布団をも 自分で 作られた

hutoN-ma:　mana:ki　aro:ru　puso:　aro:ruN　be:
布団　は　今まで　あられる　人は　あられる。　家の

sumu-na:-N　aN　baNte-na:-N　aN　wataN　urisi
下の本家にも　ある。　私の家にも　ある。　綿も　それで

se:mo:　me:　mana:　sikitiN　wata:　piki
やったものは，　もう　今に　至るまでも，　綿は　引き

musaraN-da:　iro:-ja:　sikibu:-nu-jo:　o:mukasi
むしられないよ。　色　は　付いているがねえ，　大昔の

munu:　iro:-ja:　sikibu-nu:　manamaN　wata:　kai
ものは　色　は　付いているが，　今の　綿は　こう，

kasu:-ka:　bohu-Q,ti　musiru-wa-na:　mukasi:N　wata:
こうすると，　プツント　むしり切れるさね。　昔の　綿は

kai　siba:　kisiranu:　ure:　me:　du:-si:　wata-ba
こう　やっても　切れない。　それは，　もう，　自分で　綿　を

sukuri:ti:　sitato:re:　mu:-Q,ti　si:　airu:　(su N:)
作って，　仕たてられた　ものと　言って，そんなに(が)

so:Q,ta-jo:
なさったよ。

K　patuma:-te:　wata:　ibo:Q,taN-cumo:　re:　maNma:-na:
鳩間で　綿を　植えられたというのは，それは　どの辺に

ibo:Q,ta-ju:　mata:　ta:-ru　tugo:Q,ta-ju:　abu　panase:
植えられたのか，　また　誰が　持って来られたのか，そんな　話は，

sikimiro:raN-seN
聞いてみられませんでしたか。

O　mukasi-nu　muno:　ta　turo:Q,ta-ju:　wakaraN-jo:
昔　の　ものは，　誰が，　(どこから)　わからないよ。
もって来られたのか，

pataki　ka:zi-na　me:　watapatake-ti　muru　ari:
畑の　数々に　もう，　綿畑　と　言って，みな　あって

o:re:-jo:　bu:pataki-tiN　ari:　pataki　(Nnu)
おられたのだろう。　麻油　とも，　あり，　畑　(その)

nakaguru:　ba:　wakare:-ra:-jo:　unu　wata-si:　me:　noN
中昔のころ,　私が　わかってからはねえ。　その　綿で　もう　何も

rijo:　si:　si:ju:so:raN-seN-jo:　me:　wata　sukuri:
利用　したり　し得ることはなさらなかったよ。　もう,　綿を　作って,

isaNke:-ru:　ukuro:Q,ta-ju:　nu:　so:Q,ta-ju:　wakaru (nu)
石垣　へ　送られたのか,　どう　なさったのか　わからない。

baNta:-N:　isanaki-nu:　tomimoto-nu-jo:　me: (tomi)
私たちも,　石垣　の　豊見本　のねえ。　もう,

(注136)
baNta:-ra:　izuka:　(zi N:)　ozi　naru　sizi-gera:
私たちからは　言うならば,　叔父に　なる　わけさ。

baNta:　be:　aQ,pata:　kjo:dai　jaro:re:N-da:
私たちは,　吾々の　おばあさんたちの　兄弟　であられたのだから。

uri:-N-du:　patuma-na:　turo:ri:　mu:ru　patumapusu:-N
その人が　旭間に　取って来られて　みんな　旭間の人に

wata　(su)　mukase:　sukuri:　o:Q,ta-nu:　me:　unu　uNda
綿を　昔は　作(らせて)って　おられたが,　もう　その　それから

kunukata:　sukuro:raN-be:ti　ta:　mata　wata-ba:　wata-N
この方は　作られなかったので　また　綿を,　綿の

tani-ba　ta:　N:　turo:ri　ta:　mu:ru　patuma-na:
種　を　また,　取って来られて,　また　みんな　旭間　に

sukuraso:re:ta-nu:　unu　puso:　me:　N:　to:zi:　me:
作らされたが,　その　人は　もう,　その　当時,　もう,

unu:　bata-nu　sukuri:　nu:Nkui　saN-keN-ma:　me:
その　綿を　作り,　何やかんや　しないうちに　もう

nagabjo:ki:　si:　gorokuniN-ma:　jami　o:re:-ti-ru
長病気を　して,　五,六年　は　病んで　おられて

ma:raso:re:N-da:　ure:　sijo:　si-ru:　so:raNseN　cu:me:
亡くなられたのであるから,それは　使用　しは　されなかった　んだよ。

(uri:) uri-N　sibe:　me:　wakaraN-ba:　baNta:　zju:
それの　後は　もう　わからないので,私たちが　十

nisaN-nu tusi: jaruN-da:-jo: wakaraN-baN me:
二，三 の 年で あるので，ね。 わからないさ，もう，

ure: me: nu:si-ru: sumaco: no:N me: sukuro:re:
それは もう， どんなにして 仕末は， 何もかも，もう， 作られた

pusuNke:-ja: turo:ri: N: usami:N me: kuma:
人たち は 取ってこられて， 納めに もう， ここ（石垣）へ

bataQtaN pazi: da:nu: nu:si naQta-ju: wakaraN me:
渡った はず だが， どのように なったのか， わからない さ。

wata: sukuraso:ru-Qti: patuma-na: turo:ri: sukurasi:
綿を 作らされるんだといって， 鳩間 に 取ってこられ，作らせて

o:Qta-jo: ure:
おられたよ。 それは。

K e: patuma-nu jara-N ma:ra: Qwatapatake: aro:Qta
ええ， 鳩間 の 屋良 の 辺 は， 綿畑で あられた

sunu: abu panase: siki moraraN-seN (miro:raNseN の誤り)
というが，そんな 話は 聞いて ごらんになりませんでしたか。

O bu:pataki-jo: mukasi-nu be: manama-nu jara: pari:
麻畑 ねえ， 昔 の 吾々の 今 の 屋良へ 行く

mici-na: patume-N pataki-nu aN-jo: mata be:
道 に 鳩間家の 畑 が あるよ。 また 吾々が，

maQko:ne: maQko:ja: pe:ru buN-Qtu su: unu:
ヤシ蟹， ヤシ蟹が 入って いると いう その

aibumu-nu gazimaru-nu Qsa:ra:-jo: to uma:-ja:
そんなものの カジユマルの 下の方ねえ， とう， そこは

wata patake: aQta-co: e: bu:pataki: iramuti
綿 畑で あったらしい。 ええ， 麻畑 西表の

pusuN-du: una: o:ri: bu:-wa sukuro:Qta-tu
人 が そこに 来られて 麻 を 作られたという。

asiti-ru me: N: Qfa-N sa:ri-ti-ru o:ri: bure:-mi:
そして もう， 子供も 連れて 来られて 居ただろうねえ。

aga Q,fa:ma e: Q,fa:ma sa:ro:ri me: bu: to:suNti-jo:
赤児を 子供を 連れてこられて, もう, 麻を 刈り取ろうとしてねえ,

Q,fa: pataki-N aza-na: nibasikiti: bu: to:suN-ti:
子供は 畑 の 畔 に 寝かしておいて, 麻を 刈り取ろうとして

o:ruN-keN-ma:-jo: u:bi kara-nu maQ,koja-nu ki:-jo:
おられるうちにねえ, これ くらいの ヤシ蟹 が 来てね。

unu Q,fa: (N:) kai Q,fui ana-Nme: saNgi:
その 子供を こう くわえて, 穴の中へ 引き込んで

paQ,taQ,-tu:-Q,ti: si: aibe:ti: uma:-ja: maQ,koja:-nu
行ってしまったというと 言って それで そこは ヤシ蟹 の

ja:-Q,ti sumu: panase: sikibu-nu: nu:si jaQ,ta-ju:
家 (巣) だと 言うのは 話は 聞いているが, どうで あったのか,

wakaraN-baN ai N: uQ,ca-N sita-gija: ai
わからないさ。 そのように あの人たちも 言ったさ。 そんなふうに

panaso:-Q,ta-jo: unu: jara: muru: jaranu
話されたよ。 その, 屋良は 全部, 屋良の

zi:-ja: (ira) mukase: iramute pusu-nu bu:patake
土地は 昔は 西表の 人 の 麻畑で

aQ,ta-tu-co:
あったそうだ。

K iramute:-ra: me: wazawaza: uma:-ma:ki: o:ri:
西表から もう わざわざ そこまで 来られて

sukuro:Q,ta-kija:
作られたのかねえ。

O (airu so:Q,ta) airu sukuro:re:N gisaru zi:-nu:
(そんなに (が) なさった) 。そんなふうに 作られた ようだ。 土地が,

patuma-N zi:-nuN-du: kaQ,ci: buta-ju: ubi-nu
鳩間 の 土地が すぐれて (肥えて) いたのか。 あれほどの

iramuti zima:-ra: kuma: o:ri: bu:
西表 島から, ここへ 来られて 麻を

sukuro:Q,ta-kaja:-Q,ti: si: panase: sikiti: na:i me:
作られたのかなあー と 言って, 話 は 聞いて, ただ, もう

mizirasa si:be:N sizi-gera: nu:si-nu kaNke:-si:
珍らしく している わけさ。 どのような 関係 で

uma: o:Q,ta-kaja:-Q,ti: si: nuNtiru me: aQ,du: tu:
そこへ 来られたのか と 言って, どういうわけで もう, あれほどの 渡(海)を

kui: huna-nu: hunamice:-ra o:ri me: unu bu:
越えて, 船 の 船道から 来られて, もう, その 麻を

(注137)
sukro:-Q,ta-kaja: zi:-nuN-du uNsuku zo:to:
作られたのかなあー。 土地が それほどに 上等

jaQ,ta-kaja:-Q,ti si: mana: kaNgai be:-jo:
であったのかなあーと 言って 今は 考えて いるよ。

K una: nu:nu: uro:ru: nu:nu bata-jo: abucamo: nu:si
そこで, 布を 織られる 布を はた ああいうものは, どのよ
織る機ねえ,

nu:si si:-ru: sukai o:ri: (abu) me: abumu:
うに して 使って おられて もう, そういうものの

panasi: sikaso:ri:
話を 聞かして下さい。

O N: nu: kisanu: nu:nu bata: zi:bata: jare:N-da:-jo:
ンー, 以前の 布織り機は, ジバタ(地機) であったのだからねえ。

manama: mu:ru takabata-nu aru-wa-na: zibata-nu
今は みんな 高機 が ありますねえ。 地機 も

ari-be:ti: ba: me: zibata-nu doNgo: me: pi:ci
あるので 私は もう, 地機 の 道具は もう, 一つ

raba-N me: sitiraraN me: du:si: ubina: se:nu
であっても, もう, 捨てられない。 もう, 自分で あれだけ やった

doNgu jariba: sitiraraN-ti si: sike:ta-nu me: baN
道具 であるので 捨てられないと 言って 置いたが, もう, 私

taNga: araN-wa:-na: ja:-na: nu:si-ru ma:ri
一人では ないさねえ。 家では, どのようにして 回わして

sitiQ,tasu-ju:　wakara-nu　　N:　sitirari:N　me:
捨ててしまうのか,　わからない。　ええ,　捨てられて,　もう

mu:ru:　pi:ci　huta:ce:　nukaribuN-jo:　waQ,tena:-N
みんな　一つ　二つは　残っているよ。　貴方の家にも

ta:　sumuna:-ja:　ta:　acja:　kuNde:-ma:ki-N:
また,　下の本家には　また,お父さんは,　この間までも

asitaN-jo:　patumunu-N　doNgo:　nukaribuN-da:
言ってたよ。　機織り機　の　道具は,　残こっているよ。

aNda:-Q,ti　asi:　asuka:　una:-N　kuna:-N
あるよ　と　言って,そしたら　そこにも,　ここにも

tuja:su:-ka:-na:　N:　patumunu:　kumitati-ti:　suN-ti
取り合わせると,ねえ,　織機　を　組み立てて,　しようと

umuka:　sirarisunu-na:-Q,ti　si:　mukasi-nu:　du:-nu
思えば　出来るのだがねえ,　と　言って,　昔　の　自分が

se:nu　siguto:-Q,ti　si:　kaNgai　bure:　sunu-jo:
やった　仕事は,と　言って　考えて　居は　するがねえ。

mukasimo:　zibata　jiQ,ta (jaQ,ta)　zibata-na:
昔のものは,　地ばた　であった。　地ばたで

aso:Q,taru:　uNda　ki:　baNta:　zidai-ra:　me:
なされたよ。　それから　来て,　私たちの　時代から　もう

mukase:-ra　me:　unu　zibata-na:　uro:ri:-ti-ru:　(u:)
昔から　もう　その　地ばたで　織られて,

cikaguru　siru:　takabata:-Q,ti:　sumo:　aru:-juN-da:
近頃に　なって　高機　と　いうものは　あるのですから。

K　zibata-tu　takabata-to:　ure:　ma:-ru:　nu:si　kauri:
地ばたと　高機とは　それは　どこが,　どのように　変って

bu-wa-re:
いますかねえ。

O　nu:-N　kui-N　mu:ru　kauri:su:　zibata:-ja:
何も　かも,　みんな　変っている。　地ばた　は

jasi:mu: kai:-Q,ti-muka: urika:-N: (N me:) ni:ba:
やすいもの だってば。 織ることだけは もう, 遅く

ari:-gera-na: taka bata: kaikai kaikai me:
あるさねえ。 高機は, こう, こう こう, こうやって, もう

pi:zuN me: ti:-tu paN-tu u:kasu-ka: urari: sunu:
一日中, もう 手と 足と 動かすと 織られる が

(N: kuri) kuri (ziN) N: zibata-na:-ja: aija: me:
これ えー, 地機では, そんなには もう

hutahiru-N mi:hiru-N uri pararaN-jo: airu: ai:
二ひろも, 三ひろも 織って 行けないよ。 それで, そんなに

zo:to-N biNri: nariku:ta-ru: takabata: mu:ru:
上等にも 便利にも なって来たので, 高機は みんな

narai-ja:ti: baNta: Q,se:-ra: ta: kaiko:-ba:
習いながら 私たちが 知ってからは, また, カイコを

sukanaiti-jo: su:seNgo:-ja: me: kaiko:-ba sukanai
養ってねえ, 終戦後 は もう カイコ を 養って,

uri-ba Q,sumi: du:si ta: muru: kaiko:-nu itu-si:
それを 染めて, 自分で また, みんな カイコの 糸で,

kai nu:no: si: manama ataN-tiN kaiko:-nu kiN-ma:
こう 布は して, 今 であっても カイコ の 着物は,

nukari: buN-jo: aca:-N aca: muN-ju:N ari:
残って いるよ。 お父さんも お父さんの ものも あり,

ba:muN-juN ari: baNta: mu:ru: ta: unu: uN-nu:
私のものも あり, 私たちは みんな, また, その, その

ato:-ja: ta: sju:seNgo:-ja: ta: no:-N na:N nari:
後 は また 終戦後 は また 何も なくなって

na:ta-na:
しまったさねえ。

ikusa ju:-nu ato: no:N na:N naQ,ta: ta: uN-da:
戦争の世の 後は 何も 無く なったので, また, それから

ta:　kaiko:-ba:　sukanaiti:　kaiko:-nu:　munuN-ba:
また,　カイコ　を　　養って,　　カイコ　の　　何　を

sumi:　du:si　me:　uN-ma:　sumiku:-nu:　ari:-be:ti:
染めて,　自分で　もう　それに　　染め紛　が　　あるので

sumiko:-ba:　kaiki:　uri-si:　sumiti:　mata:
染め粉　を　買って来て,　それで　　染めて,　また,

sju:seNgo:-nu:　(iQtu)　iQtuke:　me:　mu:ru　taQte
終戦後　の　　一時は　もう　みんな　誰の家,

taQti:　na:N　　mu:ru　me:　ja:-N　mi:　ka:zi:　kaiko:
誰の家とは　ない。　　皆　もう　各家　　ごとに　カイコを

sukanaiti:　uri　si:-ru:　ja:niNzu:-N　mu:　kiN-ma:
養って　それ　で　　家族　の　もの,　着物は

uro:Qta:　　macija:　kuma:　ku:-baN　uN-nu　baso:　me:
織られた。　　店は,　ここへ　来ても,　その　ころは,　もう

taNmuno:　na:N-wa-na:　　du:si　ta:　ure:　ta:
反物　は　無いさねえ。　　自分で　また,　それは　また

kaiko:-ja:　ta:　sukanai　o:ru:　　nu:nu:　si:
カイコーは　また　養って　おられる。　　布を　作って

kiN-ma:　kisi:　manama:　nari:ki:　be:-jo:
着物は　着けて,　今　に　なって来て　いるわけよ。

K　e　kaiko:-ja:　me:　go:naki:-N　pa:-si-ru　sukanai
ええ,　カイコ　は　もう　桑の木の　葉　で　養って

o:Qta　me:
おられたか　ねえ。

O　N:　kwa:-nu　pa:　　patuma:　ta:　kwa:　gju:sa
ンー,　桑　の　葉だ。　　旭間は　また,　桑は,　(カイコを) いくら

sukana:-baN　kwa:　ari-be:ti:-gera:　patuma　pusu-nu
養っても　桑は　あったので　さあ,　旭間の人が

sukana:N　baso:　(a:)　kumo:ma:　kurusima:-ra:　ki:
養わない　場合は,　小浜,　黒島からも　来て

pa:-ja muti pare:N basu:-N muti gi:-ru: kaiko:
葉は 持って 行った 場合も(ある),持って 行って, カイコを

sukanai bure:N-da:-jo: manama-N nihoN huQki
養って 居ったからねえ。 今でも 日本 復帰に

naru-ka: kwa:-ja: taisicu so:ri-jo:-Qti: mu:ru
なると 桑 は 大切に なさいよ と みんな

azo:ru puso: o:ruN-jo: kaiko: sukana:riN-da:-Qti
言われる 人は, おられるよ。 カイコ 養われるよ と

si:
言って。

伊武田村、農耕の話

（稲作の思い出）

K e: uN-da: patuma-nu: iNdamura-nu panasiN-do:re:
それから, 鳩間 の 伊武田村 の 話 など

unu ma:ra:nu panasi: sikimiro:Q,ta-ka: abu panasi-N
その 頃の 話を 聞かれたことがあったら, そういう 話 も

sjkaso:ri-mi: ta: patake: nu:si: sukuro:ri:
聞かして下さいね。 また 畑は どんなにして 作っておられて

o:Q,ta-ju:
おられたのか。

O mukase:-jo: iNda-na: iNdamura-Q,ti si: aro:ri:
昔 は ねえ, 伊武には, 伊武田村と 言って, (村が) あり,

patuma:-ra: bataro:ri: una: mura-nu: (N:) me:
鳩間から 渡られて, そこに 村 が もう

mura tati-nu jo:ni me: una: (ta:) o:re:ti-ru:
村を たてる ように (なり) もう, そこに 行かれて,

(注 139)
ku:ra-na: o:ru puso: ku:ra: jusikira-na:
久浦 に おられる 人は 久浦へ, 与志喜良に

(注 140)
o:rupuso: jusikira: mu:ru me: po:ri: po:ri:
おられる人は 与志喜良へ みんな, もう 散り 散りに,

iNda:ra-ru kajui o:Q,taQ,co: mai (N:)
伊武田から 通って おられって。 稲 (米),

ta:sukuri-N-ma: kajui o:riti: ta:-ja: sukuri
田づくりには 通い なされて, 田は 作って

o:Q,ta-nuN-du:　(naka)　(N: me:)　ato:　ki:　Nme:
おられたのだけれど，　後に　来ては　もう，

(注141)
jusikira:　jusikira:　ke:da:　ke:da:　(tuma)　ku:ra:
与志喜良は　与志喜良へ，　慶田は　慶田へ，　久浦は

(注142)
ku:ra:-Q,ti　si:　me:　(N:)　beNri　si:jo:ta:-nu
久浦へ　といって　もう，　便利に　しておられたが，

ni:ure:-Q,ti　si:-jo:　(N:)　una:　ta:-ja:　me:　sukuriti:
荷下ろしと　言ってねえ，　そこに，　田は　もう，　作って，

una:　me:　ta:goja:　sukuri:-jo:　una:　tumare:
そこに　もう　田小屋を　作ってね，　そこに　泊ったり

tumare:-ti　me:　iNda:　kaijo:raN　jo:si:　iNda:
泊ったりして，もう，伊武田へ　通いならない　ようにして，伊武田へ

o:raN-to:si:　me:　uma:-ti:　(N:)　ta:goja:　sukuriti:
行かれないで，　もう，　そこで　田小屋を　作って，

una:-ti　me:　mu:ru　me:　ta:-ja:　si:　o:re:　sizi:
そこで　もう　みんな　もう　田は　やって　おられた　わけ。

huju:-N　naci:-N　me:　(iti ki:)　iNda:　mura:　(aQ,si)
冬も　夏　も，もう　伊武田　村は

asita:　me:　uN-da:　baNta:　wakari-kara:　ki　me:
そして　もう　それから，　私たちが　わかってからは，　来て　もう

iNdamura:　to:ri-ti:　jama　nari　na:N-seN　baNta:
伊武田村は　つぶれて　山に　なって　しまったよ。　私たちが

kaju:N-keN-ma:　jama　nari-ti　me:　kataci　miruka:
通うた時には，　山のように　なって，　もう，　形を　見ると，

mu:ru　ja:-nu　kuma:　taQ,te:　zumeN-na:　arirubu:
みんな　家の，　ここは　どこの家と　図面には　ある。

kuma:　taQ,teN　jasiki　jaro:Q,ta　kuma:　taQ,te-N
ここは　どの家の　屋敷で　あられた。　ここは　どこの家の

jasiki:　jaro:Q,ta-ti　si:　aribure:ru
屋敷で　あられたと　いって　あっていたんだろう。

(N:)　una:-ti　me:　a:-juN　maki-jo:　uN-juN
そこで　もう　粟をも，　蒔いてね。　イモも

ibi-jo:　me:　paita-na:-ti　me:　osiki:　jabi:
植えてね。　もう　南風端（西表）で　もう　天気が　くずれて，

du:-N　sima:　sjukuro:　turi:-N　o:raraN　baso:　mata
自分の　島へ　食糧　取りに　行かれない　場合は，　また

una:　sukure:　muN-ba:　turi　Nke:　Nke:-ti-ru　(tiru:)
そこで　作った　ものを　取って　食べ　食べなさって，

ta:-ja:　sukuro:Q,co:　aisiti　ta:　makibaN-Q,ti
田は　作られたそうだ。　そして，　また，　牧場の番　と

(注 143)
si:-jo:　si:baN-Q,ti　asupuso:　me:　kutusi
いってね。　巣の番（牧場の番）と　いう人は　もう，　今年

(N:)　(taN)　tanaduru　si:　nai:　uraso:ru-ka:-jo:
（言いなおし）　種取りを　して　苗を　おろされると，ねえ，

iQ,kaneN-ma:　si:baN-Q,ti:　umanu　maki:baN
一ケ年は　牧場の番といって，　そこの　牧場の番

jaro:Q,ta-Q,co:　makibaN　me:　siti　me:　piNpiN
であられたそうだ。　牧場の番は　もう　やって　もう，　毎日毎日

juneN-juN　situmuti-N　me:　unu　make:　ma:re:-ti:
夕方も　朝　も　もう，　その　牧場は　回わって，

usi-ba　Nzasi:　na:Q,so:-N　pe:rasaN　jo:ni:　ta:-ja
手を　出して，　苗代に　入れない　ように　田　は

me:　munu　saN　jo:Nba　si:　me:　(N:)　si:baN-Q,ti　si:
もう，　何　しない　ように　して，　もう　牧場番　と　いって

usi-nu:　usimaki-nu:　baN-ma:　me:　niNgaizu:
牛　の　牧場　の　番　は　もう　年が年中，

paita-na:　o:Q,ta-Q,tu:
南風端に　おられたという。

paita-na:　o:re:-tiru　me:　ko:tai　ko:tai　si-ru　me:
南風端　に　おられたので，　もう　交替　交替　して　もう

huta:ru　jata-kaja:　si:baN-ma:　huta:ru　jare:N-da:
二人で　あったのかねえ，　牧場番は，　二人　であョたから。

ko:tai　si-ru　patuma:-N　o:ri:　si:　o:Q,ta-jo:
交替　して，　鳩間へも　来られて　やって　おられたよ。

mai　ibiti:　e:　mai-ba　kariti-ru:　uN-da-ru:　use:
稲を　植えて　稲を　刈って　それから（が）牛は

mu:ru　make:-ra:　(Nzasu)　Nzaso:Q,ta-jo:
みんな　牧場から　出された　よ。

maikaro:ru　uce:　me:　si:baN-ma:　sikitu:si　bu:
稲を刈られる　間は　もう，　牧場番　は　置き通して　居る。

uma-nu　baN-ba:　si:　jo:　baNta:　Q,se:-ra-ma:ki-N
そこの　番を　して　ね。　私たちが　知ってからまでも

-jo:　si:tu:si:　o:Q,ta-nu:　unu　mai-nu　mukasi-nu
ねえ，　やり通して　おられたが　その　前　の　昔　の

kuto:　me:　nusi:　aro:Q,ta:-ju:　me:　ubi　daki-ru
事は　もう　どうで　あったのかは　もう　それ　だけが
(わからない)

panase:　sukuta-jo:
話は　聞いたよ。

K　unu　jakuniN-nu:　patuma-N　ma:ra:　ma:ri　o:ru
その　役人　が　鳩間　の　あたりに　回って　こられる

piN-ma:　iNda-N　mura:-ma:ki:　o:Q,taN-tu　su:　panase:
ときは，　伊武田　の村までも　行かれたと　いう　話　は

ure:　nu:si　so:Q,ta-kija:
それは　どのように　なさったのかねえ。

O　iNda-na:　o:rita　uma-nu:　no:siN　me:　sukurimunu-ba:
伊武田に　行かれて，また　そこの　たぶん　もう，　豊作物　を

miruN-ti-ru　o:Q,ta-ju:　me:　gisai　jaro:re:-mi:-na:
見ようとして　行かれたのか，　もう，　競争で　あられたのだろうねえ。

o:ri:　me:　jakuniN-nu:　o:ri:　paNta:　iNdamura:
行かれて　もう　役人が　行かれて　南風端の　伊武田村へ

wataro:ru-ka:-jo:　　me:　ube:　me:　patuma:　me:
渡られると，ねえ，　　もう，それだけは　もう，　鳩間は　　もう，

patuma-na:-ja:　me:　iNda:-ra:　ku:　pabu:-jo:
鳩間には，　　もう，　伊武田から　来る　　ハブ　ね

pabu:-N　me:　patuma:　pama:　uriru-ka:　sigu:
ハブでも，もう　　鳩間へ，　鳩間に　　降りたら　　すぐ

kurubisu-Q,ti　asu　panasi-nu　aN-jo:-se:　　ari-be:ti
死んでしまうて　　いう　　話　　が　　あるよ。　　ありますので，

me:　(N:)　(pai　N:)　o:ru　tumaro:ru　ja:-nu
もう　　行かれて　　泊れる　　家　の

sju:i-ja-jo:　inoN-ba:　kai　nu:so:ri-ru:　sju:i-ja:
周囲はねえ，　　砂　を　　こう　　積んで来られて　　周囲は

mu:ru:　inoN-ba:　kai　maki:　me:　po:ri
みんな　　砂　を　こんなふうに 撒いて，もう　　撒いて

suko:Q,ta-Q,co:-Q,ti　si:　aibu　panasi:-N　sukutaN-jo:
おかれたそうだと　　いって，そういう　　話　　も，　　聞いた　よ。

asiN　me:　pabo:　ki:sita-ju:　ku:N-ju:　urj:-N
それでも，もう　　ハブは　　来たのか　　来ないのか　　それも

wakare:　sanu-nu　ube:　patuma:　kaNdaka:　aro:re:-ki:-
わかりは　　しないが，　それだけ　鳩間は　　神高く　　あられたのでねえ，

jo:　patuma-nu　inoN-ba:　muto:ri-ru:　unu:
鳩間　の　　砂　を　　持って来られて　　その

jakuniN-nu:　paita:　(musi u:)　bataro:ru　baso:　siQ,co:
役人　が　　南風端へ　　(言いあやまり)　渡られる　　場合は，　出張

si:　o:ru　baso:　unu　inoN-juN　nu:so:ri-ru:　unu
して　来られる　場合は　　その　　砂　をも　　乗せて来られて，　その

ja:-nu　sju:i-ja:　mako:Q,ta-ti-da:-Q,ti　si:　aibu:
家の　　周囲は　　撒かれたそうだよ，と　　言って，そういう

panasi:　sikaso:Q,taN-jo:　　(uri uri)　ubi:　panasi:
話を　　聞かされたよ。　　(言いあやまり) それだけの　話　を

sukuta-daki-ru me: geNni miri:-N sanu
聞いただけで, もう 現に 見も しない

wakari:-N saN-da:
わかりも しないで。

K unu: tanaduru-N piN-ma: nu:si: nu:si-ru: si:
その 種取り の ときは, どのように, どんなに して

o:Q,ta-kja:-nare:
おられたのかねえ。

O tanaduro: me: duku: me: unu (ja) jama-nu:
種取りは もう あんまり もう, その 山 の

munu-gera: kamai-jo: kamai-nu sigisariki-jo:
ものさ。 猪 ねえ。 猪 が (繁くある)多いのでね。

tanaduru so:zi:-Q,ti si: me: iQ,kena so:ze: si:
種取は 精進 (秘い) と 言って, もう 非常に 精進 (秘い) は して,

(juN N:) uta saNsiN-ma: so:raN-to:si: me: uta
歌 三味線 は なさらないで もう 歌

kara uta si:-jo: uta siru: (taruN) tanaduru-nu:
から歌 を してねえ, 歌を 歌って 種取 の
(楽器を使わない歌)

mi:ka-nu ai saNnici-nu ai-nu uta: tanaduru ajo:
三日 の 間 三日 の 間の 歌 種取り アヨーを

izo:Q,ta: izi: o:re:N-da: tanaduru ajo:
歌われた。 歌って おられたので, 種取り アヨーを

ubo:suN-ti-ru: unusuku: manama-N puso:-ja: zi:-si
覚えさせようとして, あれだけ, 今 の 人 は 字 で

kakiti-ru izu-wa-na:
書いて 歌うさね。

kisa-Npuso: me: siQ,gu: uri: ajo: nara:suN-ti si:
以前の人は もう すぐ, それ アヨーを 教えると 言って,

ubuiruN-ti-ru iQ,kena siQ,pai si: o:Q,ta-Q,ti si: aiti
覚えようとして, 大変 勢一ぱい やって おられたと いって そして

ki:ru:　manama　siki　manama　sikiti-N　ai　so:re:
いたので　今に　至るまで　今に　至るまでも，そのように　なさった

(注144)
pusuNke:-ja:　mu:ru　me:　atama-na:　sumikumi:　si:
人たち　は，　みんな　もう　頭の中に　染め込んで　して

o:re:ti:　uipusuNke:-ja:　ubui　o:ru　pazi:　mata:
おられるので，　年寄りたちは，　覚えて　おられる　はず。　また，

manama:　baka:　muNke:-ja:　me:　sugu (N:)　na:
今　の　若い　者たち　は，　もう　すぐ　各自の

cjo:meN-na:　kakiti-ru:　sugu　izibu:N-da:　(amari)
帳面　に　書いて，　すぐ　歌っているので，　(言いあやまり)

naraiNgurisa:ru-Q,ti　si:-jo:　N:　mukasi-N　pusu-N
習いにくい　と　言ってね。　昔　の　人の

katasini:　kuiburi:　kuiduri:-N　siki　pari　ju:sanu:
ように　節まわし　曲つけも，　つけて　行き　得ない。

kisa-N　pusu-nu　izo:ru　katasini:　izi:saN-Q,ti　si:
以前の　人　が　歌われる　ようには，　歌い得ないと　言って，

panaso:ru-wa:-N:-no:
話されるようだよ。

(注145)
K　ure:　tanaduru-nu:　piNma:　me:　ibaci-N-do:re:　abumu-N
それは，　種取の　日は　もう，　飯初　なども　そんなものも

suko:ri:　so:Q,ta:
作られて　なされたのか。

O　je:　ibace:-jo:　kai　pinakaN-nu　mai　pinakaN-nu-ma:-jo:
そう，　飯初はね，　このように，　火の神の　前，　火の神のはねえ。

(注146)
so:zi　ibaci-Q,ti　si:-jo:　ozeN　jaru-ka:　ozeN-na:-jo:
精進　飯物初　と　言ってねえ，　お膳で　あるならば　お膳にね，

ju:kadu-na:-ja:　kai　kubi-na:　muru:muru:-si:
四つ角にね，　このように　これくらいに　まるまる　と

nigiri:-jo:　uri-ba　kai　bisiti:　maNnaka-na:
にぎってね，　それを　こんなに　置いて　真中　には

ma:gi:-ba:　turo:ri:　kai-jo:　mai:mai si:　turo:ri:
マーギ　を　取ってこられて，このようにねえ，大き　く　取ってこられて

bisiti:-jo:　ure:　nu:ti　su:-ka-jo:　(imi:su:) imi
置いてねえ，それは　何かと　言うとねえ，（言いなおし）意味を

(注 147)
suku-ka:　kunu　ju:　sina:-ja:　mukasi-nu　sira-nu
聞くと，　この　四　品　は，　昔　の　シラ の

ni:sike:　maNnaka:　mai　muri:　mai　sira:　unu
土台（だよ）　真中は，　米の　森，　米の　シラ（だ）。　この

imi-ru　jariN　gisaru:　ure:　me　pinakaN-nu
意味　で　ある　らしい。　それは，もう　火の神　の

niNgai-ja:　ubi:　uri　siQ,ti　si:　o:ri-Q,ti:jo:
願　は　これだけ。　それを　やって，して　おられてねえ，

buba:ma　bunaru:-N-du　o:ri:　pinakaN-nu　nigai-juN
叔母や，　姉妹　が　来られて　火の神　の　祈願をも

so:ru:　ukusi-N　so:ru:　(aisi:　N:　biki　N)
なされる。　神饌の手付けも　なされる。　（言いあやまり）

kanarazu:　buba:ma-nu　o:ri:　bunaru-nu　o:ru-ka:
必　ず　叔母が　来られ，　姉妹　が　おられたら，

bikiru-nu:　(N:)　nigai-ja:　pinaka-N　nigai-ja　jaQ,diN
兄弟の方の　祈願は　火の神の　祈願　は　必ず

bunaru-nu　o:ri-ru:　pinakaN-nu　nigai-juN　so:ru:
姉妹　が　来られて　火の神　の　祈願　をも　なされる。

mata:　ukusi:　nu:-Nku:　so:ru　mu:-N　bunaru-ra:　ti:
また　起こし(神饌の手付け)　何もかも，なされる　のも　姉妹　から　手を

kako:ri-ba-ru:　nukaru-N　pusuNke:-ja:　so:zi:-Q,ti　si:
かけられたらこそ，　残りの　人たちは　精進と　言って，

jarabiNke-nu　a:ri:muN-ma:　(Q,fa)　Q,fa:so:raN-seN
子供たちの　暴れ者には　食わされなかった。

ciNbi:　si:　ure:　me:　so:zi-ba　se:ti-ru:　ma:su-ba
チンビーを　して，それは　もう，精進（秩い）を　しながら，　塩　を

siki:　ma:su　sa:ri-ru-jo:　siki:　Nko:Q,ta-jo:
つけて　塩　でもってねえ，　つけて　召しあがったよ。

sa:-si-N　Nko:raN-seN　mukasi　puso:　(N)　baNta:
お茶でも　食べられなかった。　昔の　人たちは，　私たちの

(si: N:)　(dzidai ma:ki)　baNta:　guma:NkeN-ma:-jo:
(時代まで)　私たちが　小さかった頃はねえ，

taNduru:-N　puso:　sa:　suQ,ka-na:　sa:　iro:raN-seN
種取りの　ときは　茶は，　きゅすには，　茶を　入れられなかった。

me:　saki:　saki-si-ru　me:　N:　pusu-nu　o:ri-baN
もう　酒，　酒で(が)　もう　人が　来られても，

saki-si-ru　ko:sai-juN　so:ru:　(situmuti)　mizi-jo:
酒で(が)　交際をも　なされる。　(朝)　水ねえ，

unubuN-ma:　me:　na:Q,su-nu　so:zi:-da:　me:　mizi-ba
あれほどは，　もう，　苗代の　精進(秧い)だよ，もう。　水を

mutiki:-jo:　doro:-Q,ti　kai　no:simi:N　so:raN-seN
持って来てね，　ドロッと，　このように　こぼさせも　なさらなかった。

kure:　na:Q,su-nu　mizi-nu:　so:zi:-co:
これは，　苗代の　水の　精進だよ。

mata　sa:　numuN-ti　su:-wa-jo:　(so:ziN)　ta:-nu-jo:
また，　茶を　飲まないと　いうのはねえ，　田のねえ

(注 148)
na:Q,su-na:　kanaziru　ura:N　tami:　kanaziru
苗代には　金汁　出させない　為。　金汁が

uriru-ti　agamu-wa-na:　to:　uri-nu　so:zi-cuta:
おりて，　赤むされえ。　とう，　それの　精進(秧い)だよ。

sa:　iru　sikimo:　numaN-ti:　asumo:　airu: (N:)
茶の　色の　付いたのは　飲まないと　言うのは。　そんな具合に

tanaduru-N　so:zi:-N　so:Q,ta-nu　mana-N　pusuN-du:　nu:
種取りも　精進(秧い)も　なさったが　今の　人が，　何さ，

aibumu-nu:　aru-wa:-Q,ti　si:　si:bu-nu-jo:　mukasi
あんなことが　あるものかと　言って，　やっている　が，　昔の

(注 149)

puso:　me:　airu:　so:Q,ta　　paita:-ra　jamakabi:
人は　もう　そのように　なさった。　南風端から，　山のように，ひげや髪をのばして

oQ,taN-tiN　tanaduro:　pini-ba　muija:-ti-ru　so:Q,ta-da:
来られても，　種取りは，　ひげを　はやして（が）　なさったよ。

pini:N　suraso:raN-seN-da:　ja:-N　minaka:-N
ひげも　剃られなかったよ。　家の　庭　も

po:kaso:raN-seN-da:　airu:
掃かされなかったよ。　そのように。

K　ure:　imi:　aribu:
それは　意味は　あるのですか。

O　imi　umanu　so:zi-cume:　ja:N　minaka　po:ku-ka:-ja
意味は，そこの　精進　さ。　家の　庭を　掃くと

mai-nu　iQ,po:　ju:siru:　suwa-na:　iQ,po:
米が　一方（片方）に　寄せて　しまうさねえ。　一方に

ju:ri-ba-Q,ti-nu:　unu　kutu-si-ru:　ja:-juN
寄るから　と　の　その　ことで，　家も

po:kaso:raN-seN-jo:　ai-ru:　tanaduru:　so:zi:N-du:
掃かされなかったよ。　それで　種取り　精進（秋い）が

iQ,ciN　huka:　aro:Q,ta:
一番　深く　あられました。

K　pini:　suraN　cusumo:ta
ひげを　剃らないと　いうのは，また，

O　pini:　suraN　tusumo:　nu:-ru　ata　baNte　abuzita:
ひげを　剃らないと　言うのは　何で　あった。　私の家の　おじいさんたちは，

pini:N　suri:　gamazi:-N　(karaso: N:)　daNpaci:-N
ひげも　剃り　髪　も　（言いあやまり）　断髪　も

(注150)

so:raN-seN-da:　karaso:raN-seN-co:　so:ze:
なさらなかったよ。　刈らされなかった　よ。　精進は

simasiti-ru:　daNpaci-N　so:Q,ta-jo:　uN　tuQ,ka
済ませてから，　断髪　も　なさったよ。　その　十日

(N: N:)　tanaduru　so:zi-nu　tuQ,ka-nu　ai-ja-jo:　N:
種取り　精進　の　十日　の　間はねえ,

du:-nu　sima-nu　pataki-nu　Q,sa-N　jakaso:raN-seN
自分の　島の　畑　の　草も　焼されなかった。

tuQ,ka　tuQ,ka　so:zi:　simaso:ri-ba-ru:　pataki-nu
十日,　十日　精進を　済まされたら(が)　畑　の

Q,sa-N　jaku　jako:Q,ta:　mana-Npuso:　sukuru　puso:
草も　焼き,　焼かれた。　今の人は,　作る　人は

buri:　sukuraN　pusu-N　bu-wa-na:　kibo:si:-N
居り,　作らない　人　も　居るさねえ。　煙　も

tatisu-bo:　(N:)　jako:ru　puso:　aribu-da:-nu
立てるよ。　焼かれる　人は　居るだろうが

baNta:　sukuri　puso:　me:　zeNzeN　tuQ,kazira:　(ehe:)
私たち　作る　人(農家)は,もう,　全然　十日　ジラ　(いや)

tuQ,ka　tuQ,ka　so:zi:　simaso:raN　keN-ma:　pataki-nu
十日　十日,　精進　済まされない　うちは,　畑　の

Q,sa:-N-caN　jaka-nu　tanaduro:　iQ,keN　so:zi:
草　さえも,　焼かない。　種取りは　非常に　精進の

huka:N　sima:　panariti:　kama-ja:　kamai-nu
深い。　島を　離れて　あそこは　猪　が

su:waNtoN　jaru-wa-na:　ai-be:ti　me:　iQ,kena:　so:ze:
多い所　であるからねえ。　そうだから,　もう,　非常に　精進は

si-ru:　muno:　so:ru
して,　何は　なされる。

K　una:　bunaru-nu　o:ri:　pinakaN　mai　kai　niNgai
ここに　姉妹が　来られて,　火の神の　前に,　こう　祈願

o:ruN　cusumo:　ure:　mata:　imi-nu　ari:　o:ru-kja:
されると　いうのは　それは　また　意味が　あられますのかねえ。

O　no:N　taN-tiN-jo:　sukuri　pusu-jo:　sukuri　puso:
何で　あってもねえ,　作り人(農家)はねえ,　農家は,

buba:ma:　bunaru:　wa:ta:　kanu:　(N:)　munu-na:
叔母と　姉妹，　貴方たちの，　あの，　何かに

na:N-no:　iNda:　nu:ti　sita:　iNdakudukiNma:
ないのかね。　伊武田，　何と　言ったかな，　伊武田口説では

aranu　tanaduru-na:　N:　iNda　ajo:-Q,ti　si:
ない。　種取　に，　えー，　伊武田　アヨー，と　いって，

izo:ruNti-gera:　buba:ma-N:　sukuri:　kiti:　sukuri
歌われるさねえ。　叔母　に　作って　きて　作って

ke:　mo:　buba:ma-ni　batasi-ba:　buba:ma-ni:　N:
きた　ものは　叔母　に　渡したら，　叔母に　も，
(作物)

bunaru-ni:　batasi-ba:　uri-si:　N:　miki:-N　N:　kai:
姉妹　に　渡たすと，　それで　えー，　神酒に，　えー　変え

a:muri:-N　marasi:　o:ruN-ti　asumo:　uN-na:　aNti-gera:
粟盛　も　生まらせ　(作る)なさると　言うものは，それに　あるさねえ。

tanaduru:　ajo:-na:　aNti-gera:　unu　(ai: u:)　ube:
種取り　アヨーに　あるさねえ。　その　(言いあやまり)それだけは

me:　imi-nu　aru　sizi-gera　me:　bikiru-nu
もう，　意味が　ある　わけさ。　もう　兄弟　の

sukuro:ru-mo:　mu:ru:　sukuro:ru　(ku:)-ka:　bunaru-N
作られるものは，　みんな　作られて　(持って)来ると，　姉妹　に

batasi:　buba:ma:-N　batasi:　miki:-N　kai　a:muru:-N
渡し，　叔母　に　渡し，　神酒に　かえ，　粟盛も

maraso:ri-Q,ti　si:　(N: me:)　ubi-si-ru　me:
生まらせて下さいと　言って，　これだけでが　もう，

bunaru-N　gaN-ma:　taka:　aro:ru-Q,ti　si:　ubisi:
なおり　神は　高く　あられたと　言って，それだけで

ai:　ime:　ari:　si:　pari:　buNti:
そのように意味は　あって，　やって　いって　いるさ。

K　wata:　una:　si:-nu　uci-na:　usimaki-nu　aQ,taN
貴方が先が，　そこに，　牧場の　内で，　牛牧　が　あったと

cusunu:　unu　ma:ra-nu　panase:　nu:si:
いうのが,　その　ころ　の　話　は　どうで

aro:Q,ta-kaja:-nare:
あられたのか　ねえ。

O　use:　patuma　puso:　mu:ru-jo:　(aro:ru)　e:
牛は,　鳩間の　人は,　みんなねえ,　ええ,

aro:ru　pusu-ti:N　araN　me:　taige:　me:　kinai-nu
(財の)　人　でも　ない。　もう　大概は　もう　家庭　の
あられる

aro:ru　pusuNke:-jo:　usi:　go:ra:　muto:ru　pusuN-nu:
(財の)　人たちはねえ,　牛を　多く　持っておられる　人が,
あられる

maki-na:　go:ra:　usi-nu　bu:　puso:　me:　ujaki:　pusu-ti
牧場　に　多く　牛が　居る　人は　もう　金持ちと

azari:　buta-jo:　me:　nisaNzu:-na:-N　maki-na:
言われて　いた　よ。　もう,　二.三十 (頭) ずつ,　牧場に

(usi:)　use:　sukanai　sakarasi-jo:　sakarasiti
牛は　養って,　繁盛させてねえ。　繁盛させて,

me:　uri:　unu　usi:-si-ru　me:　ta:-ja:　so:re:N　sizi:
もう,　それ,　その　牛で,　もう　田は　なさった　わけ。

mi:　usi:jo:　mi:　use:　me:　gorokuto:-na:　me:
雌　牛ね。　雌　牛は　もう　五.六頭　ずつ　もう

mu:ru　sino:　hubari-ti-ru-jo:　sina:　pikasi:
みんな　角は　くくって,ねえ　綱は　引かして,

hubari:-ti-ru:　uri:-si-ru:　ta:-ja:　so:Q,ta-jo:
縛って,　それで,　田は　なされたよ。

kai　zuNzuN　ma:se:ti-jo:　usi:N　humasi-jo:
このように,ずんずん　回わしてねえ,　牛に　踏ませてねえ,

manama-ru:　(N:)　nu:-Nku-si:　kikai-si:　ta:-ja:
今が　何もかもで,　機械で　田は

si:bu:　kisaN　puso:　asada:-ja:　unu　usi-si:
やっている。　昔の　人は　浅い田は　その　牛で,

(注151) (注152)
miusi-si: si: hukada:-ru ki:pai-si: sukuru
雌牛で やって, 深い田を 木鍬 で 作る。

(N:) kaise:ti sukuro:Q,ta-ru: (N: kai) asada:-ja
耕して 作られたよ。 浅い田は

me: mu:ru mi: usi-ba-jo: makisiNka-na:-jo:
もう, みんな 雌 牛を ねえ。 牧場組合に ねえ,

ko:tai ko:tai ma:ru-ba: si: mana: taQ,teNpusu:
交代 交代, まわりばんこに して 今は どの家の人だ。

kju:-wa taQ,te-N pusu-nu sukau aca: taQ,te-N
今日 は どの家の 人 が 使う。 明日は, どこの

pusu-nu sukau-Q,ti si:-jo: ure: ta si:baN-ni ta:
家の人が 使うと 言って,ねえ, それ はまた, 牧場番に また

si:baN-nu: keNri: aru-cuta:
牧場番 が, 権利は あるわけだよ。

si:baN-nu-du taQ,te: taQ,te:-ti ku:-ka: unu kubari:
牧場番が どこの家, どこの家と 言ってくると, その 配り

jo: (N kai:) use: me: tanaduru jaru-ka: me:
方(をする)。 牛は もう 種取り であるなら, もう,

hutakumi bukara:N me: taQ,te: (N:) tanaduro: me:
二組 ぐらいに もう, どこの家 種取りは もう,
(というように)。

na:Q,so: kana:zi: uri-si-ru: simo:re:-juNda: si:ti
苗代は 必ず, それで させられたのだから, やって,

me: (na:) huju zju:-wa me: mai ibiru ai-ja: me:
もう 冬 中 は もう, 米を 植える 間は もう

mu:ru me: ko:tai se:ti ta:-ja use: me: una: bu:
みんな もう 交代 しながら, 田は 牛は もう そこに 居る

use: me: mu:ru urasi ki: use: hubari ki: me:
牛は もう みんな 下ろして 来て, 牛は 縛って 来て, もう,

ta:-ja simo:Q,ta-jo:
田は させておられた。

K una: huno:ruN-do:re: kurubasa:N-do:re: abucamo:
その フノールなど, クルバサー など ああいうのは,

kisa:ra ari: o:Q,ta:
以前から あり ましたか。

(注153)
O kurubasa:-ja: (ja:) munu: uri:-N sju:seNgo:-ru
クルバサーは 何んですな。 それも 終戦後にが

(注154)
are:-jo: huno:ro:-ja-jo: huno:ru-ti: hune:ma-nu
出たでしょう。 フノールは ねえ, フノールといって, 小舟 が

aruwa-na: to: ure:-ja: ta: nu sagaQ,tari agaQ,tari
あるさねえ。 とう, あれは また, あの, 下ったり 上ったり

aru kuto:N-jo: ure: muQ,kase:ra ari: o:re:-jo
している 所 ねえ, それは 昔から あられたでしょう。

ure:-ja: kunu uja:za-na: miQ,ci-nu azakaze: kuma:
それは この 上畔 に, 道 の 畔などに ここは

na:N-wa-na: muto:ri: uri:-N me: pususi:-da:
ないさねえ。 持って行かれて, それも, もう, 人間の力でだよ。

sina: me: (ku:) kunu nai aru-wa-na:
網は もう この 長さ あるさねえ,

cju:siN-ni: sina: kuma-na:-N kuna: ariti: hune:ma:
中心 に 網は ここにも, ここに あって, 小舟 は

sa:ro:ri: sikiti: ki:pa:si: tada:i duro: sukui
持ってござれて, おいて, 木鍬で どんどん 泥は すくって

iriti:-jo: kai taNga: (pusu) saNta-na: be:ti
入れてねえ, こう 一人は 下に 居て

saNgu-wa-na: saNgu-ka: ta: karahune:-ta: uNta-na:
引くさねえ, 引くと また, 空の舟はまた 上の方に

bu: pusunu ta: kai saNgi: ki: mata una:
居る 人が また こう, 引っぱって 来て, また, そこに

sike:ti: mica: irite: kai saNge: ki:ki: saNge:
おいて, 土を 入れては このように引っぱって 来来 引っぱって

ki:ki si: huno:ra: muQkase:-ra: ari: bure:-jo:
来来 して, フノーラは 昔から あって いたよ。

muQkasi: doNgu: ma:ga-Qti asumo: ta-jo: ma:ga-ti
昔の 道具は マーガと 言うのは, また, ねえ, マーガと

asumo: kai: kunu haba-nu ica-nu iQkeN-bukara:
言うものを,このように, この ははの 板 の 一間ぐらい

ari: bure:-na: ubi-bukara-nu naka-na:-jo: kai
あったろうなあ。 それぐらいの (ものの) 中にねえ, このように

ki:-nu kai usaNkari: jo:Nbasi:-jo: ki:-nu usaNkari:
木が このように 差し込まれる ようにしてねえ, 木 が 差し込める

jo:Nba si si:ti: kai jui-ja: kai sikiti-jo: taNga:
ように して このように 柄は, このように 付けてねえ, 一人は

me: (sikiti:) uri-si:-ru ta: tada:i zi:-ja:
もう, それで また どんどん 土地は

tamo:Qta-jo: aibu mu:-si-ru: ure: mukasi:
ためられたよ。 そのような もので, それは, 昔の

do:Ngu: manaN doNgo: me: aibumo: na:nu:
道具, 今の 道具は もう そんなものは ない。

manama: me: siQgu: kurubasa:-tuka: ko:uNki:-toka
今は もう すぐ クルバサーとか 耕転機 とか

nu:-Nkui-si: sukau-wa:-na: manama-N puso: iQkeN
何もかもで 使うさねえ。 今 の 人は 非常に

dakuni: sukuribu: kisa-N puso: me: ki:pai-tu:
楽に 耕作している。 以前の人は もう 木鍬 と

aibu: mu:-si: sukuro:Qta-jo: (ma:bo:rasi:)
そんな もので 耕作されたよ。

baNta Qse:-ra: me: airu sukuro:Qta
私たちが わかってからは もう そのように して作られた。

K unu: makiba-nu: (N:) usi-nu niNgaiN-do:re:-ja:
その, 牧場 の 牛の 祈願 など は,

abumo:ja:　ta:　nu:si:　so:Q,ta-ju:　sikimiri:　miri
そういうものは　また　どのように　なされたのか　聞いてみたり,

miri:-N　so:Q,taN
見たりも　されましたか。

O　sike:　si:　me:　sima-na:　du:-N　sima-na:　be:ti
聞きは　したよ。もう。　島で　自分の　島　に　居て,

bikidumuNkeN-du:　usi-N　joi　siN-ma:　o:ru-wa-na:
男たちが　牛の　祈いを　しには,　行かれるさねえ。

baNta:-ja:　midumuNke:-ja:　gi:　miraN-nu-jo:
私たちは　(また)　女たち　は　行っては　みないけれどねえ。

ja:-na:-ti　me:　usi:-N　usi-nu　joi-ja:　me:　(zun)
家で　もう　牛の　牛の　祝いは　もう

kuNgaci　zuNgaci　me:o:siki-nu　jabiru　pusu
九月　十月だなあ,もう。　天気が　くずれる　時で

jaru-wa-na:　sigu:　izu:N　taku:-N　tugi:-jo:
あるさねえ。　すぐ,　魚も　たこ　も　取って来てねえ。

kana:razu:　me:　mukasi　puso:　me:　zibuku-na:
必　ず　もう　昔の　人は　もう　重箱に

kunusina-nu　zu:　kunusinazu:　muro:Q,ta-jo:
八品　の　お重,　九品　重を　盛られたよ。

sina　ho:si-jo:　asi-ti-ru:　usi-N　joi　siN-ma:　me:
品を　合わせてねえ,　そして,　牛の　祝い　しには,　もう

ure:　de:zinu　zaisaN　jaru-wa-na:　zaisaN
それは　大変の　財産　であるからねえ。　財産で

jaro:ruN-da　me:　sugo:　me:　si:-ti:　kutusi:-N
あられるのだから,もう　すぐ　もう　やって,　今年も

haNzjo:　si:　jeN-juN　haNzjo:　sime:　(kutui)
繁盛　して　来年も　繁盛　しめて

kuzunu:　usi:-N　joi　so:re:-ra:　mariru　usi-jo:
去年の　牛の　祝いを　なされてから,　生れる　牛を

Q,fa:ma-jo:　Q,fa:jo:　ure:ta　mata　kutusi-nu:　usi-N
子供ねえ。　子ねえ，　それは　また　今年　の　牛の

joi-na:　gi:-ru　paN　suko:Q,ta-jo:
祝いに　来て　判(印)を　つけられたよ。

kure:　ta:mu　kure:　ta:mu-ti:　(paNsi:)　paN-juN　ta:
これは　誰のもの，これは　誰のものと　判(印)をも，また

kure:　taQ,te-nu　paN　kai　kai　kisi　kai　kisari
これは　誰れの家の　判(印)。こう，こう，切って　こう　切られて

bu:　ja:-juN　ari:　kai　mata:　kai　(gi:)　gju:mata-ti
いる　家　も　あり，こう，また　こう　幾　またと，

kai　kisari bu:　ja:-juN　ari:　me:　usi-nu　paN-si:
こう　切られている。　家をも　あり，もう　牛の　判で

me:　taQ,te:　mu:-Q,ti:　(i:)　me:　mu:ru
もう　誰の家の　ものと　もう　みんな

wakaro:Q,-taN-jo:　aibu:　paN-ba:　siki:
わかれたよ。　そういう　判を　つけて，

paNgusi-Q,ti:　si:-jo:　paNgusi-Q,ti:　me:　saki-jo:
判つけ酒と　言ってねえ，　判つけ酒と言って　もう　酒　ねえ。

(注155)
guse:　me:　bicuni:　paNguse:　bicuni:　muto:Q,ta-jo:
酒は　もう　別に　判つけ酒は　別に　持って行われたよ。

baNta:　du:-se:　gi:　miraNta-nu:　ja:-ra:　ai-ru:
私たちが　自分では　行っては　みなかったが，　家から，そんなに

suko:ri:　mutasi:　o:rasita:　nigiri:　misi-nu:
準備して　持たせて　行かせた。　にぎり　飯　が

kukunu ku-na:-jo:　una:　mata:　(unu:)　usai-nu　me:
九個　ずつ　ねえ，それに，また　ごちそうも　もう

zibuku-nu　ta:　zu:nu　ta:　(pusuQ,ci:)　ube:　me:
重箱　の　また，お重も　また，　それだけは　もう

sunai　unu:　muto:ri:　(maci)　kazari-ti-ru:　joi-ja:
備えて，それを　持っていかれて，　備えて，　お祝いは

so:Q,taQ,-co:　　uN-na:　miki:N　sukurasi:　muto:re:N
なさったそうだ。　それに　神酒も　作らせて，　持って行かれた

pazi:　si:baN-nu:　ja:-N puso:　miki:-N　sukuri:-jo:
だろう。　牧場番の　家の人は，　神酒も　作ってねえ

aiN-du:　muto:riN　sa:　ta:
そんなにして 持って行かれる　よう　だった。

K　unu:　zibuku-na:　iro:ru　kunusina-ti　sumo:　nu:
その　重箱　に　入れられる　九品　と　いうものは，

nu:-Q,ti:　kimari:　o:Q,ta:
何と何と　決って　おられたの？

O　a:i　me:　sina-sa:gi　ho:suka-jo:　taku:-N　izu:-N
いや　もう，　品さえ　合わせるとねえ，　たこ　も　魚　も

jasai-juN　nu:-Nkui　turo:ri　me:　jaQ,diN　ho:so:Q,taN
野菜をも　何もかも　取られて，もう，　必ず　合わされた。

huju:　me:　kunusina:　ho:se:　nu:nu　waki-nu　aru-wa:
冬　もう，　九品　合わせることは　何の　わけが　あるものか。

me:　nu:-Nkui-juN　me:　tiNpura:-N　nu:-Nkui:-N　o:-ja:
もう，　何もかも，　もう，　天ぷらも，　何もかも，　豚は

iro:raN-gera:　o:-ja: (ja:)　kami:　(ma) gjo:zi-na:
入れられないさ。　豚は，　神　行事には

kami:　macuri:-na:　o:-nu　o:-ja:　pe:raN-jo:
神　祭には　豚の，　豚は　入れないよ。

miro:raN-jo:　panasikiti:　patuma-na:N-jo:
見られないよ。　話しておいて　鳩間にもねえ，

du:-N　sima-na:-N　(to:na:N)　uma:N　iro:raN　bure:
自分の　島にも　そこにも　入れられなかった

pazi:　kamai-ja:　iro:ru-nu　o:ja:　iro:raN
はず　猪　は　入れられるが，　豚は　入れられない。

K　mata:　una:　patuma-nu:　ta:-jo:　unu　ta:-ja:
また　そこには　鳩間　の　田ね。　その　田　は

kisa:　utara:-N　ma:N-na:　aro:Q,ta-tu　su:
以前は　大多良にも　その辺にも，　あられたと　いう

panasiN-do:re:　siki　miro:Q,taN
話　なども，　聞いて　みられたか。

O　N:　(aQ)　aro:Q,taN-tu　su:　kuto:　sukutaN
ウン，　あられた　と　いう　ことは，　聞いた。

juciN-ra-jo:　juciN-ra:　iNta-nu　utara:-ma:ke:　me:
ユチンからねえ，　ユチンから　西の方の，　大多良までは，　もう

utara:　unu:　urauci-jo:　urauci-N　ma:N-na:　baNte-N
大多良は　その　浦内　ね，　浦内の　あたりに　私の家の，

ta:-ja:　ari:bu:-da:　mu:ru:　po:ri:　ai:　aro:Q,taN
田　は　あるよ。　みんな　散り散りに　そんな具合に　あられた

-du:-jo:　nu:si-ru:　munume:　sika:NtoN　muru　kai:
けれどねえ，　どのようにして，　何だねえ，　近くの所に，　みんな　買って

ju:si:　o:Q,ta-ju:　uri:　wakaraN-gera　mata
寄せて　おられたのか，　それが　わからないさ。　また

iramuti　pusu-nu:　o:ri:　ta:　N:　sakiNda:　daike-N
西表の　人　が　来られて，また，　崎田の　大工家の

ta:-sa:re:　iramuti　(ju)　ju:ze:-nu　tumada-N
田　などは，　西表　(のもの)。　松竹家　の　泊田　の

ta:-sa:re:　ta:　iramuti　pusu-N　ta:　jaro:Q,ta-ti
田などは　また　西表　人の　田で　あられたと

suwa:　ure:　me:　kai　(kuQ)　patuma-N　(N:)　sugu
いうが，　それは，もう　買って　鳩間の　すぐ

taNka:　jari-ba:　patuma　pusuN-du:　gi:　unu　ta:-ja
真向い　であるので　鳩間　人が　行って　その　田は

sukuru-Q,ti:　azaraN　bure:-jo:
作るとは　言われなかった　だろうさ。

ure:　kwaN-da-ru　ta:-ja:　me:　muru:　ta:zi:-ja:　me:
それは　官　から(が)　田は　もう　みんな　田地は　もう

baki:　turaso:re:-wa-na:　asuN-da:　me:　iramute
分けて　取らされたからねえ，　それだから，　もう　西表

puso:-ja　kuna:　ki:　sukuri-ba:　patuma　puso:
人は，　ここに　来て　作るのに，　旭間　人は

haNtai ni:　kana:　ki:　sukuri:　si:　bure:N　pazido:
反対　に　あそこに　来て　作ったり　して　いた(だろ)　はずだよ。

asiN　baNteN　ta:-jaN　(caN N: ta:)　utara　unu:
それでも　私の家の　田は　大多良，　その

utara-N　ma:N-na:-juN　ubisike-N　ta:-nu　ari:　bure:su:
大多良の　あたりにも　大城家の　田が　ありは　する。

ura uci-na:-N　ari-ru　bu:　mata:　juciN-na:-N
浦　内　にも　ありぞ　居る。　また　ユチン　にも

aribu:munu:　mu:ru　me:　una:-N　kana:-N　o:ri-ru
ありをるのに，　みんな　もう　ここにも，　あそこにも　おられ

sumu:　ure:　(kaN)　kwaN-da:　me:　(pai)　paisa:　atai
ますのに，　それは　官から　もう　早く　与えて

o:ri:　bure:　mi:　hudaniN-Q,ti　si:-jo:　zju:go:
おられて　いた　だろう。　納税者　と　言ってね，　十五才に

naruka:-jo　midumu:N　(bi: e:)　midumuNke:　jataN-tiN
なるとねえ，　女　も　女たちで　あっても

ta:-ja　zi:-ja:　aro:Q,taN-co:　bataso:Q,taN-co:
田は，　土地は　あられたそうだ。　渡されたそうだ。

zju:go:-ra　uNta:　hudaniN-Q,ti　si:-jo:　bataso:ri:
十五から　上は，　納税者　と　言ってね，　渡される

be:ti:　be:-nu:　aQ,pa-jo:　aQ,pa ta:　zi:-ja:　ku:ra-Q,tu:
ので　家の　おばあさんねえ，おばさんたちは，　土地は　久浦と，

apata:-ma:ki-ru:　zi:-ja　atai　o:Q,ta-Q,co:
おばあさんたちまでが　土地　は　与えて　おられたそうだ。

bataro:-Q,ta-tu-Q,co:　apata:　sire:　me:　nakasike:
渡られた　そうだ。　おばさんたちの　同輩は　もう，　仲底の

abu-Q,tu:　be:　aQ,pa-tu:　ateNma:-tu:　uhuta-N　ja:-nu
お母さんと，家の　おばあさんと，　アテンマ　と　太田の　家の

abu-tu:　uQ,ca:-jo:　uQ,ca-N　baki:buN-ma:　mu:ru:
お母さんと，その人たちはねえ，その方たちも，　分け前　は　みんな

nakasi:-N　ma:N-na:　aru:　ku:ra:-ra:　iNta-na:
仲石の　あたりに　ある。　久浦から　西の方に

aru:　ta:zi:　ta:zi:-Q,ti:　mu:ru:　aro:ruN-jo:
ある。　誰の土地，　誰の土地と　言って，みんな　あられますよ。

be:　patuma-na:　sukuribu:　ta:-juN　e:　una:　manama:
我々の　旭間に　作っている　田も，　そこに　今

sukuribu:　ta:-na:-N　kure:　kanai zi:-Q,ti:　si:-jo:
作っている　田にも，　これは　上納田　と　言ってねえ，

kure:　kanaizi:　ta:　zi:　jaro:ru-da:　abuze:　zi:-da:
これは　上納田，　誰の　土地　であられるよ。　おじいさんの　土地だよ。

aQ,pa　zi:-da:-Q,ti:　muru　aro:ruN-jo:
おばあさんの 土地だよと言って，　みんな　あられたよ。

K　kanai zi:　sumo:　nu:-kaja:
上納田と　いうのは　何ですか。

O　ure:　me:　kisa:　guihu:　kai　nu:-N　kui-nu:
それは　もう　以前は　御用布を　こう，　何も　かもの

usamimu:-N　usami:　(N:)　kanai-Q,ti　si:　me:
納めものも　納め　“上納”と　言って　もう

jakuba:-ra:-nu:　aQ,ti-gera　me:　ati　me:　ube:　me:
役場からの　割り当て物さ　もう，割り当て　もう，それだけは　もう

(waki N:)　mana-N puso:　nu:-Q,ti　su-wa:　ai:　mu:ru:-ni:
今の人は　何と　言うか，そのように　みんなに

Q,fO:ru　mu:-gera　me:　uri:　(amu)　unu:
与えられる　ものさ，　もう，　それを　その，

kanai zi:-Q,ti:　so:Q,ta-ru:　N:　tusinu　gju:sa
上納田　と　言われた。　年が　いくつに

naruka: kanaizi:-ja: kuma-ja: ta: midumu-N mo: ta:
なると, 上納田 は ここは また 女のものは (は) また

bikidumu-N mu-Q,ti si:-jo: mu:ru ta: ai
男の ものと 言ってね, みんな また そのように

bako: Q,taQ,-co: niQ,tai-ru:-bukaN-na: aro:ru
分けられそうだ。 二反ぐら ずつ あられる

pusu:N ari: iQ,taN tara:N to:si: aru: ta:-juN
人も あり, 一反に 足りなくて, ある 田も

ari:bu:-da:
あったよ。

K ure: bikidumu: midumu-Q,ci: ta:-nu maisa:
それは 男 女 といって, 田の 大きさは,

O ta:-nu (nai) meNsekiN-du: kauru-ta-ju: ure:
田の 面積 が 変ったのか, それは

wakaranu: kuma-ja: ta: zi: kuma-ja: ta:zi:-Q,ti
わからない。 ここは 誰の 土地, あそこは 誰の土地と

si: mu:ru zi:-ja: me: zju:go-ra: uija: me: sigu
言って, みんな 土地 は もう 十五から 上は もう, すぐ

bataso: Q,taN-co: (aidu su unu: zju:go:-ra:)
渡されたそうだ。 (言いなおし)

zju:go: naru-ka: me: mukasi puso: guihu-Q,ti su:
十五に なると, もう, 昔の 人は, 御用布 (税) と いう

mu-nu are:-wa-na: kanai guihu-Q,ti sumu-nu:
ものが あったさねえ, 上納米や 御用布 と いうもの

are:N-da: uri: me: zju:go:-ra: me: muru uri:-N
があったので, それを もう 十五から もう みんな それも

jakuba: kama: kwaN usami:munu ari:-be:ti:-jo: ai
役場 あそこへ 官へ 納める物で あったのでねえ, そう

so:Q,ta-ti su: guihu:-N (so:Q,taN) so:Q,ta-Q,tu
なさったと いう。 御用布も なさったそうだ

su:　mata　zi:-juN　ta:　zju:go:-ra:　ai　(N:)
というまた，土地をも　また　十五から　そのように

na:me:me:-nu:　zi:-ja:　baki　Q,fo:Q,taN-Q,ti　si:　ta:zi:
各自　の　土地は　分けて　与えられたと　言って，誰の土地，

ta:zi:-Q,ti　muru:　aro:Q,taN-Q,ti　si　airu:
誰の土地といって，みんな，あられたと　いって　そのように

panaso:Q,taru:　baNta:　du:-nu　Q,se:ra-nu　kutu:
話されたよ。　私たちは，　自分が　知ってからの　ことでは

araN-wa:-na:　du:-nu　Q,si:　mire:-ti-nu　kutu:
ないさねえ。　自分が　知っていて　見ての　事では

ara-juN-da:　panasi　daki-du　sike:-ru　ai
ないので　話　だけが　聞いた。　そう

so:Q,ta-ti　si:
なさったと　言って，

K　una　kisa:　ta:　maci hune:-ra-ru:　gi:kai　so:Q,ta-ti
そこには，以前は　また，　松舟から　行き帰えり　なさったと

sunu:　wata:　Q,so:re:-ra:　maci hune:　ari:　o:-Q,ta:
いうが，貴方たちが　おわかりになってから，　松舟は　ありましたか。

O　baNta　Q,se:ra:-jo:　maci hune:-jo:　(N:)　be:-nu
私たちが　知ってからねえ，　松舟はねえ，　私たちの家の

sumu-nu　zo:-na:-ti:ru:　sukuro:re:-juN-da:-jo:　ure:
下の本家の　庭において，　作られたのだから，　ねえ，　それは，

daike-nu　huni:　jaQ,ta-kaja:　daike-nu　pusu-tu
大工家の　舟で　あったのか。　大工家の　人と

irabure-nu　pusu-tu:　panasike-nu　pusuto:　maci hune:
西原家の　人　と　花城家　の　人とは　松舟は

(N:)　ki:-ba　turo:ri:　puri-jo:　puriti　me:　nise:
木を　取ってこられて，堀ってね，　堀って，　もう，　北へ

pa.ja:　gi:　bataru:　si　o:ru　hune:　aQ,taN
南への　行き　渡りを　して　おられる　舟は　あった。

miQtaN-jo:　　baNta:　QseN-ra:　be:N　zo:-na:-ti:
見たよ。　私たちが　知ってから,　家の　庭　で

iQso:　sukuro:rari:　ure:　daike:　huni:　jaQta-ju:
一艘　作られ,　それは,　大工家の　舟で　あったのか,

irabure:　huni:　jaQta-ju:　wakaraN-cume:　zo:-na:
西原家の　舟で　あったのか,　わからないんですよ。　庭に,

be:N　zo:-na:-ti-ru:　kusai　hune:　sukuro:Qta:
家の　庭　で　(が)　こさえて,　舟は　作られた。

K　aiti　ubiQciN　hune:ma-na:　nu:siru　aini:　nu:si:
そして,　それぼちの　小舟　に,　どのようにして,そんなに,　どのようにして,

o:Qta-kaja:-nare:
行かれたのかねえ。

O　guQfa　bofu-ti　su:　huni-da-me:　airunu:　mukasi
重くて,　ボツンと　沈んでしまう　船ぢよもう。　そうだが,　昔の

puso:　me:　ube:　me:　nu:si:　o:Qtaju:　ure:
人は　もう　それだけはもう　どのように　おられたのか,　それは

kamisamaN-du:　sa:re:-ti:　o:ri:　bure:-ru:
神様　が　連れて　おられたのでしょう。

maci huni　mu:ru　si:ti-jo:　sigi huni-ti　sumo:-jo:
松舟を,　全部　やってねえ,　杉舟と　いうのはねえ,

sigihuni-ti　su:　hune:　(N:)　nakamukase:-ra-nu
杉舟　と　いう　舟は　中　昔　から　の

(tai)　taiso:　aranu　meizi:-nu　ju:-na:-ru　Nze:
大正　ではない,　明治　の　世において,　出は

se:-jo:　ure:　baNta:　munu:　se:-ra-ru:　(maci)
したよ。　それは　私たちが　何を　して後に

sigi huni-ti　sumo:　baNte　ubusike-nu　baNte
杉船　船　と　言うのは　私の家の,　大城家の,　私の

abuze:-ra:　sidaki:　sigi　huni:　kai　o:Qta-ti-da:
家のおじいさんから　最初に　杉　舟を　買わ　れたそうだよ。

kai o:ri-ti: uN-da: me: mu:ru bocobocu kai
買われて, それから もう みんな ぼつぼつ 買って

o:re:N-ti-na: (N:) maci hune:-ja: baNta:
おられたさねえ。 松舟 は 私たちが

Q,se:-ra:-ma:ki-N sukuri: nu:ri: o:Q,ta:
知ってからまで 作って 乗って おられた。

sukuro:Q,taN kuto: wakaruN unu sukuro:ru huniru
作られた ことは, わかる。 その 作られる 舟が

me: go:ra:-ja: takasuku jama saN-na:-jo: paita-N
もう 多くは 高底山 辺にねえ, 南風端の

jama-na:-ti: ubukize: si: naka pure: si:-ti-ru:
山において, あら削りを して, 半分堀りも して,

patuma: saNgi: sa:ro:ri ta: mata: kusai
旭間へ 引っぱって つれてこられ, また また こさえ

o:Q,ta-ti-da: huni sukuro:ru pusu: sugo: murazu:
られたそうだよ。 舟を 作られる 場合は, もう, 村中の人が

o:re:ti: sukuro:Q,ta-ti sunu:
来られて, 作られた と いう。

K takasuku suka: waQ,te-nu (N:) ta:-nu aN toN
高底山と 言うと 貴方の家の 田の ある所ですか。

O N: tumada-nu uNta-gera: uma-nu jama-na:-ti-ru:
ウン, 泊田の 上の方さ。 そこの 山において

uma:-ra:-ru: kisi: mace: kisi: uraso:Q,ta-ti si:
そこから (が) 切って 松は 切って 下ろされた と 言って

urasi o:ri: sukuro:Q,ta-ti si: baNta:
下ろして 来られて, 作られた と いう。 私たちは

guma:guma: seN keN-du: (N:) sukuro:Q,ta-ju: iramuti
幼少で あった 頃に 作られたのか, 西表の

puso:-ja: mu:ru unu huni dara: maci huni-da:
人は みんな その 舟 なんだよ。 松舟だよ。

mana:　sikiti-N　bu:　pazi:-da:　　na:na:　siti:-jo:
今に　　至るまでも　居る　はずだよ。　　長々と　してねえ。

N:　maci huniru:　iramuti　pusu-ma:ke:-ja:　minatu
　　松　舟　を　　西表　人までは　　港

batari:　jaru-wa-na:　tu:　batari:　araN-wa-na:
渡り　　であるさねえ，渡(海)　渡たりでは　ないさねえ。

minatu　batari:　me:　aso:ru-nu　patuma　puso:　me:
港　　渡たりは，もう，　なさるが，　鳩間　人は　もう

nise:　paja:-nu　tu:-juN　me:　ure:-ra:　bataro:　re:
北へ　　南へ　の　渡(海)をも　もう　それから　渡られた

sizi-gera:
わけ　さ。

注

P(1) 注 1. —nu は格助詞＜～の＞。

〃 注 2. icineNは共通語。鳩間方言ではpusutusi≪1年、ひと年≫という。

〃 注 3. —nuは格助詞＜～が＞。主格を示す。上接する語、bu:mu は、bu:munu ＜いるもの＞の略形。mu はいわゆる準体助詞＜～の＞にあたる。

〃 注 4. aro:ruはaN ＜有る＞の連体形aruの敬語。

〃 注 5. —kajaは疑問の終助詞＜～か（ねえ）＞の意。普通はru ≪ぞ≫の結びの連体形に接続するが、aro:ruN kaja:のように終止形にもつく。また、ぞんざいに発音されるとkja: となり、若年層に多く使われる。

〃 注 6. —tiは接続助詞＜～と＞、引用してうける意。

〃 注 7. —baは意味を強める“強意”の終助詞＜～よ＞。

〃 注 8. wa:は人称代名詞。対称（二人称）の代名詞＜君＞の意。人称代名詞の体系は次のとおり。

〃 注 9. me:は間投助詞。

〃 注 10. —raは格助詞＜～から＞。動作、作用の起点を示す。

〃 注 11. 普通は他動詞pazimiruN ＜始める＞の敬語として“始める”主体の動作を直接に尊敬してpazimo:ruN ＜始められる＞があり、また自動詞“始まる”の状態を尊って言うpazimaro:ruN もある。“始まる”主体が非人格的なものであっても、それを崇敬する気持ちから言う。特にそれが神格的なものと関係する場合は、石木のようなものにも敬語を使う。

注 8.

			尊　　称	対　　等	卑　　称
一人称（自称）	単　　数		×	ba:　(baN)	×
	複数	聞き手を含む	×	be:　(be:ta:)	×
		聞き手を含まない	×	baNta:	×
二人称（対称）	単　　数		wa:	wa:	waNza
	複　　数		wa:ta:	wa:ta:	waNzaNme:
三人称（他称）	近　　称	単　数	kunu pusu	kuri	kuNza:
		複　数	kunu pusuNke:	kuQca:	kuNzaNme:
	中　　称	単　数	unu pusu	uri	uNza:
		複　数	unu pusuNke:	uQca:	uNzaNme:
	遠　　称	単　数	kanu pusu	kari	kaNza:
		複　数	kanu pusuNke:	kaQca:	(kaNzaNme:)
	不定称	単　数	ta:	ta:　(taru)	taNza:
		複　数	ta:ta:	ta:ta:(taQca:)	(taNzanume:)

注12. -wa-na の “-wa” は(1) nuNti kaku-wa＜なぜ書く(の)か＞のように疑問の終助詞として使われたり、(2) wa:-ra kaku -wa -na: ＜君から書くさ(よ)ねえ＞のように、念をおす意味のいわゆる間投助詞として用いられる場合もある。ここでは(2)の用例である。(1)の場合は、むしろ、副詞の呼応関係とみた方がよいと思われる。疑問の副詞 “nuNti” に対し、～ “wa” で呼応して一文が終止していると考えられる。

注13. unuは指示代名詞。中称のuri<それ>の連体格“その”の意。
なお、指示代名詞の体系は次のとおりである。

	場所	事物	方角	連体用法
近称	ここ kuma	これ kuri	ここへ kuma: kumaNta	この kunu , こんな kuNna , こんなの kaibuca
中称	そこ uma	それ uri	そこへ uma: umaNta	その unu / そんな uNna / そんなの aibuca
遠称	あそこ kama	あれ kari	あそこへ kama: kamaNta	あの kanu / あんな ※(uNna—kaNna) / あんなの aibuca
不定称	どこ ma:	(ziri)どれ nu:	どこへ ma: ta:NtoN	nu:nu どの (nu:ru) × どんなの nu:Qca

※連体用法の“あんな”に相当する語は実際には使われないが、たゞ、“uNna—kaNna”<あれやこれや>があり、kaNnaが畳語化して残っているだけである。たゞし、ここであげた近称、中称、遠称の区別は標準語のそれに対応させて示したゞけで、必ずしもそのように厳密にわけて使うのではない。むしろ、近称、中称は用法上からは漠然としていてはっきりしない。

注14. kari ≪あれ≫ + ja ≪は≫ が融合して→ kare: となる。(—see 注13)

注15. “ru”は係り結びの助詞で“—ru(du)” ～“—u”と係り結ぶ。

注16. sinakazi—go:kaziで畳語。“種々、品々、いろいろなもの”の意。 ≪品数、具数？≫

注17. 一人称代名詞。(—see, 注8)。

注18. ja <は>は係助詞。ある事物を他と区別してとり出して言う。

注19. pusuNkeN ≪人たち≫、—keNは—ke: と同様、複数の接尾語。

注20. bu:—juN—da, “bu:”は≪居る≫の連体形。“juN”は≪わけ≫“da”は≪～だから≫。たゞし、この“da”は上接する語とのアクセントの関係により、次のように意味が異なる。

(イ) ⌊kakuN—da　≪書くんだから、書くのだから≫

(ロ) kakuN—⌜da　≪書くよ≫

注21. “co:”は念を押す意味の終助詞。この助詞も上接する語とのアクセントの関係により、次のように意味が異なる。

(イ) ⌊kakuN—co:　≪書くそうだ≫、伝聞の意味。

(ロ) kakuN—⌜co:　≪書くよ、書くさ≫。念を押す意。

注22. “o:”は尊敬語＜はい＞の意。対等の者に対しては普通N:といい、目下の者にも同様に言う。

注23. “gi:”には(イ)≪行って≫、(ロ)≪時が移って≫の意があるが、ここでは(ロ)の意。

注24. “so:zi—N”≪お祓いごと（精進）も≫。so:ziは身を清めて神々に祈願をする神事を言い、豊年予祝祈願の一種のマジナイゴトである。鳩間島では旧暦4月に行われる“浜下りソージ”が有名であり、それは稲穂に関する祈願を行うものである。

注25. aQpata:-ni ≪司の祖母たちに≫, aQpaは普通の親族語としては、(イ) ubo:Qpa:　≪大きい（最年長の）祖母≫

(ロ) naka:Qpa:　≪中の　祖母≫

(ハ) aQpama:　≪小さな（最年少の）祖母≫の区別があって、平常はegoを中心にして、それぞれの関係を示す語を使用している。これらとは別に、島の“司”に対してもaQpaと言い、ここでは、神事に従事する“神司”の意味で使っている。

注26. —baは(イ)tanamo:ruba ≪たのまれるのであるから≫, (ロ)tanamo:raba ≪たのまれたら≫, (ハ)tanamo:re:ba ≪たのまれたので≫のように上接する活用語の語幹部がア段、ウ段、エ段のいづれかに

よって、(イ)確定条件。(ロ)仮定条件。(ハ)確定条件　となる。

注27. kaija:ro:ruは形容詞の連体形kaijaru の尊敬語。

注28. Qsaro:ruN はQsaruN ≪申し上げる≫の尊敬語。QsaruNは謙譲語であるが、ここではQsaruN ところの主体の行動を、話者が直接に尊敬して言っている語である。

注29. “mu:”は mu:ru ≪皆≫のぞんざいな言い方。

注30. uNda—ru, uNは≪その時≫の意。—daは≪～から≫の意。dとrは自由変異の関係にある。動作、作用の時間的起点を示す。

注31. aibuca—N ≪そんなのも≫。(—see 注１３)。

注32. 人称代名詞。(—see 注８)。

注33. maizuni ≪前そね≫地名。鳩間島は周囲を珊瑚礁に囲まれていて魚貝類を多く産する関係上、島民の生活にも密接に結びついており、場所によって、それぞれ名がつけられている。“前そね”は丁度島の前方に発達したリーフのことである。鰹のエサがよく取れる。また東南の方にはtakabi ≪たか干瀬≫、南西の方にはku:sibi: ≪クーシ干瀬≫がある。

注34. pamazaki≪浜崎≫地名。干潮時に島の東南の海岸から沖へと長く延びる白洲一帯を言い、鳩間島の民謡“前ぬ浜”にも謡われている所である。満潮時には鰹のエサ“zako:”≪雑魚≫が群遊し、それを追って白サギが飛びかい詩的景観をかもし出す。

注35. kamisimiは≪神酒(ミキ)をいただいて、飲みほす≫ことを言う。これには、その他に(イ)ひき臼の上歯と下歯がよくかみ合って物をよくくだく。(ロ)頭上にものを乗せる。(ハ)～に向いて行く等の意味がある。

注36. iNta:は≪西の方≫の意。—ta: は方向を示す接尾語。≪～方≫≪～の所≫の意。

注37. sinanu—miN は≪綱の耳≫。豊年祭のとき第２日目に行われる大綱引きの綱を結び合わせる所。

注38. ju:agi ≪世（幸）を招来する儀式≫。豊年祭の当日（第1日）にはハーリー竜船が行われるが、伝承によると、それは海幸を招来し、豊作を予祝するために行われる儀式であるという。そのはハーリー竜船の行われるときに歌われるのが、いわゆる“ユーアギジラマ”である。

注39. so:raN—ma: ≪お盆は≫。—ma: は係助詞 ja ≪～は≫の異形態である。鳩間方言では、たとえば次のように

(イ) kaNgaN ≪鏡≫ + ja ≪～は≫ → kaNgaN ma:

(ロ) huN ≪釘≫ + ja 〃 → hun—ma:

(ハ) tiN ≪天≫ + ja 〃 → tiN—ma: のように語尾が撥音 N で終る場合、それに接続する係助詞 ja ≪～は≫は、—ma: に変わるという法則が認められる。

注40. murumuruはお盆に使う木々の実。鳩間ではアダンの実、バンザクロー、野ブドウなどのように、食べられる木々の実を仏前に供えることが、祖霊に対する孝行と考えられている。

注41. una: ≪おのれ≫、再帰代名詞的用法。ここでは話題の人物“弟”をさしている。なお、卑称としてはunaNza: ≪おのれ野郎≫がある。

注42. kau—wa ≪線香は≫。—waは係助詞 ja ≪～は≫の異形態。鳩間方言では、／cv'v／ の音節構造をもつ語の／v'v／ が／a'u／ の場合、たとえば次の(イ)～(ホ)の例

(イ) sau ≪さお≫ + ja ≪～は≫ → sau—wa(:)

(ロ) tau ≪くぼ地≫ + ja 〃 → tau—wa(:)

(ハ) zau ≪栓≫ + ja 〃 → zau—wa(:)

(ニ) au ≪伴、つれ≫ + ja 〃 → au—wa(:)

(ホ) bau ≪棒≫ + ja 〃 → bau—wa(:) のように、ja ≪～は≫が“—wa”となる法則を認めることができる。

注43. NkisasuNda ≪召しあがらせるのだから≫。Nkiは Nko:ruN

≪召しあがる≫のいわゆる連用形で、QfuN ≪食う≫の尊敬語。—sasuN ≪させる≫は使役の助動詞。ここでは話題の人物の“食べる”という動作に対して、話者が敬意を払いつつ、それに使役の助動詞を接続させて他動詞化している。

注44. be:≪吾々（聞き手を含む）≫。（—see 注８）。一人称複数代名詞。

注45. 標準語。鳩間方言では ja:diN という。

注46. 人称代名詞（一人称、複数、聞き手を含まない）。（—see 注８）。—Nは、係助詞≪も≫。ある１つの事実をあげて、同様のおもむきのあることを示す。

注47. masikazi≪田ごとに≫。masi は田地の数詞で、pusumasi ≪１マス（１枚）≫、hutamasi≪２マス（２枚）≫のように言う。“kazi”は≪～の数、～ごと、～全部≫の意。

注48. “sidimizi”は≪わか水≫、sidi は動詞“sidiruN”≪孵でる≫の連用形。

注49. ja:は“jana” ≪悪い、ひどい≫の略形。

注50. 〔gjogjo:〕≪漁業≫、標準語、鳩間方言では(イ)〔umi—waza〕≪漁業一般≫、(ロ)〔iso:〕≪干瀬における潮干狩≫などがある。

注51. 〔saisjo:〕≪最初≫、標準語、鳩間方言では、〔padzumi:〕〔padzimi〕≪はじめ≫という。

注52. 〔hazumi:〕は、〔hazumi:〕,〔hazimi:〕≪はじめ≫のこと。

注53. 〔go:do:〕≪合同≫、標準語。鳩間方言では〔ma:zuN〕≪一緒に≫,〔gu: siti:〕≪偶を作る≫などがある。また〔bako:〕といって家造りの際合同して、山に入り、材木を切り出す作業もある。

注54. 〔nigo:〕≪二号≫≪漁船の名≫、

注55. 〔kumiai〕≪組合≫標準語、これを意味する鳩間方言はない。

注56. 〔sono:〕≪その—≫、連体詞の「その」ではなく、ここでは間

投助詞的に使用している。

標準語の「その」。鳩間方言では〔unu:〕≪その一≫とか、〔una:〕≪その一≫という。

注57. 〔kaisaN〕≪解散≫標準語。鳩間方言では〔baQkurasuN〕≪ばらばらにする≫という。名詞は、〔baQkuri〕≪分裂≫。

注58. 〔saNzo:〕≪三艘≫標準語。鳩間方言では〔saNzu:〕という。

注59. 〔kabu〕≪株≫、標準語。これに相当する鳩間方言はない。ただし、〔kabusiNka〕≪株式の組合、株仲間≫は外来語として、方言化している。

なお、株式のように一定の金を出しあうことを〔nuka:suN〕という。

注60. 〔seNso:〕≪戦争≫、標準語。普通は、〔ikusa〕と言う。

注61. 〔taige:〕≪大概≫、標準語の訛ったもの。普通は〔ubukata:〕≪おうかた≫という。

注62. 〔zuQto〕≪ずっと≫(副詞)標準語。鳩間方言では、〔cja:〕≪ずっと継続的に≫(副)という。

注63. 〔to:site:〕≪通して≫標準語。鳩間方言では〔tu:siti:〕≪通して≫という。

注64. 〔saikiN〕≪最近≫標準語。鳩間方言では、〔cikaguru〕≪近ごろ≫、kunuguruse:ra≪このごろでは≫

注65. 〔nakaibu:saN〕≪仲伊部さん≫、固有名詞。標準語。鳩間方言では屋号〔ucine:〕≪仲伊部家≫という。

注66. 〔isigaki:〕≪石垣市(島)≫標準語。鳩間方言では〔isaNke:〕,〔isanaki〕という。

注67. 〔geNzai〕≪現在≫標準語。鳩間方言では〔manama:〕≪今≫という。

注68. 〔sinakakija:〕≪追い込み漁業≫、鳩間島の伝統的な漁業形態

の１つである。

注69. 〔koziN〕≪個人≫標準語。鳩間方言では〔na: me:mə〕≪各人≫。

注70. 〔naija:〕≪納屋≫標準語、外来語として方言化している。〔naja〕とも言う。

注71. 〔seizo:〕≪製造≫標準語、方言では〔si:zo:ja:〕となっている。

注72. 〔icio:〕≪一応≫標準語。

注73. 〔icigo:〕≪一号、漁船の固有名詞≫標準語。

注74. 〔kedasiro〕≪慶田城家≫固有名詞、鳩間方言による屋号は、〔kaNzatuja:〕という。

注75. 〔sidai sidai ni:〕≪次々に≫標準語、鳩間方言では〔siNdai siNdai〕とか〔taQtaN〕≪だんだん≫という。

注76. 〔esa〕≪えさ≫標準語、鳩間方言では≪えさ≫のことを〔muN-dani〕という。たゞし、ここのところでは〔zako:〕≪雑魚≫をさしている。

注77. 〔sonohi:〕≪その日≫標準語。方言では〔uNnu piN〕≪その日≫という。

注78. 〔soreni joQte:〕≪それによって≫標準語、方言では〔uN na: tiN〕≪それによっても≫という。

注79. 〔hito ami huta ami〕≪一網二網≫標準語。方言では〔pusu hukuru huta hukuru〕≪網一ふくろ、二ふくろ≫という。

注80. 〔icinici kakaQtemo torenai〕≪１日かかっても取れない≫標準語。鳩間方言では〔pusui pi:zu kakaru-baN turaranu〕≪１日中かかっても取れない≫という。

注81. 〔kiNkai〕≪近海≫標準語。方言では〔kusi:〕≪後の海≫という。

注82. 〔nikwai〕≪２回≫標準語。方言では〔hutamusi〕≪２回≫と

いう。特にカツヲ漁のときは〔huta kabu〕という。〔kabu〕は数詞。

注83. 〔zsosite:〕≪そして≫標準語。方言では〔asiti:〕≪そして≫という。

注84. 〔subete:〕≪すべて≫標準語。普通方言では〔subitti:〕という。

注85. 〔hucu: ja〕≪普通は≫標準語。方言では〔iciN ma:〕≪いつもは≫という。

注86. 〔mainici〕≪毎日≫標準語。方言では〔pi:zuN〕≪いつも≫、〔pi:N pi:N〕≪日々≫という。

注87. 〔hukuro:ami〕≪袋網≫標準語。方言では〔hukuru aN〕≪袋網≫という。

注88. 〔ame:〕≪網は≫標準語の訛ったもの。方言では〔aN-ma:〕≪網は≫という。

注89. 〔esatori〕≪餌取り≫標準語。方言では〔zako: turi〕≪雑魚取り≫という。

注90. 〔zjo:tai〕≪状態≫標準語。方言では〔jo:si〕≪様子、状態、状況≫という。

注91. 〔ukiwa:〕≪沖（漁場）を≫、〔wa:〕は実は〔ba:〕と発音されるべきところであるが、ぞんざいな発音をすると〔wa:〕となることもある。

注92. 〔himicuni:〕≪秘密に≫標準語。方言では〔QsaNko:ra: si:〕≪知らぬふりをして≫という。

注93. 〔otagai ni:〕≪お互いに≫標準語。方言では〔na: tara:si tara:si se:ti〕≪足りないところはお互いに補いあって≫のように言う。

注94. 〔aizi ta:〕≪そして、また≫、〔aizi〕は〔ai siti:〕≪そうして≫のぞんざいな発音。

注95. 〔tori maki〕≪鳥の群れ≫、方言で正しくは〔turu maki〕

≪鳥の群れ≫という。

注96. 〔cikajori ki:ti:〕≪近寄って来て≫標準語。方言では〔ju:zi kuN〕≪寄って来る≫という。

注97. 〔seiN do:si:〕≪船員どうしで≫標準語。方言では〔siN-kaNke: na:ri:〕≪船員たちどうしで≫という。

注98. 〔sureNmuN〕≪標準語の訛ったもの≫方言では〔uri:N〕≪それも≫という。

注99. 〔do:sitemo〕≪どうしても、なかなか≫標準語。方言では〔musitu〕≪ちっとも、どうしても、なかなか≫という。

注100. 〔aNmari:〕≪さほど≫標準語。方言では〔naNzo:〕≪さほど～(ない)≫を多く使用する。

注101. 〔gizicu:〕≪技術≫標準語。

注102. 〔saisjo:〕≪最初≫標準語。

注103. 〔tumu nu miN〕≪艫(船尾)の方にあって、帆の縄を掛けておく所≫

注104. 〔ba:i ja:〕≪場合は≫標準語。方言では〔~piN-ma:〕≪～のときは≫という。

注105. 〔saNsuiki〕≪散水器≫標準語。

注106. 〔ko:ka:〕≪効果≫標準語。

注107. 〔kosjo:darake:〕≪故障だらけ≫標準語。

注108. 〔na:Nkwai-juN〕≪何回も≫標準語。方言では〔gju:musi-juN〕≪いく度も≫という。

注109. 〔oiru:〕≪オイル≫

注110. 〔zi:saN〕≪ぢいさん≫標準語。ここでは固有名詞として使用されている。宮良長康氏のこと。

注111. 〔mo:ta〕≪モーター≫

注112. 〔zuQto〕≪ずっと≫標準語。方言では〔ka:ma〕≪ずっと、

はるか≫という。

注113. 〔hitoto:ri〕≪一とうり≫標準語。方言では〔pusu tu:ru〕≪一とうり≫という。

注114. 〔ubuQkaru〕≪太陽≫、〔ubu〕は〔ubusaN〕≪大き≫（形容詞）の語幹で、それに〔akaru〕≪光、明り≫または〔garu〕≪明り≫が複合して出来た名詞。

注115. 〔nabisike:〕≪鍋置≫、〔sike:〕は物が倒れないようにして置くために、ワラや茅などを束ねて、それを円く編んだもの。頭上に物を乗せて運ぶときにも用いる。

注116. 〔ibira〕≪飯べら、しゃもじ≫、普通の「シャモジ」よりも長く、約40cm程度のもの。イモを煮て、イモダンゴを作るとき、イモを捏ねるのに使う。

注117. 〔kinodokuni〕≪気の毒に≫標準語。鳩間方言では〔kimui-ca:〕という。

注118. 〔osime:〕≪おむつ≫標準語。鳩間方言では〔sibisike:〕という。≪尻り当て≫の義か。

注119. 〔baro:Qta〕≪割られた≫、剃刀で軽く背中や額を切り、血を出すこと。高熱を発した場合に、引きつけを起こさせないためといって、よく行なわれていた。

また高血圧の人などは〔bu:bu〕とか〔o:bu〕とか言って、度数の高い酒を竹筒に入れ、火をつけて、背中などに剃刀で軽く切った上に乗せて、血（汚れた血だと考えられている）を吸い出す方法を使うこともあった。

注120. 〔ma:basa〕≪芭蕉≫、芭蕉には実の成るものと、実の成らないものがある。ここでは、実の成らない、芭蕉布を作るときに繊維を取る芭蕉の事をさす。

注121. 〔akacaN〕≪赤ちゃん≫標準語。鳩間方言では〔agaQfa:ma〕

≪赤児≫という。

注122. 〔nakunaru〕≪死ぬ≫標準語。鳩間方言では、大人に対しては〔ma:rasuN〕、子供に対しては〔bura:NnaruN〕と言っている。

注123. 〔haco:hu:〕≪破傷風≫。鳩間方言では〔ho:ja:〕といっている。

注124. 〔uro:rabaN〕≪おられても≫。普通は〔o:rabaN〕という。

注125. 〔sarai〕≪さらう≫。産後の後産を残らずきれいに出すこと。

注126. 〔aiti:〕≪それで≫、〔aija:ti〕≪それだから≫の意で、ぞんざいな発音で訛っている。

注127. 〔tuja:se:ti:〕≪調合して≫、漢方薬で、幾種類かの薬草などを混ぜて煎じ薬を作ること。

注128. 〔jabu〕≪漢方医≫、漢方医の心得のある者をさして言う。へたな医者という意味ではなく、〔isa jabu kakari jaNmai no:suN〕≪医者、ヤブにかかって病気を治療する≫のように、医者とヤブは対語的に使われる。

注129. 〔kurusato:〕≪黒砂糖≫。鳩間方言では普通〔Qfu sata〕という。

注130. 〔kuro:kuro:siti〕≪黒々として≫標準語的、鳩間方言では〔Qfo:Qfo:siti:〕という。

注131. 〔panakiN〕≪木綿着物≫、木綿のことを〔bata〕ともいう。〔icukiN〕は≪絹織物≫。

注132. 〔baso:kiN〕≪芭蕉着≫、普通は〔basakiN〕という。

注133. 〔wakarikara:〕≪わかってから、もの心ついてから≫、普通は〔Qse:ra〕という。

注134. 〔hutoN〕≪布団≫標準語。鳩間方言では〔udzu〕という。

注135. 〔patuma: te:〕≪鳩間で≫、〔patumana: te:〕の誤り。

注136. 〔ozi〕≪叔父≫標準語。鳩間方言では〔budzasa〕,〔budzama〕

といい、≪叔母≫のことを〔buba:ma〕という。

注137. 〔zo:to:〕≪上等≫。人頭税時代の田地は、上田、中田、下田と区別されていた。上田のことを〔kanaidzi:〕≪肥沃な土地≫という。それに対し、≪痩せた土地≫を〔pagidzi:〕という。

注138. 〔iNdamura〕≪伊武田村≫、西表島の北端、鳩間島の東南約6㎞の地、ここは鳩間島の田小屋のあった所。

注139. 〔ku:ra〕≪久浦≫地名、伊武田村の西側の水田地帯で、鳩間島の人々の所有田が多い。

注140. 〔jusikira:〕≪与志喜良≫地名。伊武田と赤離の中間にある水田地帯。

注141. 〔ke:da〕≪慶田≫地名。大味謝川と慶田川の流域に広がる水田地帯で、与志喜良と伊武田の中間にある。

注142. 〔ni:ure:〕≪荷の積み下し場所≫。各水田地帯には、それぞれの荷物（稲）の積み下ろしをする場所がある。

注143. 〔si:baN〕≪牧場の番≫。伊武田の原野は放牧場であった。その猪垣の内を〔si:nu uci〕といった。そこで牧牛の管理をすることを〔si:baN〕と言う。

注144. 〔sumikumi:〕≪染めこむ≫。ここでは頭の中に刻みこんで覚える意。

注145. 〔ibatSi〕≪飯初≫、初穂で作った米の御飯。円錐形におにぎりを作る。

注146. 〔ozeN〕≪お膳≫標準語。鳩間方言では〔dziN〕≪膳≫という。

注147. 〔sira〕≪稲を穂積みにして保存するもの≫。稲を脱穀しないで、高倉式に積みあげ、長く保存するために作ったもの。

注148. 〔kanadziru〕≪金汁≫。苗代に水がなかったりすると、あるいは、その他の原因で、鉱物の溶出したような金汁が出て、苗代の苗が枯れることがある。

注149. 〔jamakabi〕≪山のように、髪やひげを伸ばすこと≫、草木が繁茂することを〔jamakabuN〕という。ここでは、そのように頭髪やひげが伸びることをさす。

注150. 〔karaso:raNseN〕≪刈らされなかった≫。普通は、頭髪などを刈ることを〔suruN〕≪そる≫といい、茅などにも同様に〔suruN〕を使う。しかし稲刈には〔maikaruN〕≪稲を刈る≫という。

注151. 〔hukada:〕≪深い田≫、モモの所まで、田の泥の中に入るような田をいう。その反対は〔gatada:〕という。

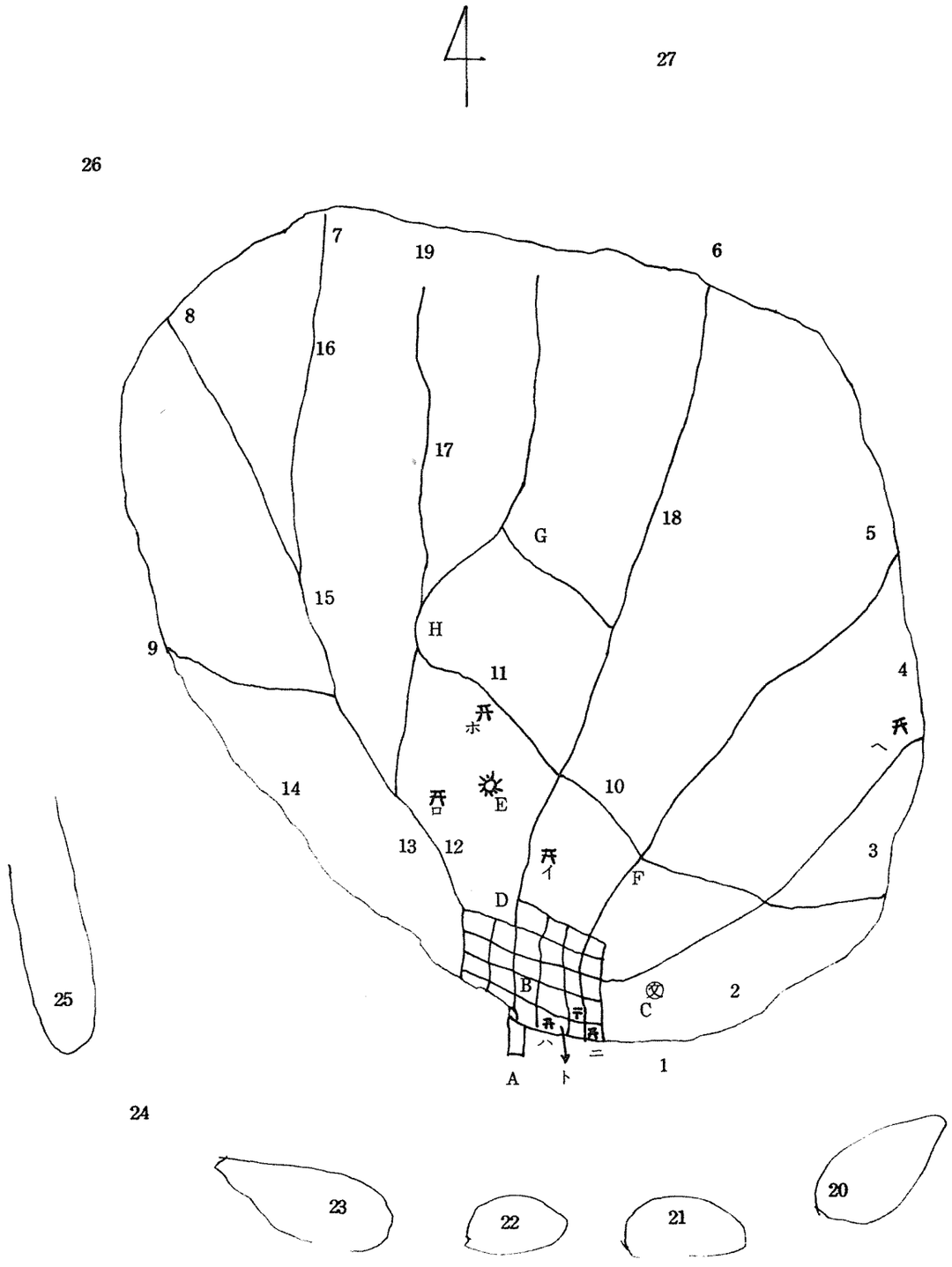
注152. 〔ki:pai〕≪木鍬≫、堅いカシの木で作った田鍬。畑で使うのは〔kanapai〕≪金鍬≫という。

注153. 〔kurubasa:〕≪大木の幹を約6尺ほどの長さに切って、歯車状に作り、木のワクに軸を通してはめ込み、引っぱって回転させ田を耕すに使う農具≫

注154. 〔huno:ru〕≪6尺ほどの円木舟の小さいものを作って、苗代田の地ならしの際、泥を運ぶのに使う農具≫

注155. 〔gusi〕≪酒≫、〔miki〕≪酒≫は、豊年祭などの神行事に使う。

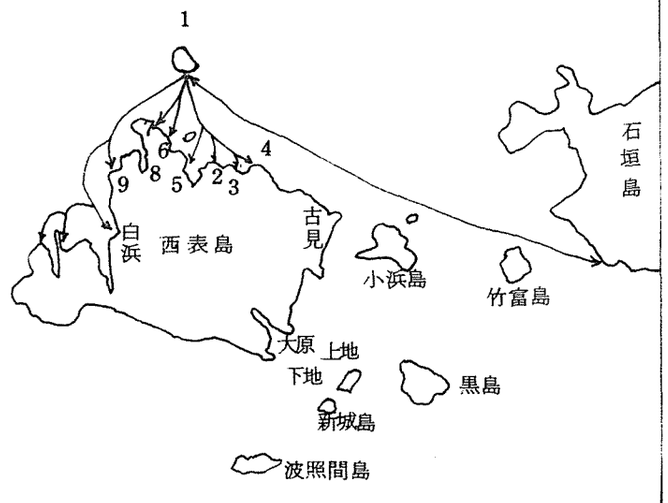
昔は若い女性が米を歯でかんで、それを発酵させて作った。



（ 鳩 間 島 略 図 ）

イ. uinu-ugaN （友利お嶽）
ロ. araka:-ugaN （新川お嶽）
ハ. mantanu-ugaN （ヒナイお嶽）
ニ. tabinu-ugaN （旅のお嶽）
ホ. nisido:-ugaN （西唐お嶽）
ヘ. hunabaru-ugaN （船原お嶽）
ト. saNsiki （桟敷）
A. 桟 橋
B. 村 中
C. 学 校
D. iNnuka: （西の井戸）
E. nakaNbure （中森）
F. aNnuka: （東の井戸）
G. uinuka: （上の井戸）
H. paciNgaka: （パチンガ井戸）
1. pamazaki （浜崎）
2. ubudumaru （大泊）
3. nararipama （ナラリ浜）
4. hunabaru （船原）
5. hukabaka （外バカ）
6. simanakapama （島中浜）
7. businuja: （武士の家）
8. tacibarupama （立原浜）
9. jaranupama （屋良の浜）
10. hukuNdo: （福堂）
11. nisido: （西堂）
12. ubumai （大前）
13. irakamai （イラカ前）
14. na:do: （長堂）
15. tacibaru （立原）
16. sakuraka （サクラ井戸）
17. nabaNdo: （ナバンドウ）
18. simanaka （島中）
19. sumusuku （下底）
20. takabi: （高干瀬）
21. a:rumaizuni （東前曾根）
22. nakanusuni （中の曾根）
23. i:rimaizuni （西前曾根）
24. iNtanuhuci （西の口）
25. ku:sibi: （クーシ干瀬）
26. huNsiki （フンシキ干瀬）

1. 鳩間
2. 伊武田，久浦
3. 泊田，慶田
4. ヨシキラ，崎田
5. 船浦
6. 上原
7. ウボー田（住吉）
8. 浦内
9. 西表，星立，租内



非　売　品

1973年1月

国立国語研究所　話しことば研究室　発行

115　東京都北区西ヶ丘3丁目9番4号